

令和3年度

植物防疫業務年報

長崎県農林技術開発センター
環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所)

目 次

病虫害防除所の機構と業務	1
令和3年の病虫害の発生状況	
1 病虫害の発生経過概要及び発生原因解析	3
2 発生面積及び防除面積	10
病虫害発生予察事業	
1 対象作物及び病虫害	13
2 発生予察調査	16
3 調査成績	
(1) 県予察圃場調査要領	19
(2) 県予察圃場調査成績	20
(3) 予察灯並びにトラップによる誘殺成績	33
(4) 巡回調査成績	37
(5) 病虫害防除員による調査成績	55
(6) その他の調査成績	61
4 発生予察情報の発表	70
5 特に問題となった病虫害の発生状況、原因解析及び防除対策	76
6 防除推進上の問題点及びその対策	92
7 検定結果	
(1) 薬剤抵抗性害虫検定	94
(2) ウイルス検定	99
8 病虫害診断	102
農薬安全使用対策事業	
1 農薬安全対策推進及び農薬危害防止等対策事業	109
植物検疫事業	
1 重要病虫害侵入警戒調査事業	
(1) ミバエ類等侵入警戒調査	111
(2) スイカ果実汚斑細菌病侵入警戒調査	113
(3) ウメ輪紋ウイルス(プラムポックスウイルス)の県内発生状況調査	114
(4) キウイフルーツかいよう病 Psa 3 の県内発生状況調査	115
(5) トマトキバガ侵入警戒調査	116
2 ジャガイモシストセンチュウ発生範囲特定調査	117
難防除病虫害防除技術確立事業	
1 トマト黄化葉巻病防除技術確立事業	118
令和3年長崎地方气象台・農林技術開発センターの気象表	120

病虫害防除所の機構と業務

1 名称及び所在地

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病虫害発生予察室
(長崎県病虫害防除所)

〒854-0062 長崎県諫早市小船越町3170

長崎県病虫害防除所が令和3年4月より農林技術開発センターに移管され、長崎県病虫害防除所の名称は残るが、業務は環境研究部門病虫害発生予察室が実施する。主な業務内容および所在地の変更はない。

2 業務

業 務
1. 病虫害の発生予察に関する事
2. 防除の企画及び指導に関する事
3. 農薬の安全使用に関する事
4. 病虫害の診断に関する事
5. 植物の検疫に関する事

3 機構

部門長(所長) — 室 長 —	普通作物	2名
	野菜・花き	2名
	果樹・茶	2名
	防除企画	1名
	圃場担当	1名(会計年度任用職員)

4 職員 (令和3年4月～4年3月)

部門長	草場雅彦
室 長	中村吉秀
専門幹	江藤博之
係 長	陣野桂子
係 長	大津礼子
係 長	竹邊 桂
係 長	副島康義
主任技師	古川 忠
技 師	稲丸和希
会計年度任用職員(現業)	大重義広(～6月) 中島正敏(7月～)

4 病害虫発生予察調査業務委託(旧病害虫防除員)委託内容一覧

調査地区名	委託農協名と実施部署	作物名(トラップ対象害虫名)
諫早市	長崎県央農協 南部営農センター	なし
諫早市	長崎県央農協 南部営農センター 小野支店駐在	フィロモントラップ(ハスモンヨトウ)
諫早市	長崎県央農協 南部営農センター 飯盛有喜支店駐在	きゅうり
諫早市	長崎県央農協 南部営農センター 高来支店	かんきつ
大村市	長崎県央農協 中部営農センター	いちご
大村市	長崎県央農協 中部営農センター	トマト
大村市	長崎県央農協 中部営農センター	水稻(コブメイガトラップ)
大村市	長崎県央農協 中部営農センター 大村北支店駐在	フィロモントラップ(ハスモンヨトウ)
雲仙市	島原雲仙農協 西部基幹営農センター 総合集荷場	フィロモントラップ(ハスモンヨトウ)
雲仙市	島原雲仙農協 北部基幹営農センター 瑞穂地区営農センター	かんきつ
雲仙市	島原雲仙農協 北部基幹営農センター 国見地区営農センター	いちご
南島原市	島原雲仙農協 南部基幹営農センター 北有馬地区営農センター	いちご
南島原市	島原雲仙農協 南部基幹営農センター	フィロモントラップ(ハスモンヨトウ)
南島原市	島原雲仙農協 南部基幹営農センター	トマト
南島原市	島原雲仙農協 東部基幹営農センター	なし
南島原市	島原雲仙農協 東部基幹営農センター	フィロモントラップ(果樹カメムシ)
川棚町	長崎県央農協 北部営農センター	アスパラガス
川棚町	長崎県央農協 北部営農センター	たまねぎ
佐々町	ながさき西海農協 北松営農経済センター	水稻(コブメイガトラップ)
平戸市	ながさき西海農協 平戸営農経済センター	いちご
五島市	ごとう農協 西部支店	水稻(予察灯)

合計 21 業務

令和3年(2021年)の病害虫の発生状況
1 病害虫の発生経過概要及び発生原因解析

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	平年:早 前年:早	平年:並 前年:前	・6月2半旬から発生を認め、一部多発圃場がみられたが、平年並の発生で推移した。		・プロベナゾール剤等の箱施用による防除
	穂いもち	平年:やや遅 前年:やや遅	平年:並 前年:やや多	・7月6半旬から発生を認め、一部多発圃場がみられたが平年並の発生であった。		・出穂期頃のフェリムゾン・フサライド剤、アゾキシストロビン剤等による本田防除
	縹葉枯病	平年:- 前年:-	平年:- 前年:-	・発生を認めなかった。	・ヒメトビウカ(RSV保毒率:0.2%)。	・ベンフラカルブ剤、ヒメトビウカ等の箱施用による防除 ・エトフェンブロックス剤、シラフルオフェン剤、ジノテフラン剤等による本田防除
	ヒメトビウカ	平年:並 前年:やや早	平年:並 前年:やや多	・5月5半旬から発生を認め、平年並に推移した。		・ベンフラカルブ剤等の箱施用による防除 ・エトフェンブロックス剤、シラフルオフェン剤、ジノテフラン剤等による本田防除
	萎縮病	平年:- 前年:-	平年:- 前年:-	・発生を認めなかった。	・ツマグロヨコバイのRDV保毒率が低かった(RDV保毒虫率:0%)。	
	ツマグロヨコバイ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	・本田では5月5半旬から発生を認め、平年並の発生で推移した。		・エトフェンブロックス剤、シラフルオフェン剤、ジノテフラン剤等による本田防除
	紋枯病	平年:やや遅 前年:遅	平年:やや少 前年:やや少	・7月6半旬と平年よりやや遅く発生を認め、平年よりやや少なく推移した。		・バリタマイシン剤、フルトラニル剤、アゾキシストロビン剤等による本田防除
	セジロウカ	平年:早 前年:並	平年:並 前年:やや少	・5月5日にネットトラップ(諫早市)で初確認し、初飛来としては平年より早かった。その後、7月2半旬、8月3半旬に平年よりやや多い飛来があった。 ・本田では5月5半旬から発生を認め、平年並の発生で推移した。		・エトフェンブロックス剤、シラフルオフェン剤、ジノテフラン剤等による本田防除
	トビロウカ	平年:早 前年:並	平年:並 前年:やや少	・6月3日に予察灯(諫早市及び佐世保市)で初誘殺を確認し、平年より早かった。その後、7月2半旬にやや少ない飛来がみられた。また8月3半旬に飛来を確認した。 ・6月6半旬に圃場での発生を確認し、発生圃場率、株当たり虫数ともに平年より多かったため、令和3年7月1日付けで注意報を発表した。7月前期までは平年よりやや多かったが、その後、平年並に推移した。		・エトフェンブロックス剤、シラフルオフェン剤、ジノテフラン剤等による本田防除
	コブノメイガ	平年:早 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	・6月2日にフェロモントラップ(諫早市)で初誘殺を確認後、主な飛来は7月2半旬で飛来量は平年よりやや少なかった。 ・6月5半旬から食害の発生を認め、発生圃場率、食害株率ともに平年並の発生で推移した。	・飛来量が少なかった。	
	イネクロカメムシ	平年:早 前年:並	平年:並 前年:やや少	・5月5半旬から発生を認め、平年並の発生で推移した。		・エトフェンブロックス剤等による防除
	イネミスゾウムシ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	・5月2半旬から発生を認め、平年並の発生であった。		・ベンフラカルブ剤等の箱施用による防除
	斑点米カメムシ類	平年:やや早 前年:並	平年:並 前年:並	・本田では7月2半旬から発生を認め、平年並の発生で推移した。	・雑草地における調査では平年並の発生で推移した	・圃場周辺の雑草除去 ・出穂期以降のエトフェンブロックス剤、シラフルオフェン剤、ジノテフラン剤、エチプロロール剤等による防除
普通期水稲	葉いもち	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	・7月2半旬に発生を認め、一部多発圃場が見られたが平年並で推移した。		・イソチアニル剤、トリプロカルブ剤等の箱施用による防除
	穂いもち	平年:早 前年:早	平年:やや多 前年:多	・8月6半旬から発生を認め、一部多発圃場が見られ平年よりやや多い発生であった。	・8月中旬の低温、多雨、霧日照	・出穂期頃のフェリムゾン・フサライド剤による本田防除
	縹葉枯病	平年:- 前年:-	平年:少 前年:並	・巡回調査では発生を認めなかった。	・ヒメトビウカ第1世代のRSV保毒率は平年並であった(RSV保毒虫率:0.2%)。 ・耕種的防除の徹底(水田耕起など)	・トリフルメゾピリム剤等の箱施用による防除 ・エトフェンブロックス剤、シラフルオフェン剤等による本田防除
	ヒメトビウカ	平年:やや遅 前年:並	平年:やや少 前年:やや多	・6月6半旬から発生を認め、平年よりやや少なく推移した。	・越冬量は平年並であった。	・トリフルメゾピリム剤等の箱施用による防除 ・エトフェンブロックス剤、シラフルオフェン剤等による本田防除
	萎縮病	平年:- 前年:-	平年:- 前年:-	・発生を認めなかった。	・ツマグロヨコバイのRDV保毒率が低かった(RDV保毒虫率:0%)	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
普通期水稲	ツマグロヨコバイ	平年:並 前年:やや早	平年:並 前年:やや多	・本田では6月2半旬から発生を認め、平年並の発生で推移した。		・トリフルメゾピリム剤等の箱施用による防除 ・エトフェンプロックス剤、シラフルオフェン剤等による本田防除
	紋枯病	平年:並 前年:やや早	平年:多 前年:やや多	・7月6半旬に発生を認め、8月下旬まで平年並で推移していたが、9月上旬以降は一部上位葉への進展が見られ多の発生で推移した。	・8月中旬の大雨と9月の高温	・フルトラニル剤、ベンシクロン剤、バリダマイシン剤等による本田防除
	セジロウカ	平年:早 前年:やや早	平年:並 前年:並	・5月5日にネットトラップ(諫早市)で初確認し、初飛来としては平年より早かった。主飛来は6月1半旬及び7月2半旬及び8月2半旬から8月6半旬で平年よりやや多い飛来量であった。 ・本田では7月2半旬から発生を認め、圃場では8月後期までやや少、9月前期以降は並の発生量であった。	・飛来量はやや多かったが、圃場での発生量はやや少なかった。	・トリフルメゾピリム等の箱施用による防除 ・プロフェジン剤、エトフェンプロックス剤、シラフルオフェン剤、ジノテフラン剤、スルホキサフロル剤等による本田防除
	トビロウカ	平年:早 前年:やや早	平年:やや少 前年:少	・6月3日に予察灯(諫早市・佐世保市)で平年より早い初誘殺を確認した。その後、7月2半旬に平年よりやや少ない飛来が見られた。また8月3半旬に飛来を確認した。 ・7月2半旬に巡回調査において圃場での発生を確認し、7月前期の発生圃場率・株当たり虫数は平年並であったが、7月後期以降どちらも平年よりやや少く推移した。	・飛来時期は平年より早かったが、飛来量はやや少なかった。	・トリフルメゾピリム等の箱施用による防除 ・プロフェジン剤、エトフェンプロックス剤、シラフルオフェン剤、ジノテフラン剤、スルホキサフロル剤、エチプロール剤等による本田防除
	コブノメイガ	平年:やや早 前年:やや早	平年:やや少 前年:少	・6月2日にフェロモントラップで初誘殺を確認し、7月2半旬から7月3半旬及び8月2半旬から8月3半旬にかけて飛来があり、平年よりやや少ない飛来量であった。 ・本田で7月上旬から食害の発生を認め、7月下旬から8月上旬にかけて、発生圃場率はやや高く推移したが、食害株率は平年よりやや低く推移した。	・飛来量が平年より少なかった。	・クロラントリニプロール剤の箱施用による防除 ・テブフェノジド剤、カルタップ剤等による本田防除
	斑点米カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	・圃場における発生は平年並の発生であった。	・8月上旬の雑草地における発生は、平年より少なかった。	・圃場周辺の雑草除去 ・出穂期以降のエトフェンプロックス剤、シラフルオフェン剤、ジノテフラン剤、エチプロール剤等による防除
	スクミリンゴガイ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや少	・移植直後、深水の圃場では被害がみられた圃場もあり、平年よりやや多い発生量であった。	・冬季の気温が高かった。	・メタアルデヒド剤等による本田防除 ・卵塊、貝の捕殺
麦	赤かび病	大麦:平年:- 前年:- 小麦:平年:やや遅 前年:やや遅	大麦:平年:少 前年:少 小麦:平年:少 前年:やや少	・大麦では発生を認めなかった。 ・小麦は5月5半旬から発生を認め、平年より少ない発生であった。	・大麦:3月中旬～4月中旬の降水量が少なく、連続降雨もなかった。 ・小麦:3月下旬～4月中旬の降水量が少なく、5月上旬まで連続降雨もなかった。	・開花盛期とその7～10日後の薬剤散布(チオファネートメチル、プロピコナゾール、メトコナゾール、テブコナゾール)
	うどんこ病	大麦:平年:- 前年:- 小麦:平年:やや早 前年:やや遅	大麦:平年:並 前年:並 小麦:平年:並 前年:やや多	・大麦では発生を認めなかった。 ・小麦4月3半旬に発生を認め、平年並の発生であった。		
	黒穂病	大麦:平年:- 前年:- 小麦:平年:- 前年:-	大麦:平年:やや少 前年:並 小麦:平年:やや少 前年:並	・発生を認めなかった。		・種子消毒(トリフルミゾール、ベノミル等)
	斑葉病	大麦:平年:- 前年:-	大麦:平年:少 前年:並	・発生を認めなかった。	・種子消毒の普及により近年減少傾向にある。	・種子消毒(トリフルミゾール、ベノミル等)
	アブラムシ類	大麦:平年:やや早 前年:並 小麦:平年:やや早 前年:並	大麦:平年:並 前年:並 小麦:平年:やや少 前年:やや少	・大麦:3月2半旬から発生し、4月前期まで広く発生は認められたが、その後1茎当たり虫数は平年並で推移した。 ・小麦:3月3半旬から発生し、その後広く発生は認められたが、1茎当たり虫数は平年よりやや少で推移した。		
	大豆	べと病	平年:早 前年:早	平年:やや多 前年:やや少	・8月2半旬から発生を認め、平年よりやや多い発生で推移している。	・8月中下旬の多雨
葉焼病		平年:遅 前年:遅	平年:やや多 前年:やや少	・9月2半旬から発生を認め、平年よりやや多い発生で推移している。	・8月中下旬の多雨	
ハスモンヨトウ		平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	・8月2半旬から寄生が見られたが、平年並の発生で推移している。		・クロラントリニプロール剤、エトフェンプロックス剤等による防除
鱗翅目幼虫		平年:早 前年:早	平年:やや少 前年:やや少	・7月6半旬からウババ類の発生を認め、平年よりやや少ない発生で推移している。		・ハスモンヨトウとの同時防除
吸蜜性カメムシ		平年:早 前年:早	平年:並 前年:並	・8月2半旬から発生を認め、平年並の発生で推移している		・エトフェンプロックス剤、ジノテフラン剤による防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ばれいしょ(秋作は20年植付)	葉巻病	秋作 平年: やや早 前年: - 春作 平年: - 前年: -	秋作 平年: 並 前年: - 春作 平年: 並 前年: -	秋作: 10月後期に発生を認めた。		・アブラムシ類の防除(予察情報に基づく適期一斉防除) ・種いも更新 ・野良イモ除去による圃場環境整備
	モザイク病	秋作 平年: やや遅 前年: やや遅 春作 平年: - 前年: -	秋作 平年: 並 前年: やや多 春作 平年: 少 前年: -	秋作: 11月前期に発生を認めた。		・アブラムシ類の防除(予察情報に基づく適期一斉防除) ・種いも更新 ・野良イモ除去による圃場環境整備
	疫病	秋作 平年: - 前年: - 春作 平年: - 前年: -	秋作 平年: 少 前年: - 春作 平年: 少 前年: -	ほとんど発生を認めなかった。	・降雨量が少なかったことで、発生が少なかった。	・マンゼブ、メタラキシル、ベンチアバリカルブイソプロピル、オキサチアピロリン剤等による防除 ・初発期予測モデル(FLABS)に基づく適期防除
	アブラムシ類	秋作 平年: やや遅 前年: やや早 春作 平年: 並 前年: 並	秋作 平年: 並 前年: やや多 春作 平年: 少 前年: 並	秋作: 10月前期から発生を認めたが、発生は平年並に推移した。 春作: 3月前期から発生を認めたが、平年より発生は少なかった。		・イミダクロプリド、ピリラルキナゾン、フロニカミド剤等による防除 ・黄色水盤トラップによる発生予察情報に基づく適期一斉防除
	ニョウバホシテントウ	秋作 平年: 遅 前年: やや遅 春作 平年: やや早 前年: 並	秋作 平年: 並 前年: 並 春作 平年: 並 前年: 並	秋作: 10月後期に発生を認めた。 春作: 3月後期に発生を認め、その後は平年並みで推移した。		・アブラムシ類との同時防除
	食葉性ヤカ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコカ)	秋作 平年: やや遅 前年: 並 春作 平年: やや遅 前年: 並	秋作 平年: 並 前年: やや少 春作 平年: 並 前年: 並	秋作: 10月前期から発生を認め、10月後期に一時平年より多かったが、概ね平年並みの発生であった。 春作: 5月前期に発生を認めた。		・ピリダリル、フルベンジアミド、エトフェンプロックス剤等による防除
冬春キュウリ	モザイク病	平年: やや早 前年: -	平年: 並 前年: 並	・12月に発生を認め、平年並で推移した。		・アブラムシ類の防除 ・発病株の除去
	斑点細菌病	平年: - 前年: -	平年: 並 前年: 並	・ほとんど発生を認めなかった。		・銅剤による防除
	べと病	平年: やや遅 前年: 遅	平年: やや多 前年: 並	・12月から発生を認め、平年並で推移したが、3月以降平年よりやや多で推移した。	・11～3月の高温 ・耐病性品種の導入により、発病初期の防除が遅れる傾向が一部にみられる。	・耐病性品種の作付け ・適正な湿度管理 ・マンゼブ、グロキチメチル、イソプロピル、TPN、シアゾファミド、シタモルブ、ホセチル等による防除
	褐斑病	平年: 遅 前年: 遅	平年: 少 前年: 並	・発生を確認できたのは、4月前半であった。	・薬剤防除の徹底 ・耐病性品種の作付増加	・耐病性品種の作付け ・シタモルブ、チオファネートメチル、プロシドン、TPN等による防除
	うどんこ病	平年: やや遅 前年: やや遅	平年: 並 前年: 並	・11月後期に発生を認め、平年並の発生で推移した。	・耐病性品種の作付増加	・耐病性品種の作付け ・フルチアニル、ベンチレラド、TPN、炭酸水素カリウム、メニコピリム、アゾキストロピン剤等による防除
	灰色かび病	平年: - 前年: -	平年: やや少 前年: 並	・ほとんど発生を認めなかった。		・適切な湿度管理 ・被害果の除去 ・プロシドン、メニコピリム、フルシオキニル、ベンチオピラド、イロジオン剤等による防除
	菌核病	平年: - 前年: -	平年: やや少 前年: 並	・ほとんど発生を認めなかった。		・適切な湿度管理 ・被害果の除去 ・灰色かび病との同時防除
	アブラムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: 並	・12月に発生を認め、平年よりやや多い発生で推移した。	・11月中旬、1月下旬～4月上旬の高温 ・ハウス外からの侵入	・定植時のネオニコチノイド系、シアミド系粒剤による防除 ・コナシラミ類、アザミカミ類との同時防除
	ミナミキロアザミカミ	平年: 遅 前年: 遅	平年: 並 前年: やや少	・1月から発生し平年並の発生で推移した。		・定植時のネオニコチノイド系、シアミド系粒剤による防除 ・エマメチン安息香酸塩、スビナド、ネオニコチノイド系剤等による防除 ・作付け終了後の施設内の蒸し込み ・スワルスキーカブリダニによる防除 ・防虫ネットによる侵入防止
コナシラミ類	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	・11月上旬から発生を認め、平年並の発生で推移した。		・定植時のネオニコチノイド系、シアミド系粒剤による防除 ・ネオニコチノイド系、トルフェンビド剤、シアトラニプロール等による防除 ・防虫ネットによる侵入防止 ・作付け終了後の施設内の蒸し込み	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
冬春トマト	モザイク病	平年：- 前年：-	平年：やや少 前年：並	ほとんど発生を認めなかった。		・発病株の早期抜取り ・アブラムシ類の防除
	黄化葉巻病	平年：並 前年：やや遅	平年：やや多 前年：並	・11月後期から発生を認め、1月には平年より多かった。	・育苗期における防除対策が不十分だった。 ・発病株の早期抜取りが徹底できなかった。 ・コナジラミ類防除が徹底できなかった。 ・11月中旬の高温	・発病株の早期抜き取り及びタバコナジラミの早期防除 ・定植時の薬剤処理や生育期の薬剤散布、ハウス開口部への防虫ネット設置や黄色粘着板の設置、作付け終了後のハウスの密閉蒸し込み
	疫病	平年：- 前年：-	平年：やや少 前年：並	ほとんど発生を認めなかった。		・TPN、シモキサニル、シアソファミド、マンジプロバミド、マンゼブ剤等による防除
	葉かび病	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：やや少	・5月前期に発生を認めた。		・換気や土壌水分管理、発病葉の除去及び圃場外への持ち出し ・ベンチビラド、TPN、アズキストロビン剤等による防除 ・抵抗性品種の作付け
	灰色かび病	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：やや少 前年：並	・3月に発生を認め、平年より少ない発生で推移した。		・フロピドン、ベンチビラド、フルシオトリコル、メニコピリム、トリフルカゾール剤等による防除 ・くん煙剤の利用 ・発病果・葉の除去と適正換気
	アブラムシ類	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：やや少	ほとんど発生を認めなかった。		・コナジラミ類との同時防除
	ハモグリハエ類	平年：- 前年：-	平年：少 前年：並	ほとんど発生を認めなかった。		・エマメクチン安息香酸塩、シロマジン、ネオニコチノイド系剤等による防除
	オオハコカ	平年：- 前年：-	平年：並 前年：並	ほとんど発生を認めなかった。		・クロラントラニプロール、トリダリル、スピネトラム、エマメクチン安息香酸塩、スピノサド、IGR剤等による防除 ・コナジラミ類との同時防除
	コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：並	・11月上旬に発生を認め、4月前期に増加し平年より多い発生で推移した。	・冬季が平年より温暖であったため、増殖に好適であった。 ・抵抗性品種の導入がすすみ、導入圃場においては防除に対する意識が低くなっている。	・定植時の薬剤処理や生育期の薬剤散布、ハウス開口部への防虫ネット設置や黄色粘着板の設置、作付け終了後のハウスの密閉蒸し込み ・トリダリル、トリフルカゾール、ネオニコチノイド系、スピネトラム剤等による防除
	いちご(本圃20年植付)	炭疽病	平年：並 前年：やや早	平年：並 前年：並	定植後から2月後期まで発生が見られた。	
萎黄病		平年：- 前年：-	平年：少 前年：-	巡回調査においてはほとんど発生を認めなかった。		・育苗、定植時健全株の選別の徹底 ・発病株の早期除去 ・ダズメット剤、クロルピクリン剤等による土壌消毒
うどんこ病		平年：- 前年：-	平年：- 前年：-	ほとんど発生を認めなかった。	・うどんこ病の耐性がやや高い品種「ゆめのか」作付け増加	
灰色かび病		平年：やや早 前年：やや早	平年：やや少 前年：やや少	11月前期から発生しが認められが平年に比べて発生はやや少なく発生は収穫終了まで見られた。	・年内は天候に恵まれ生育が良好であり、病害の発生は少なかった。年明け以降も降水量は平年より少なく、2月の天候不良で一時的に発生は平年並みに見受けられたが、期間を通じて発生は少なかった。	・花弁の除去 ・ハウス内湿度管理 ・被害果の除去 ・ベンチオピラド剤、イプロジオン剤、プロシミン剤、メバニピリウム剤、Qol剤等による防除 ・くん煙剤による防除
アブラムシ類		平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	定植後から発生が確認されたが、平年並みに推移した。		・ピメトロジン剤、フロニカミド剤、アセタミプリド剤等による防除
ハダニ類		平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや多	定植後から発生は多く、栽培終了まで平年を上回る発生となった。	・育苗圃からの持込 ・定植時期の降雨により薬剤防除効果が低下。	・ミルベメクチン剤、ビフルプロド水和剤、気門封鎖剤等による防除 ・アバメクチン乳剤、スピロテトラマト水和剤による定植前防除 ・天敵導入の拡大
ハスモンヨトウ		平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	定植後から食害の発生が見られたが、その後は平年並みに発生は少なくなった。		・クロラントラニプロール剤、フルベンジアミド剤、クロルフェナピル水和剤、トリダリル剤、エマメクチン安息香酸塩剤等による防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
いちご(育苗圃21年植付)	炭疽病	平年:やや遅 前年:やや遅	平年:やや少 前年:やや少	8月後期に発生が認められたが、その後の発生は平年より少なかった。	・6月以降は梅雨前線の影響を受けにくい気象状況が続き降雨量が少なかったことから、病害の発生は少なかった。	・早期発見、発病株の除去 ・高設育苗 ・育苗床全面マルチ被覆 ・雨よけ育苗 ・親株床の土壌消毒 ・ジエトフェンカルブ剤・チオファネートメチル剤、プロピネブ剤、有機銅剤、マンゼブ剤、フルジオキシニル剤等によるローテーション防除
	萎黄病	平年:- 前年:-	平年:- 前年:-	ほとんど発生を認めなかった。		・発病株の除去 ・ダゾメット剤、クロルピクリン剤等による土壌消毒
	うどんこ病	平年:並 前年:早	平年:並 前年:やや多	育苗初期から1品種で発生が認められた。		・古葉、罹病葉の除去 ・メバニピリム水和剤による防除
	輪斑病	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	5月後期に発生を認め、6月は平年を上回る発生が見られた。その後は平年並の発生で推移した。	・入梅が早く、5月の降雨量が平年の2倍と多く、病害の発生、拡大が進んだ。	・被害葉の除去 ・一部の炭疽病及びうどんこ病防除薬剤による同時防除
	アラムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	5月前期に発生を認め、平年並の発生で推移した。		・アセタミプリド剤、フロニカミド剤等による防除
	ハダニ類	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	5月前期に多発生圃場が見られたが、梅雨期間中は平年より少なく推移し、7月以降は再度発生が多くなり平年を上回った。	・前年産本圃からの持込と育苗初期の高温、少雨により多発生圃場が見られた。 ・薬剤感受性の低下	・ミルベメクチン剤、ピフェナゼート剤、エマメクチン安息香酸塩剤、気門封鎖剤等による防除 ・アバメクチン乳剤、スピロテトラマト水和剤による定植前防除
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:やや早	平年:並 前年:並	5月前期に発生を認め、平年並みの発生で推移した。		・ビリダリル剤、フルベンジアミド剤、クロラントラニリプロール剤、エマメクチン安息香酸塩剤等による防除
たまねぎ(20年植付)	白色疫病	平年:やや遅 前年:遅い	平年:並 前年:並	4月下旬に僅かに発生が見られた。		
	べと病	平年:並 前年:やや遅	平年:多 前年:やや少	1月上旬から発生が見られ、その後も増加傾向で発生圃場は拡大し、3月下旬の降雨により一気に感染が拡大し、発病株率は平年を大きく上回った。	1月の天候不良により早くから越冬罹病株の発病が見られ、1月下旬から2月中旬にかけて気温が高く、降水量も多く曇雨天が続き、べと病の発生に好適条件が平年より1か月程度早く続いたため本病の感染・拡大につながった。	・発病株の適正な処分等、時期ごとの防除対策について周知を図った。
	ボトリチス属菌による葉枯症	平年:並 前年:やや早	平年:多 前年:多	2月下旬から発生が認められ、その後も増加傾向で平年よりやや高くなった。	暖冬多雨	
	ネキアザミマ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:並	11月上旬の生育初期から発生が見られその後も増加傾向であったが、年明け以降は平年並みに推移した。		
	冬レタス	平年:- 前年:-	平年:少 前年:少	ほとんど発生が見られなかった。		
	腐敗病	平年:- 前年:-	平年:やや少 前年:並	ほとんど発生が見られなかった。		
	灰色かび病	平年:- 前年:-	平年:少 前年:少	ほとんど発生が見られなかった。		
	菌核病	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	11月から発生が見られ、12月に増加しやや多の発生であった。	・11月中旬の高温、降雨	
	オオカバコカ	平年:並 前年:-	平年:並 前年:やや多	10月前期に発生が見られ、平年並の発生であった。		
	ハスモンヨトウ	平年:やや早 前年:早	平年:やや多 前年:多	9月後期から発生が見られ、12月後期に増加し平年より多い発生であった。	・11月中旬の高温、11月下旬～12月下旬の少雨	
	アラムシ類	平年:やや早 前年:早	平年:並 前年:並	10月後期から発生が見られ、平年並みの発生で推移した。		

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
かんきつ	そうか病	葉 平年: やや早 前年: 早 果実 平年: やや早 前年: 並	葉 平年: やや多 前年: やや多 果実 平年: やや多 前年: やや少	・春葉では平年並の5月上旬から発生を認め、平年よりやや多い発生量であった。 ・果実では平年よりやや早い7月上旬に発生を認め、平年よりやや多い発生量であった。	・5月中下旬の多雨。	・イミペナゾール剤、ジチアノン剤、ベンチオピラド剤等による発芽期の防除 ・Qo ₁ 剤等による灰色かび病との同時防除
	かいよう病	葉 平年: やや早 前年: やや早 果実 平年: 並 前年: やや遅	葉 平年: 多 前年: 並 果実 平年: 多 前年: 並	・春葉では平年並の5月上旬から発生を認めたが、発生量は平年より多かった。 ・果実では平年並の7月上旬に発生を認め、発生量は、平年より多かった。	・秋季～冬季の高温で越冬病斑の発生が多く、伝染源が多かった。 ・5月中下旬の多雨。 ・8月上中旬の多雨。 ・台風の接近(9月中旬)による強風雨。	・無機銅水和剤による防除 ・発病枝葉の除去 ・防風対策の強化
	黒点病	平年: やや遅 前年: やや遅	平年: 並 前年: 並	・8月上旬から発生を認め、9月上旬まで平年より少なく推移したが、9月下旬以降発生が増加し、平年並の発生量となった。	・8月上中旬の多雨。 ・9月中旬の多雨。	・マンゼブ剤、マンネブ剤による防除
	ミカンハダニ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	・3月上旬から発生を認め4月までの発生は平年より多かったが、5月以降は平年並の発生量となった。	・5月中下旬の多雨。 ・8月上中旬の多雨。 ・台風の接近(9月中旬)による強風雨。	・冬季、夏季のマシン油乳剤による防除 ・8月下旬～9月上旬のピフルピド剤、シエノピラフェン剤等による防除
	ミカンザビダニ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	・年間を通じ平年並の発生量であった。		・ピリダベン剤等による防除、ピフルピド・フェニピロキシメート混合剤等によるミカンハダニとの同時防除
	チャノキイロアザミウマ	平年: やや早 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	・諫早市の黄色粘着トラップでは、平年よりやや早い16月1半旬に第2世代の発生ピークを迎え誘殺量もやや多かった。8月上旬の第5世代の発生ピークまで誘殺量は平年より多く推移したが、8月中以降は平年並～やや少ない誘殺量で推移した。 ・果実の被害は果梗部、果頂部とも平年並であった。		・クロルフェニル剤、ネオニコチノイド系剤およびシアントラニリブロール剤等による防除 ・光反射シートによる抑制
	カメムシ類	7月以前 平年: やや早 前年: 並 8月以降 平年: 並 前年: 並	7月以前 平年: 少 前年: 少 8月以降 平年: 少 前年: 並	・越冬虫の密度は過去10年間で最も低かった。 ・越冬世代、当世代ともにフェロモントラップ誘殺量は平年より少なく推移した。 ・ヒノキからは9月上旬ごろ離脱したとみられる。	・越冬世代は平年より少なく、ヒノキきゅう果の着生量も平年よりやや少なかった。	・合成ピレスロイド系剤、ネオニコチノイド系剤による防除
	マルカイガラムシ類	平年: 早 前年: 早	平年: やや多 前年: やや多	・年間を通じ平年よりやや多い発生で推移した。	・秋季～冬季の高温で越冬虫が多かった。 ・3月中旬～4月上旬の少雨。 ・6月下旬～7月下旬の少雨。	・冬季のマシン油乳剤、夏季の有機リン剤等による防除
びわ	がんしゅ病	平年: 遅 前年: 遅	平年: 少 前年: やや少	・発生量は平年より少なかった。	・前年の発生が少なかった。	・無機銅水和剤による防除
	灰斑病	平年: 遅 前年: 遅	平年: 少 前年: 少	・発生は6月上旬から発生を認め平年より少なく推移した。	・3月中旬～4月上旬の少雨。 ・6月下旬～7月下旬の少雨。	・春葉及び夏葉伸長期の銅・カスガマイシン剤による防除 ・開花期のイミノクタジナルベシル酸塩剤等による防除
	ナシヒメシンクイ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: やや少	・巡回調査では発生を認めなかった。 ・フェロモントラップによる誘殺量は、平年並～やや少なくな推移した。		・カルタップ剤による防除
	カメムシ類	平年: やや早 前年: やや早	平年: 少 前年: 少	・越冬虫の密度は過去10年間で最も低かった。 ・フェロモントラップによる誘殺量は平年より少なく推移した。	・越冬量が平年より少なかった。	・合成ピレスロイド系剤、ネオニコチノイド系剤による防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
なし	黒星病	平年:早 前年:早	平年:並 前年:並	・4月上旬に初発生を確認し、5月までは平年よりやや多い発生であったが、その後は平年並の発生で推移した。	・6月下旬～7月下旬の少雨。	・ジフェノコナゾール剤、イミノクタジナルベシル酸塩剤、Q01剤等による防除
	赤星病	平年:やや早 前年:やや早	平年:並 前年:やや少	・4月上旬に初発生を確認し、5月までの発生は平年よりやや多かったが、その後は平年よりやや少なく推移した。		・DMI剤による防除
	うどんこ病	平年:遅 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	・期間を通じて平年よりやや少ない発生であった。	・6月下旬～7月下旬の少雨。	・DMI剤等による防除
	ナシヒメシクイ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	・巡回調査では発生を認めなかった。 ・フェロモントラップによる誘殺量は、平年並～やや少なくな推移した。		・ネオニコチノイド系、合成ピレスロイド系剤による防除
	ハダニ類	平年:並 前年:並	平年:多 前年:多	・5月下旬に発生を認め、平年よりやや少なくな推移した。		・ピフルブミド剤、シエピラフェン剤等による防除
	カメムシ類	7月以前 平年:やや早 前年:並 8月以降 平年:並 前年:並	7月以前 平年:少 前年:少 8月以降 平年:少 前年:並	・越冬虫の密度は過去10年間で最も低かった。 ・越冬世代、当年世代ともにフェロモントラップ誘殺量は平年より少なくな推移した。 ・ヒノキからは9月上旬ごろ離脱したとみられる。	・越冬世代は平年より少なく、ヒノキきゅう果の着生量も平年よりやや少なかった。	・合成ピレスロイド系剤、ネオニコチノイド系剤による防除
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	・4月上旬に発生を認め、平年並の発生で推移した。		・ネオニコチノイド系剤等による防除
茶	炭疽病	平年:やや早 前年:やや早	平年:やや多 前年:やや多	・5月下旬に発生を認め、平年よりやや多い発生で推移した。	・5月中下旬の多雨。 ・8月上中旬の多雨。	・DMI剤等による防除
	チャノコカクモンハマキ	平年:並 前年:やや遅	平年:多 前年:やや多	・フェロモントラップ(東彼杵)の誘殺数、圃場での巻葉数とも平年より多い発生で推移した。	・冬季の高温により越冬虫が多かった。 ・6月下旬～7月下旬の少雨。	・エマメクチン安息香酸剤、有機リン系剤、IGR剤、ジアミド系剤による防除
	チャノホソガ	平年:早 前年:早	平年:並 前年:並	・フェロモントラップ(東彼杵町)の誘殺は、3月中旬から認められ、平年並の誘殺量で推移した。圃場での巻葉数とも平年並の発生で推移した。		・チャノコカクモンハマキとの同時防除
	チャノミドリヒメヨコバイ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	・期間を通じて平年よりやや多い発生で推移した。		・ネオニコチノイド系剤等による防除
	チャノキイロアザミウマ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	・期間を通じて平年よりやや多い発生で推移した。		・ネオニコチノイド系剤等による防除
	カンザワハダニ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:並	・発生は2月上旬から確認され平年よりやや多い発生で推移した。	・冬季の高温により越冬虫が多かった。	・クロルフェナビル剤、ピフルブミド剤等による防除
	クワシロカイガラムシ	平年:早 前年:早	平年:やや少 前年:やや少	・平年よりやや少ない発生で推移した。		・有機リン系剤、IGR剤、ピリプロキシフェン剤等による防除 ・防除情報による防除適期の提供

2 発生面積及び防除面積

農作物名	作付面積	病害虫名	程度別発生面積					防除面積(ha)		
			甚	多	中	少	計	実防除	延防除	
水稲 (早期)	1404	苗いもち	0	0	0	3	3	(1,160)	(1,160)	
		葉いもち	0	0	5	275	280	890	890	
		穂いもち	0	0	0	240	240	1,200	1,200	
		紋枯病	0	0	5	585	590	1,200	1,200	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	
		ばか苗病	0	0	0	30	30	890	890	
		もみ枯細菌病	0	0	0	10	10	0	0	
		こま葉枯病	0	5	45	390	440	(1,160)	(1,160)	
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	
		ニカメイガ					-			
		セジロウンカ	0	0	0	1,200	1,200	(1,200)	(1,800)	
		トビイロウンカ	0	0	0	700	700	(1,200)	(1,800)	
		ヒメトビウンカ	0	0	0	1,140	1,140	(1,200)	(1,800)	
		ツマグロヨコバイ	0	0	0	1,090	1,090	(1,200)	(1,800)	
		イネゾウムシ	0	0	0	540	540	(1,160)	(1,160)	
		イネクロカメムシ	0	0	20	300	320	90	90	
		斑点米カメムシ類	0	0	10	310	320	1,200	2,400	
		イチモンジセセリ	0	0	10	500	510	(820)	(820)	
フタオビコヤガ	0	0	0	50	50	(820)	(820)			
イネヨトウ	0	0	0	20	20	(820)	(820)			
アワヨトウ	0	0	0	20	20	(820)	(820)			
コブノメイガ	0	0	0	770	770	820	820			
イネミズゾウムシ	0	0	40	500	540	1,160	1,200			
水稲 (普通期)	9,596	苗いもち	0	0	1	19	20	(6,200)	(6,200)	
		葉いもち	0	50	200	2480	2,730	8,800	8,800	
		穂いもち	0	10	50	1470	1,530	8,800	8,800	
		紋枯病	5	50	360	6785	7,200	8,800	11,500	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	
		ばか苗病	0	0	0	140	140	6,200	6,200	
		もみ枯細菌病	0	20	80	1,540	1,640	1,260	1,260	
		こま葉枯病	0	30	150	2,230	2,410	(6,200)	(6,200)	
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	10	10	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	
		稲こうじ病	0	0	1	989	990	1,260	1,260	
		ニカメイガ					-			
		セジロウンカ	0	0	0	5,800	5,800	(9,300)	(24,000)	
		トビイロウンカ	0	0	0	4,800	4,800	9,300	24,000	
		ヒメトビウンカ	0	0	0	4,800	4,800	(9,300)	(24,000)	
		ツマグロヨコバイ	0	0	0	3,290	3,290	(9,300)	(24,000)	
		イネゾウムシ	0	0	0	410	410	(7,000)	(7,000)	
		イネクロカメムシ	0	0	10	650	660	210	210	
		斑点米カメムシ類	0	0	90	1,620	1,710	9,200	14,000	
イチモンジセセリ	0	0	0	140	140	(8,700)	(14,600)			
フタオビコヤガ	0	0	0	110	110	(8,700)	(14,500)			
イネヨトウ	0	0	0	50	50	(8,700)	(14,500)			
アワヨトウ	0	0	0	30	30	(8,700)	(14,500)			
コブノメイガ	0	0	50	5,200	5,250	8,700	14,500			
イネミズゾウムシ	0	0	20	810	830	7,000	7,000			
スクミリンゴガイ	10	400	500	2,330	3,240	1,500	1,500			
麦	1,978	さび病類	0	0	0	20	20	0	0	
		うどんこ病	0	0	0	80	80	(1,600)	(3,100)	
		赤かび病	0	0	0	140	140	1,600	3,100	
		黒穂病類	0	0	0	0	0	300	300	
		黒節病	0	0	0	0	0	0	0	
		小麦縞萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	
		大麦縞萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	
		斑葉病	0	0	0	0	0	(300)	(300)	
		株腐病	0	0	0	40	40	0	0	
		アブラムシ類	0	0	5	1,310	1,315	25	25	
		ばれいしょ	春作:2500 秋作: 895	疫病	0	0	0	0	0	2,350
葉巻病	0			0	0	43	43	0	0	
アブラムシ類	0			0	193	1,283	1,476	2,350	4,700	
ニジュウヤホシテントウ	0			0	0	217	217	2,350	4,700	
食葉性ヤガ類	0			0	50	557	607	2,350	4,700	
ハスモンヨトウ	0			0	43	475	518	(2,350)	(4,700)	
ジャガイモガ	0	0	0	510	510	(2,350)	(4,700)			

農作物名	作付面積	病害虫名	程度別発生面積					防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計	実防除	延防除
大豆	409	紫斑病	0	0	0	35	35	80	120
		べと病	0	5	5	210	220	0	0
		葉焼病	0	5	5	230	240	0	0
		モザイク病					-		
		アブラムシ類	0	0	0	350	350	(300)	(300)
		コガネムシ類	0	0	0	40	40	(20)	(20)
		ハスモンヨトウ	0	0	0	300	300	300	1,000
		食葉性鱗翅目幼虫	0	0	0	90	90	(300)	(1,000)
		ダイズサヤタマバエ	0	0	0	110	110	(300)	(1,000)
		ヒメサヤムシ類					-		
		マメシンクイガ	0	0	0	160	160	300	1,000
		シロイチモジマダラメイガ	0	0	0	110	110	300	1,000
吸実性カメムシ類	0	0	0	140	140	(300)	(1,000)		
かんきつ	3,065	そうか病	0	1	24	215	240	2,900	2,900
		黒点病	3	25	210	2,000	2,238	2,900	14,500
		かいよう病	2	35	265	1,390	1,692	2,200	4,400
		灰色かび病	0	0	158	800	958	(2,900)	3,500
		ヤノネカイガラムシ	0	0	1	29	30	(2,900)	5,800
		ミカンハダニ	1	22	120	1,630	1,773	2,900	5,800
		ミカンサビダニ	0	0	3	142	145	(2,900)	(5,800)
		カメムシ類	0	1	3	142	146	2,900	4,350
		チャノキイロアザミウマ	0	2	128	1,080	1,210	2,900	10,150
		ロウムシ類	0	0	2	28	30	(2,900)	(5,800)
		クワゴマダラヒトリ	0	0	1	79	80	80	120
		ゴマダラカミキリ	0	1	54	90	145	(2,320)	(3,480)
		アブラムシ類	0	2	43	680	725	(2,900)	(5,800)
なし	54	黒斑病	0	0	2	8	10	40	240
		黒星病	0	0	2	28	30	(40)	(120)
		赤星病	0	0	1	5	6	(40)	(80)
		うどんこ病	0	0	1	5	6	40	80
		輪紋病	0	0	1	5	6	40	80
		ナシヒメシンクイ	0	0	1	5	6	40	80
		ハマキムシ類					-		
		ハダニ類	0	1	4	12	17	40	40
		カメムシ類	0	0	1	5	6	40	120
		アブラムシ類	0	0	2	11	13	40	120
びわ	364	がんしゅ病	0	0	1	35	36	260	390
		ナシヒメシンクイ	0	0	1	35	36	220	270
茶	725	炭そ病	0	25	150	550	725	725	1,450
		もち病	0	0	0	25	25	(350)	(700)
		チャノコカクモンハマキ	0	21	140	220	381	725	1,450
		チャノホソガ	0	5	65	220	290	(725)	(2,100)
		チャノミドリヒメヨコバイ	0	35	110	580	725	(725)	(2,100)
		カンザワハダニ	0	20	40	326	386	725	1,450
		チャノキイロアザミウマ	5	15	135	570	725	725	2,100
		クワシロカイガラムシ	0	0	43	300	343	725	1,450
冬春トマト (2021年植付)	127	疫病	0	0	0	2	2	127	250
		灰色かび病	0	0	2	30	32	127	635
		モザイク病	0	0	0	1	1		
		葉かび病	0	0	5	22	27	127	375
		青枯病	0	0	1	10	11		
		萎凋病	0	0	0	6	6		
		黄化葉巻病	0	1	2	43	46		
		オオタバコガ	0	0	0	1	1	127	100
		コナジラミ類	0	5	12	98	115	127	760
		タバココナジラミ	0	5	12	98	115	127	760
		ハモグリバエ類	0	0	0	10	10	65	150
アブラムシ類	0	0	0	8	8	(127)	(127)		
ハスモンヨトウ	0	0	0	8	8	(127)	(127)		
冬春きゅうり (2021年植付)	45	べと病	0	1	3	25	29	49	240
		炭疽病	0	0	0	2	2	(49)	(65)
		うどんこ病	0	1	2	26	29	49	185
		斑点細菌病	0	0	0	1	1	10	10
		モザイク病	0	0	0	1	1		
		灰色かび病	0	0	0	2	2	49	150
		褐斑病	0	0	0	4	4	49	185
		菌核病	0	0	0	2	2	(49)	(150)
		黄化えそ病	0	0	0	4	4		
		退緑黄化病	0	3	7	30	40		

農作物名	作付面積	病害虫名	程度別発生面積					防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計	実防除	延防除
冬春きゅうり (2021年植付)	45	アザミウマ類					-		
		ミナミキイロアザミウマ	0	0	3	20	23	49	195
		ウリハムシ	0	0	0	1	1	(49)	(65)
		アブラムシ類	0	0	0	5	5	(49)	(65)
		コナジラミ類	0	0	5	18	23	49	195
		ハスモンヨトウ	0	0	0	3	3	49	65
ブロッコリー	902	黒腐病	0	0	18	305	323	931	1,860
		べと病	0	0	3	152	155	931	931
		アブラムシ類	0	0	0	310	310	-931	(931)
		コナガ	0	0	77	776	853	931	2,790
		ハスモンヨトウ	0	0	77	233	310	931	2,790
たまねぎ (2021年植付)	880	白色疫病	0	0	0	22	22	827	2,400
		べと病	0	13	41	463	517	827	4,100
		さび病					-		
		ホトリチス葉枯病	0	0	0	103	103		
		アブラムシ類					-		
		ネギアザミウマ	0	1	27	659	687	827	1,600
冬レタス	692	灰色かび病	0	0	0	12	12	347	694
		菌核病	0	0	20	231	251	(347)	(694)
		萎黄病					-		
		すそ枯病	0	0	0	1	1	(347)	(694)
		斑点細菌病	0	0	0	15	15	347	694
		腐敗病	0	0	0	10	10	(347)	(694)
		アブラムシ類	0	0	3	92	95	694	1,390
		ネキリムシ類	0	0	0	15	15	250	250
		ハスモンヨトウ	0	0	8	130	138	694	1,390
		オオタバコガ	0	0	0	77	77	(694)	1,390
いちご (2021年植付)	273	灰色かび病	0	0	3	60	63	268	1,100
		うどんこ病	0	0	0	0	-	268	1,100
		炭疽病	0	0	0	30	30	268	540
		萎黄病	0	0	0	0	-	268	300
		アブラムシ類	0	0	3	59	62	268	490
		アザミウマ類	0	0	28	161	189	268	800
		コナジラミ類	0	1	4	98	103	268	400
		ハダニ類	2	14	38	151	205	268	1,800
		ハスモンヨトウ	0	1	8	187	196	268	820
		アスパラガス	120	斑点病	0	4	12	88	104
褐斑病	0			1	7	70	78	(115)	(500)
アザミウマ類	0			4	30	56	90	115	500
ハスモンヨトウ	0			0	0	10	10	115	340

注)防除面積の()は同時防除

注)ウイルス病(水稲、トマト、きゅうり)、土壌病害(トマト)の防除面積は記載なし

病虫害発生予察事業

1 対象作物及び病害虫

作物区分	対象作物	指定病害虫	重要病害虫	備考
普通作	水稲	いもち病 紋枯病 縞葉枯病 ばか苗病 もみ枯細菌病 稲こうじ病 ヒメトビウンカ セジロウンカ トビイロウンカ ツマグロヨコバイ ニカメイガ コブノメイガ 斑点米カメムシ類 (クモハリ、ホソハリ、シラホシ、アカスジ) イネミズゾウムシ フタオビコヤガ	萎縮病 ごま葉枯病 黄化萎縮病 白葉枯病 イネヨトウ アワヨトウ イネゾウムシ イチモンジセセリ イネクロカメムシ スクミリンゴガイ	
	麦	うどんこ病 赤かび病	さび病類 斑葉病 縞萎縮病 黒節病 黒穂病類 株腐病 網斑病 アブラムシ類 ハモグリバエ類	
	ばれいしょ	疫病 アブラムシ類 (ワタ、モモアカ、ヒゲナガ) ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ オオタバコガ ヨトウガ	葉巻病 モザイク病 青枯病 ニジュウヤホシテントウ ジャガイモガ	
	大豆	ハスモンヨトウ アブラムシ類 吸実性カメムシ類 (イチモンジ、ホソハリ、アオクサ、ミナミアオ)	べと病 葉焼病 モザイク病 紫斑病 ウワバ類 コガネムシ類 ダイズサヤタマバエ	
果樹・茶	かんきつ	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類 アブラムシ類	灰色かび病 青かび・緑かび ミカンサビダニ ヤノネカイガラムシ アカマルカイガラムシ ナシマルカイガラムシ チャノキイロアザミウマ ゴマダラカミキリ ロウムシ類 クワゴマダラヒトリ	カメムシ類、ゴマダラカミキリ、ロウムシ類、クワゴマダラヒトリの巡回調査は、発生の有無のみ調査

作物区分	対象作物	指定病害虫	重要病害虫	備考
果樹・茶	なし	黒星病 黒斑病 ハダニ類 (ミカノ、カンザリ) シンクイムシ類 カメムシ類 ハマキムシ類 アブラムシ類	赤星病 うどんこ病 輪紋病	シンクイムシ類はト ラップ調査のみ
	びわ	カメムシ類	がんしゅ病 灰斑病 褐斑病 ナシマルカイガラムシ ナシヒメシンクイ ハマキムシ類	カメムシ類の巡回調 査は、発生の有無 のみ調査
	茶	炭疽病 ハマキムシ類 (チャノカケモノハマキ) カンザワハダニ チャノホソガ	もち病 チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ	
野菜	トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病 アブラムシ類 (ワタ、モモアカ) コナジラミ類 オオタバコガ ハスモンヨトウ	黄化葉巻病 モザイク病 青枯・萎凋病 すすかび病 ハモグリバエ類	
	きゅうり	べと病 うどんこ病 灰色かび病 褐斑病 アブラムシ類 (ワタ、モモアカ) アザミウマ類 コナジラミ類 ハスモンヨトウ	モザイク病 退緑黄化病 黄化えそ病 斑点細菌病 炭疽病 菌核病 ウリハムシ	
	たまねぎ	白色疫病 べと病 ネギアザミウマ	萎黄病 ボトリチス属菌による葉枯病 黒斑病 さび病 アブラムシ類(ネギ)	
	レタス	菌核病 灰色かび病 ハスモンヨトウ アブラムシ類 (タイワンヒゲナガ、モモアカ) オオタバコガ	萎黄病 斑点細菌病 腐敗病 すそ枯病 ネキリムシ類	
	いちご	灰色かび病 うどんこ病 炭疽病 ハスモンヨトウ アブラムシ類(ワタ) ハダニ類 アザミウマ類 オオタバコガ	萎黄病 輪斑病 菌核病 コガネムシ類 ヒメヨコバイ コナジラミ類	

作物区分	対象作物	指定病害虫	重要病害虫	備考
野菜	アスパラガス	ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ オオタバコガ	斑点病 褐斑病 アザミウマ類 コナジラミ類	
	ブロッコリー	コナガ ハスモンヨトウ オオタバコガ ヨトウガ シロイチモジヨトウ	べと病 花蕾腐敗病 黒腐病 軟腐病 アオムシ ウワバ類 ハイマダラノメイガ ネキリムシ類 アブラムシ類 コナジラミ類	

対象作物及び病害虫数

作物数	病害			害虫			合計
	指定	重要	計	指定	重要	計	
15	29	54	83	54	42	96	179

2 発生予察調査

(1) 調査の概要

調査区分	調査の種類	作物数	地点数
圃場調査	県予察圃場調査(無防除)	10	1
	巡回調査(農家慣行防除)	15	116
特定点調査	予察灯 フェロモントラップ 粘着トラップ ネットトラップ	2 8(対象病害虫数) 1(対象病害虫数) 1	5 12 1 1
	越冬量等調査	3(対象病害虫数)	各地
病害虫防除員調査	病害虫発生状況、フェロモントラップ調査等	(4農協委託 合計21名)	各地
各種検定	ウイルス、抵抗性害虫、耐性菌	5	各地
依頼診断	持込による診断依頼	各作物	各地

(2) 県予察圃場調査

区分	作物	設置場所	面積	設置期間
県予察圃場	水稲(早期・普通期)	諫早市小船越町	7a	4~10月
	麦		5a	11~5月
	大豆		5a	7~11月
	かんきつ	諫早市小船越町	4a	4~3月
	びわ		2a	4~3月
	なし		1a	4~3月(初発確認のみ)
	ぶどう		1a	4~3月(初発確認のみ)
	たまねぎ(早生・中生)	諫早市小船越町	2a	11~4月
	ばれいしょ(春作・秋作)		2a	3~5月、9~11月
	ブロッコリー		2a	9~12月

(3) 巡回調査

- ・調査回数: 月2回(10日前後、25日前後)、ただし12月~2月は月1回(前期のみ)
いちごは年間とおして月2回調査
- ・調査地点: 別表のとおり

(4) 越冬量等調査

作物名	調査内容	対象病害虫	調査時期
水稲	越冬世代生息密度調査	ヒメトビウンカ	3月
	第1世代生息密度調査	ヒメトビウンカ	5月
果樹	越冬量調査	果樹カメムシ類	1月
	ヒノキきゅう果ピーティング調査		7~9月
	ヒノキきゅう果口針鞘数調査		7~9月
かんきつ	果実の病害虫発生状況調査	かいよう病、そうか病、黒点病、カイガラムシ類等	11月

(5) 予察灯調査

名称	種類	対象害虫	設置場所	設置期間
予察灯1	60W白熱灯	水稻害虫	諫早市小船越町	4~10月
" 2	"	"	南島原市北有馬町	6~9月
" 3	"	"	佐世保市柚木	6~9月
" 4	"	"	岐宿町中岳郷	6~9月
" 5	20W青色灯	果樹害虫	諫早市小船越町	7~10月

(6) フェロモントラップ

対象害虫	設置場所	設置期間	備考
コブノメイガ	諫早市小船越町	6~9月	
	大村市	6~9月	発生予察調査業務委託
	佐々町	6~9月	発生予察調査業務委託
ニカメイガ	諫早市小船越町	5~9月	
果樹カメムシ類	諫早市小船越町	3~11月	
	南島原市	3~11月	発生予察調査業務委託
ナシヒメシンクイ	諫早市小船越町	3~10月	
ハスモンヨトウ	諫早市小船越町	4~11月	
	諫早市	4~11月	発生予察調査業務委託
	大村市	4~11月	発生予察調査業務委託
	雲仙市	4~11月	発生予察調査業務委託
	南島原市	4~11月	発生予察調査業務委託
シロイチモジヨトウ	諫早市小船越町	4~11月	
オオタバコガ	諫早市小船越町	4~11月	
ツマジロクサヨトウ	諫早市小船越町	4~9月	

(7) 粘着トラップ

種類	対象害虫	設置場所	設置期間
黄色平板粘着トラップ	チャノキイロアザミウマ	諫早市小船越町	4~10月

(8) ネットトラップ

対象害虫	設置場所	設置期間
ウンカ類	諫早市小船越町	4~9月

(9) 各種検定

区分	対象作物名	病害虫名	検定方法
ウイルス検定	水稻	イネ縞葉枯病ウイルス	ELISA法
薬剤抵抗性 検定	水稻	ヒメトビウンカ トビイロウンカ	微量局所施用法
	かんきつ	ミカンハダニ	リーフディスク法
	いちご	ナミハダニ	リーフディッピング法

別表 圃場調査地点一覧

作物名		長崎	県央	島原	県北	五島	壱岐	対馬	調査時期					
水稲	早期		森山町井弁田			佐世保市江上	松浦市大崎 松浦市田代	平戸市中野	五島市籠淵 岐宿町川原 岐宿町中嶽	勝本町新城 芦辺町当田 石田町池田	美津島町洲藻	5 - 8月		
	普通期	琴海町戸根 西彼町下岳	諫早市小野 森山町田尻 多良見町元釜	大村市鈴田 波佐見町平野 東彼杵町三根	吾妻町干拓 国見町神代 千々石町下峰	南有馬町北岡 加津佐町新田	佐世保市長畑	松浦市田代 田平町里	平戸市中野	五島市籠淵 五島市野々切 岐宿町中嶽	郷ノ浦町柳田 勝本町新城 石田町池田仲触	巖原町小茂田 美津島町加志 峰町吉田	6 - 9月	
麦			諫早市小野島 森山町田尻	大村市寿古 波佐見町岳辺田	国見町神代 吾妻町干拓				五島市本山 五島市大津 富江町	芦辺町深江		3 - 5月		
ばれいしょ		西海町丹納	飯盛町上原 (春作のみ)		有家中須川 (春作のみ) 有明町湯江 愛野町谷頭	口之津早崎 (春作のみ) 加津佐町越崎 小浜町北串						3 - 5月 9 - 11月		
大豆			森山町 諫早市小野	波佐見町					岐宿町中嶽	郷ノ浦町		7 - 11月		
かんきつ		長与町岡 時津町西時津	西彼町小迎 西海町丹納	諫早市長田 多良見町東園 多良見町佐瀬	大村市今村 東彼杵町赤木	瑞穂町高田		佐世保市長畑 佐世保市針尾				3 - 11月		
びわ		長崎市茂木 長崎市千々										4 - 9月		
なし				大村市福重 波佐見町穉木場	国見町百花台 有家町新切							3 - 9月		
茶				東彼杵町赤木 東彼杵町太ノ原			世知原町木浦原		五島市吉田			2 - 9月		
トマト				大村市鬼橋・黒丸 川棚町小串	国見町神代	南有馬町乙						11 - 5月		
きゅうり			高来町金崎	大村市寿古・沖田	有家町中須川							11 - 4月		
たまねぎ			諫早市長田 諫早市小野島		吾妻町干拓	加津佐町新田						11 - 4月		
レタス					島原市三会 国見町	南串山町京泊 加津佐町	佐世保市三川内					9 - 12月		
いちご		長崎市日吉	西彼町平原	諫早市飯盛	大村市松原 東彼杵町千綿	国見町神代 瑞穂町西郷	北有馬町折木	佐々町鴨川		郷ノ浦町、石田町		9 - 4月 5 - 8月		
アスパラガス			琴海町長浦	高来町金崎・法川		深江町古江田中				郷ノ浦、勝本、芦辺		5 - 10月		
ブロッコリー			西海町丹納		吾妻町山田原		佐世保市上本山					9 - 1月		
地点数計		5	8	17	17	20	10	6	6	2	11	10	4	116

3 調査成績

(1) 県予察圃場調査要領

作物名	病害虫名	調査株数等	
水稲	葉いもち 紋枯病 ばか苗病 萎縮病 縞葉枯病 ごま葉枯病	発病株数 / 100株	
	穂いもち 籾枯細菌病	発病穂数 / 100穂	
	ヒメトビウンカ セジロウンカ トビイロウンカ ツマグロヨコバイ	寄生株数 / 50株 寄生虫数 / 50株	
	カメムシ	水田内20回振り	
	イネミズゾウムシ	食害株数 / 50株	
	コブノメイガ	食害株数 / 50株 成虫数 / 10 m ² (追出し)	
	麦類	さび病類 うどんこ病 萎縮病類 黒節病	発病茎数 / 100茎
		赤かび病 黒穂病	発病穂数 / 100穂
		アブラムシ類 ハモグリバエ類	寄生茎数 / 100茎 寄生虫数 / 100茎
		斑葉病	発病茎数 / 100茎
大豆		べと病 葉焼病 ウイルス病	発病株数 / 50株
		ハスモンヨトウ ウワバ類 吸実性カメムシ類 アブラムシ類 コガネムシ類	寄生株数 / 50株 寄生虫数 / 50株
		紫斑病、吸実性カメムシ類	被害粒数 / 1000粒以上
	ダイズサヤマハエ	被害莢数 / 500莢以上	
	ばれいしょ	葉巻病 モザイク病 青枯病 疫病	発病株数 / 50株
		アブラムシ類 ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、 オオタバコガ、ニジュウヤホシテントウ	寄生株数 / 50株 寄生虫数 / 50株
		ジャガイモガ ヨトウムシ類	被害株数 / 50株

作物名	病害虫名	調査株数等		
たまねぎ	白色疫病 べと病 ホトリチス葉枯症 黒点葉枯病 黒斑病 腐敗病	発病株数 / 50株		
	アザミウマ類、アブラムシ類	寄生株数 / 50株		
ブロッコリー	黒腐病 べと病	発病株数 / 50株		
	コナジラミ類 ヨトウガ、ハスモンヨトウ コナガ オオタバコガ ウワバ類 モンシロチョウ アブラムシ類	寄生株数 / 50株 寄生虫数 / 50株		
	シンクイムシ類	被害株数 / 50株		
	温州みかん	そうか病 かいよう病 黒点病	発病葉数 / 50葉/樹・4樹 発病果数 / 50葉/樹・4樹 発病果数 / 50葉/樹・4樹	
		ミカンハダニ アブラムシ類	寄生葉数 / 50葉/樹・4樹 寄生虫数 / 50葉/樹・4樹 寄生新梢数 / 50新梢・4樹	
		チャノキロアザミウマ、ミカンサビダニ	被害果数 / 50果/樹・4樹	
		ヤノカイガラムシ マルカイガラムシ類	寄生果数 / 50果/樹・4樹	
		びわ	がんしゅ病 灰斑病 褐斑病	発病葉数 / 50枝葉・2樹 発病枝葉数 / 50枝葉・2樹
			ナシヒメシンクイ、ナシマルカイガラムシ、ハマキムシ類	被害葉数 / 50枝葉 被害枝葉数 / 50枝葉

(2) 県予察圃場調査成績

作物：早期水稲	品種：コシヒカリ
---------	----------

調査時期	葉いもち		紋枯病		ばか苗病		萎縮病		縞葉枯病		ごま葉枯病		穂いもち			籾枯細菌病			
	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	病穂率	発病度	発病株率	発病穂率	発病度	
2021	5	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
		25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
		11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
	7	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
		1	0	0	30	7.8	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
	8	13	0	0	58	29.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		26	0	0	66	40.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8	4	1	0.3	68	44.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期	ヒメビウカ						セウウカ						ビウウカ						ツマゲヨコハイ						カムシ数 / 20回振		
	寄生株率	株当虫数			寄生株率	株当虫数			寄生株率	株当虫数			寄生株率	株当虫数			寄生株率	株当虫数			ホハリカムシ	シラシカムシ	他のカムシ				
		成虫	幼虫	合計		成虫	幼虫	合計		成虫	幼虫	合計		成虫	幼虫	合計		成虫	幼虫	合計							
2021	5	13	2	0.02	0	0.02	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-				
		25	2	0.02	0	0.02	2	0.02	0	0.02	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-				
	6	4	0	0	0	0	32	0	0.50	0.50	0	0	0	0	24	0	0.36	0.36	-	-	-						
		11	4	0.02	0.02	0.04	50	0.04	0.70	0.74	0	0	0	0	68	0.02	1.96	1.98	-	-	-						
	7	21	12	0.04	0.10	0.14	54	0	0.98	0.98	0	0	0	0	52	0.02	1.24	1.26	-	-	-						
		1	10	0.02	0.08	0.10	48	0.04	0.72	0.76	16	0	0.18	0.18	32	0.04	0.32	0.36	-	-	-						
	8	13	8	0.06	0.02	0.08	4	0	0.04	0.04	0	0	0	0	2	0.02	0	0.02	0	0	3.25						
		26	4	0	0.04	0.04	8	0	0.08	0.08	6	0	0.08	0.08	26	0	0.74	0.74	0	0	0						
	8	4	6	0.02	0.04	0.06	2	0	0.02	0.02	0	0	0	0	14	0	0.14	0.14	0	0	3.94						

調査時期	イヌシウカ			コメイカ					
	食害株率	被害度	成虫数 / 株	食害株率	食害葉数 / 株	幼虫寄生株率	幼虫数 / 株		
2021	5	13	32	8	0.02	0	0	0	0
		25	8	2	0	0	0	0	0
	6	4	0	0	0	0	0	0	0
		11	0	0	0	0	0	0	0
	7	21	-	-	-	0	0	0	0
		1	-	-	-	0	0	0	0
	8	13	-	-	-	96	4.82	38	0.52
		26	-	-	-	0	0	0	0
	8	4	-	-	-	0	0	0	0

作物：普通期水稻	品種：にこまる
----------	---------

調査時期	葉いもち		紋枯病		ばか苗病		萎縮病		縞葉枯病		ごま葉枯病		穂いもち			初枯細菌病					
	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	病穂率	発病度	発病株率	発病穂率	発病度			
21	7	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-		
		13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	
		26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	
	8	4	3	0.8	1	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	
		16	3	0.8	11	2.8	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	
		27	0	0	5	1.8	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	
	9	1	0	0	20	10.5	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	
		13	-	-	38	27.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		22	-	-	52	40.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期	ヒメビウカ						ヒメウカ						ヒメウカ						ツグノコバエ			カメムシ/20回振							
	寄生株率	株当虫数			寄生株率	株当虫数			寄生株率	株当虫数			寄生株率	株当虫数			成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	カメムシ	シラカバ	他のカメムシ	
		成虫	幼虫	合計		成虫	幼虫	合計		成虫	幼虫	合計		成虫	幼虫	合計													
21	7	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0.02	0.34	0.36	-	-	-	-	-	-	
		13	4	0.02	0.02	0.04	92	4.48	0.62	5.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0.20	0.20	-	-	-	-	-	
		26	56	0.02	0.94	0.96	100	0.10	47.96	48.06	2	0	0.02	0.02	10	0	0.14	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-			
	8	4	10	0.02	0.08	0.10	100	8.90	7.04	15.94	4	0.02	0.02	0.04	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		16	8	0	0.10	0.10	60	0.18	0.90	1.08	4	0.02	0.02	0.04	6	0	0.08	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-			
		27	4	0	0.04	0.04	34	0.02	0.50	0.52	0	0	0	0	2	0	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-				
	9	1	2	0	0.02	0.02	28	0.04	0.34	0.38	10	0.04	0.08	0.12	2	0	0.02	0	-	-	-	-	-	-	-				
		13	2	0.02	0	0.02	2	0.02	0	0.02	4	0.04	0.02	0.06	2	0	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-					
		22	4	0.02	0.02	0.04	16	0	0.18	0.18	2	0.02	0	0.02	2	0.02	0	0.02	0	0	0	0.02	0	0	0	0	0.5		

調査時期	ヒメシロカ			コノメカ			ニカカ			イモシロカ			カメムシ		
	食害株率	被害度	成虫数/株	食害株率	食害葉数/株	幼虫寄生株率	幼虫数/株	食害株率	幼虫寄生株率	幼虫数/株	食害株率	幼虫寄生株率	幼虫数/株	食害株率	幼虫数/株
21	7	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		13	-	-	-	2	0.04	0	0	0	0	0	0	0	0
		26	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8	4	-	-	-	4	0.10	0	0	0	0	0	0	0	0
		16	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		27	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9	1	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		13	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		22	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期	イモシロカ			アサカ		
	食害株率	幼虫寄生株率	幼虫数/株	食害株率	幼虫寄生株率	幼虫数/株
21	7	6	0	0	0	0
		13	0	0	0	0
		26	0	0	0	0
	8	4	0	0	0	0
		16	0	0	0	0
		27	0	0	0	0
	9	1	0	0	0	0
		13	0	0	0	0
		22	0	0	0	0

作物：普通期水稻	品種：ヒノヒカリ
----------	----------

調査時期	葉いもち		紋枯病		ばか苗病		萎縮病		縞葉枯病		ごま葉枯病		穂いもち			初枯細菌病				
	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	病穂率	発病度	発病株率	発病穂率	発病度		
21	7	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	
		13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
		26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
	8	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
		16	0	0	18	4.5	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
		27	0	0	25	10.3	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
	9	1	0	0	32	15.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		13	-	-	34	27.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		22	-	-	75	58.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期	ヒメビクカ				ヒメクカ				ヒメクカ				ツグロコバエ				かみ数/20回振				
	寄生株率	株当虫数			寄生株率	株当虫数			寄生株率	株当虫数			寄生株率	株当虫数			かみ数	シラカミ	他のかみ		
		成虫	幼虫	合計		成虫	幼虫	合計		成虫	幼虫	合計		成虫	幼虫	合計					
21	7	6	0	0	0	0	2	0.02	0	0.02	0	0	0	0	4	0	0.22	0.22	-	-	-
		13	10	0.10	0.02	0.12	98	5.74	0.04	5.78	0	0	0	0	10	0	0.14	0.14	-	-	-
		26	36	0.02	0.52	0.54	100	0.12	15.96	16.08	4	0.02	0.02	0.04	20	0.04	0.20	0.24	-	-	-
	8	4	14	0.02	0.12	0.14	98	3.48	4.52	8.00	2	0	0.02	0.02	0	0	0	0	-	-	-
		16	12	0.06	0.06	0.12	74	0.30	1.08	1.38	8	0.04	0.10	0.14	16	0	0.22	0.22	-	-	-
		27	2	0	0.02	0.02	24	0.08	0.26	0.34	4	0	0.04	0.04	0	0	0	0	-	-	-
	9	1	2	0	0.02	0.02	28	0.18	0.14	0.32	18	0.02	0.16	0.18	10	0.02	0.12	0.14	-	-	-
		13	4	0.02	0.02	0.04	18	0.04	0.18	0.22	6	0.04	0.02	0.06	6	0.02	0.06	0.08	-	-	-
		22	2	0	0.02	0.02	10	0	0.12	0.12	4	0	0.04	0.04	0	0	0	0	0	0.5	1.5

調査時期	ヒメクカ			ヒメクカ			ヒメクカ			ヒメクカ			ヒメクカ	
	食害株率	被害度	成虫数/株	食害株率	食害葉数/株	幼虫寄生株率	食害株率	食害葉数/株	幼虫寄生株率	食害株率	食害葉数/株	食害株率	食害葉数/株	
21	7	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		13	-	-	-	2	0.02	0	0	0	0	0	0	
		26	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	
	8	4	-	-	-	4	0.10	0	0	0	0	0	0	
		16	-	-	-	0	0	0	0	0	0	2	0	
		27	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	
	9	1	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	
		13	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	
		22	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	

調査時期	ヒメクカ			ヒメクカ		
	食害株率	幼虫寄生株率	幼虫数/株	食害株率	幼虫寄生株率	幼虫数/株
21	7	6	0	0	0	0
		13	0	0	0	0
		26	0	0	0	0
	8	4	0	0	0	0
		16	0	0	0	0
		27	0	0	0	0
	9	1	0	0	0	0
		13	0	0	0	0
		22	0	0	0	0

作物：小麦	品種：シロガネコムギ
-------	------------

調査時期			さび病類		うどんこ病		萎縮病類		黒節病		赤かび病		黒穂病	
			発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度	発病 穂率	発病度	発病 穂率	発病度
21	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期			アブラムシ類		ハゲリハエ類	
			発生 茎率	虫数 /1茎	発生 茎率	虫数 /1茎
21	3	3	4	0.09	0	0
		11	9	0.12	0	0
		25	5	0.18	0	0
	4	5	4	0.04	0	0
		13	3	0.17	0	0
		27	2	0.03	0	0
	5	13	0	0	0	0

作物：小麦	品種：チクゴイズミ
-------	-----------

調査時期			さび病類		うどんこ病		萎縮病類		黒節病		赤かび病		黒穂病	
			発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度	発病 穂率	発病度	発病 穂率	発病度
21	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期			アブラムシ類		ハゲリハエ類	
			発生 茎率	虫数 /1茎	発生 茎率	虫数 /1茎
21	3	3	12	0.16	0	0
		11	5	0.08	0	0
		30	7	0.16	0	0
	4	5	4	0.10	0	0
		13	5	0.07	0	0
		27	4	0.20	0	0
	5	13	0	0	0	0

作物：大麦	品種：はるか二条
-------	----------

調査時期			さび病類		うどんこ病		斑葉病		網斑病		黒節病	
			発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度
21	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		11	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0
		30	0	0	0	0	0	0	94	0	0	0
	4	5	0	0	0	0	0	0	83	0	0	0
		13	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0
		27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期			赤かび病		黒穂病		アブラムシ類		ハゲリハエ類	
			発病 穂率	発病度	発病 穂率	発病度	発生 茎率	虫数 /1茎	発生 茎率	虫数 /1茎
21	3	3	0	0	0	0	10	0.40	0	0
		11	0	0	0	0	11	0.12	0	0
		30	0	0	0	0	5	0.16	0	0
	4	5	0	0	0	0	1	0.03	0	0
		13	0	0	0	0	4	0.07	0	0
		27	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	13	0	0	0	0	0	0	0	0

作物：裸麦	品種：御島裸
-------	--------

調査時期			さび病類		うどんこ病		萎縮病類		黒節病		赤かび病		黒穂病	
			発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度	発病 茎率	発病度	発病 穂率	発病度	発病 穂率	発病度
21	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期			アブラムシ類		ハゲリハエ類	
			発生 茎率	虫数 /1茎	発生 茎率	虫数 /1茎
21	3	3	14	0.20	0	0
		11	14	1.02	0	0
		30	7	0.16	0	0
	4	5	10	0.21	0	0
		13	6	0.30	0	0
		27	10	0.44	0	0
	5	13	5	0.08	0	0

作物：大豆	品種：フクユタカ
-------	----------

調査時期			べと病		葉焼病		ウイルス病		ハスモンヨトウ			ウワバ類	
年	月	日	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	白変葉数/a	寄生株率	寄生虫数/株	寄生株率	寄生虫数/株
21	7	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		29	0	0	18	4.5	0	0	0	0	0	0	0
	8	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9	1	4	1.0	0	0	0	0	0	6	0.06	0	0
		13	98	24.5	52	13.0	0	0	0	4	0.04	0	0
		22	60	15.0	94	23.5	0	0	0	0	0	4	0.04
	10	6	8	2.0	98	24.5	0	0	0	0	0	2	0.02
		12	0	0	100	25	0	0	0	0	0	0	0
		29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期			吸実性カメムシ類		アブラムシ類		コガネムシ類	
年	月	日	寄生株率	寄生虫数/株	寄生株率	寄生虫数/株	寄生株率	寄生虫数/株
21	7	13	0	0	0	0	0	0
		29	0	0	0	0	0	0
	8	4	0	0	0	0	0	0
		16	0	0	0	0	0	0
		27	4	0.04	0	0	0	0
	9	1	2	0	0	0	0	0
		13	2	0.02	0	0	0	0
		22	2	0.02	2	0.08	0	0
	10	6	8	0.10	10	0.10	0	0
		12	14	0.14	0	0	0	0
		29	0	0	0	0	0	0

(子実調査)

調査時期			紫斑病	ダ' 伱' 廿々ハ' E	カメムシ類
年	月	期	被害粒率	被害莢率	被害粒率
21	11	上	0.6	2.3	27.6

作物:温州みかん	品種:原口早生	樹齡:7年生
----------	---------	--------

散布月日	薬剤名	倍数	
21	3.23	フルーツセイバー	2000
	4.14	アクタラ粒剤	-
	5.28	エクシレルSE	5000
	6.1	ジマンダイセン水和剤	600
	7.28	エクシレルSE	5000

調査時期			そうか病				かいよう病			
			無防除区		防除区		無防除区		防除区	
			葉	果実	葉	果実	葉	果実	葉	果実
			発病葉率	発病果率	発病葉率	発病果率	発病葉率	発病果率	発病葉率	発病果率
21	3	23	0.0	-	0	-	1.0	-	1.0	-
	4	2	1.0	-	0	-	3.0	-	0	-
	4	30	2.0	-	0	-	4.0	-	0	-
	5	7	6.0	-	0	-	7.0	-	2.0	-
	5	28	1.0	0	0	0	7.0	0	2.0	0
	6	9	1.0	0	0	0	4.0	0	1.0	0
	6	30	2.0	4.0	0	0	9.0	4.0	1.0	0
	7	8	1.0	6.0	0	0	6.0	6.0	0	0
	7	30	7.0	14.0	0	0	7.0	6.0	2.0	0
	8	8	7.0	15.0	0	0	6.0	5.0	1.0	0
	8	31	8.0	13.0	0	0	11.0	9.0	1.0	0
	9	7	9.0	15.0	0	0	13.0	15.0	1.0	0
	9	28	8.0	16.0	0	0	15.0	15.0	1.0	0
	10	5	5.0	16.0	0	0	15.0	15.0	0	0
	10	28	7.0	13.0	0	0	14.0	15.0	2.0	0

調査時期			黒点病		ミカンハダニ		ミカンサビダニ		アブラムシ類	
			無防除区	防除区	無防除区	防除区	無防除区	防除区	無防除区	防除区
			発病果率	発病果率	寄生葉率	寄生葉率	被害果率	被害果率	寄生新梢率	寄生新梢率
21	3	3.2	-	-	2.0	0	-	-	-	-
	4	5.3	-	-	4.0	0	-	-	-	-
	4	6.1	-	-	0	0	-	-	0	0
	5	7.3	-	-	5.0	4.0	-	-	0	2.0
	5	28	-	-	1.0	1.0	-	-	0	0
	6	9	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	30	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	8	0	0	0	4.0	0	0	0	0
	7	30	0	0	5.0	3.0	0	0	0	0
	8	8	0	0	9.0	2.0	0	0	0	0
	8	31	15.0	0	0	0	0	0	0	0
	9	7	12.0	0	6.0	2.0	0	0	0	0
	9	28	10.0	0	0	0	3.0	0	0	0
	10	5	20.0	1.0	0	0	5.0	0	0	0
	10	28	18.0	4.0	0	0	0	0	0	0

調査時期			チャノキイロアザミウマ				ヤノネカイガラムシ		マルカイガラムシ類	
			無防除区		防除区		無防除区	防除区	無防除区	防除区
			果梗部	果頂部	果梗部	果頂部				
			被害果率	被害果率	被害果率	被害果率	寄生果率	寄生果率	寄生果率	寄生果率
21	6	9	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	30	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	8	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	30	3.0	0	0	0	0	3.0	0	0
	8	8	3.0	1.0	1.0	0	0	1.0	0	0
	8	31	7.0	5.0	0	0	0	2.0	0	0
	9	7	8.0	12.0	1.0	0	0	8.0	0	0
	9	28	9.0	8.0	1.0	0	0	6.0	0	0
	10	5	9.0	0	1.0	0	5.0	5.0	0	0
	10	28	14.0	13.0	0	0	0	9.0	2.0	0

作物: びわ 品種: 長崎早生(無防除) 樹齡: 8年生

調査時期			がんしゅ病		灰斑病		褐斑病		ナシメシクイ	
			発生 葉率	発生 枝葉率	発生 葉率	発生 枝葉率	発生 葉率	発生 枝葉率	発生 葉率	発生 枝葉率
21	3	23	1.7	7.0	17.7	39.0	0	0	0	0
	4	2	0.5	6.0	7.4	60.0	0.4	5.0	0	0
	4	30	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	7	0.1	1.0	0	0	0	0	0	0
	5	28	0.3	2.0	0.7	4.0	0	0	0	0
	6	9	1.9	10.0	2.2	12.0	0	0	0	2
	6	30	0	0	1.1	7.0	0	0	0	0
	7	8	3	12	3.2	19.0	0	0	0	0
	7	30	0	0	2.0	12.0	0	0	0	0
	8	8	0.2	1.0	4.0	15.0	0	0	0	0
	8	31	3.5	16.0	6.6	28.0	0	1	0	0
	9	7	0.8	3.0	8.4	39.0	0	0	0	1
	9	28	2.7	12.0	3.2	19.0	0	0	0	0
	10	5	0	0	2.3	13.0	0	0	0	0
	10	28	0	0	2.0	12.0	0	0	0	0

調査時期			ハマキムシ類		ナシマルカイガラムシ		アブラムシ類	
			発生 葉率	発生 枝葉率	発生 葉率	発生 枝葉率	発生 葉率	発生 枝葉率
21	3	23	0	0	0	0	0	0
	4	2	0	0	0	0	0	0
	4	30	0.3	2.0	0	0	0	0
	5	7	0.7	4.0	0	0	0.004	3.0
	5	28	0.0	0.0	0	0	0	1
	6	9	0.9	7.0	0	0	0	0
	6	30	2.6	17.0	0	0	0	0
	7	8	1.8	12.0	0	0	0	0
	7	30	4.0	20.0	0	0	0	12.0
	8	8	0.6	4.0	0	0	0	0
	8	31	0.4	1.0	0	0	0	0
	9	7	2.2	14.0	0	0	0	0
	9	28	1.8	12.0	0	0	0	0
	10	5	3.0	22.0	0	0	0	0
	10	28	4.0	20.0	0	0	0	12.0

作物：ジャガイモ（春作）	品種：ニシユタカ	植え付け：2021年2月5日
--------------	----------	----------------

調査時期			葉巻病	モザイク病	青枯病	疫病	アブラムシ類		ジャガイガ
年	月	日	発病株率	発病株率	発病株率	発病株率	寄生株率	株当虫数	被害株率
21	3	17	0	0	0	0	0	0	0
		26	0	0	0	0	2	0.04	0
	4	5	0	0	0	0	12	0.18	0
		15	0	0	0	0	10	0.14	0
		23	0	0	0	0	18	0.32	14
生育不良により調査終了									

調査時期			ヨウムシ類	ハスモンヨトウ		シロイモシヨトウ		ニジュウヤホシテントウ	
年	月	期	被害株率	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数
21	3	17	0	0	0	0	0	0	0
		26	0	0	0	0	0	0	0
	4	5	0	0	0	0	0	2	0.02
		15	10	0	0	0	0	2	0.02
		23	0	0	0	0	0	0	0
生育不良により調査終了									

作物：ジャガイモ（秋作）	品種：ニシユタカ	植え付け：2021年9月16日
--------------	----------	-----------------

調査時期			葉巻病	モザイク病	青枯病	疫病	アブラムシ類		ジャガイガ
年	月	日	発病株率	発病株率	発病株率	発病株率	寄生株率	株当虫数	被害株率
21	10	7	0	0	0	0	0	0	0
		12	0	0	0	0	0	0	0
		25	0	0	0	0	0	0	0
	11	2	0	0	0	0	0	0	0
		16	0	0	0	0	0	0	0
		25	0	0	0	0	0	0	0
		4	0	0	0	0	0	0	0

調査時期			ヨウムシ類	ハスモンヨトウ		シロイモシヨトウ		ニジュウヤホシテントウ	
年	月	期	被害株率	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数
21	10	7	0	0	0	0	0	0	0
		12	0	0	0	0	0	0	0
		25	0	0	0	0	0	0	0
	11	2	0	0	0	0	0	0	0
		16	0	0	0	0	0	0	0
		5	0	0	0	0	0	0	0
		4	0	0	0	0	0	0	0

作物：タマネギ	品種：トップゴールド	植え付け：2021年11月16日
---------	------------	------------------

調査時期			白色疫病	べと病	ホトリカ葉枯病	黒点葉枯病	黒斑病	アザミヤ	アブラムシ類
年	月	日	発病株率	発病株率	発病株率	発病株率	発病株率	被害株率	被害株率
21	11	29	0	0	0	0	0	54	0
		7	0	0	0	0	36	0	
		15	0	0	0	0	38	0	
		28	0	0	0	0	24	0	
22	1	6	0	0	0	0	24	0	
		14	0	0	0	0	30	0	
		25	0	0	0	0	46	0	
		4	0	0	0	0	52	0	
	2	14	0	0	0	0	62	0	
		22	0	0	0	0	46	0	
		4	0	0	0	0	52	0	
		14	0	0	0	0	64	0	
3	4	0	0	0	0	52	0		
	25	0	0	0	0	78	0		

作物：タマネギ	品種：ターザン	植え付け：2021年12月6日
---------	---------	-----------------

調査時期			白色疫病	べと病	ホトリカ葉枯病	黒点葉枯病	黒斑病	アザミヤ	アブラムシ類
年	月	日	発病株率	発病株率	発病株率	発病株率	発病株率	被害株率	被害株率
21	12	15	0	0	0	0	0	18	0
		28	0	0	0	0	0	0	0
22	1	6	0	0	0	0	0	6	0
		4	0	0	0	0	0	6	0
		25	0	0	0	0	0	12	0
		4	0	0	0	0	0	30	0
	2	14	0	0	0	0	0	34	0
		22	0	0	0	0	0	20	0
		4	0	0	0	0	0	46	0
	3	14	0	0	0	0	0	74	0
		25	0	2	0	0	0	82	0
		6	0	2	0	0	0	100	0
4	15	0	12	0	0	6	100	0	
	22	0	2	0	0	18	100	0	

作物：ブロッコリー	品種：ピクセル	植え付け：2021年9月13日
-----------	---------	-----------------

調査時期			黒腐病	べと病	コナジラミ類	シロイチモジヨトウ			ヨトウガ	
年	月	日	発病株率	発病株率	寄生株率	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数	
21	9	22	0	0	2	2	0.0	0	0	
		10	7	0	0	8	0.1	0	0	
		12	0	0	4	10	3.64	10	0.1	
	11	25	0	0	2	42	1.4	0	0	
		2	0	0	0	12	0.1	0	0	
		15	0	0	0	0	0	0	0	
	12	25	0	0	0	2	0.0	0	0	
		9	0	0	0	0	0	0	0	
		16	0	0	0	0	0	0	0	

調査時期			ハシロコトウ		コナガ		オオタバコガ		ウワバ類	
年	月	日	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数	寄生株率	
21	9	22	6	0.1	0	0	0	0	0	
		10	7	16	0.3	18	0.2	0	0	4
		12	68	29.1	34	0.5	8	0.1	14	
	11	25	76	4.3	20	0.24	34	0.5	22	
		2	32	0.5	32	0.4	6	0.1	8	
		15	4	0.1	30	0.3	4	0.0	10	
	12	25	6	0.1	12	0.1	0	0	0	
		9	0	0	14	0.1	0	0	0	
		16	0	0	14	0.1	0	0	0	

調査時期			モンシロチョウ		その他チョウ目		ハイマダラノメイガ		アブラムシ類
年	月	日	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数	寄生株率
21	9	22	0	0	0	0	0	0	0
		10	7	0	0	0	0	0	0
		12	0	0	0	0	0	0	0
	11	25	0	0	0	0	0	0	0
		2	0	0	0	0	0	0	0
		15	0	0	0	0	0	0	0
	12	25	4	0.0	0	0	0	0	6
		9	2	0.0	0	0	0	0	6
		16	4	0.0	0	0	0	0	2

作物：ブロッコリー	品種：ピクセル	植え付け：2021年9月22日
-----------	---------	-----------------

調査時期			黒腐病	べと病	コナジラミ類	シロイチモジヨトウ		ヨトウガ	
年	月	日	発病株率	発病株率	寄生株率	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数
21	10	7	0	0	2	4	0.0	0	0
		12	0	0	0	8	0.3	6	0.1
		25	0	0	0	24	0.7	0	0
	11	2	0	0	0	6	0.1	10	0.1
		15	0	0	0	0	0	0	0
		25	0	0	0	0	0	0	0
	12	9	0	0	0	0	0	0	0
		16	0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0

調査時期			ハシロコトウ		コナガ		オオタバコガ		ウワバ類
年	月	日	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数	寄生株率
21	10	7	44	25.5	34	0.4	0	0	22
		12	44	1.7	8	0.1	24	0.2	10
		25	30	0.3	30	0.3	6	0.1	12
	11	2	2	0.0	12	0.2	0	0	4
		15	0	0	12	0.1	0	0	4
		25	0	0	12	0.1	0	0	0
	12	9	0	0	10	0.1	0	0	2
		16	0	0	0	0	0	0	0
		14	0	0	12	0.2	0	0	2

調査時期			モンシロチョウ		その他チョウ目		ハイマダラノメイガ		アブラムシ類
年	月	日	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数	寄生株率	株当虫数	寄生株率
21	10	7	0	0	0	0	0	0	0
		12	0	0	0	0	0	0	0
		25	0	0	0	0	0	0	0
	11	2	0	0	0	0	0	0	0
		15	2	0.0	0	0	0	0	6
		25	2	0.0	0	0	0	0	2
	12	9	2	0.0	0	0	0	0	0
		16	0	0	0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0	0

(3) 予察灯並びにトラップによる誘殺成績

a ウンカ類(セジロウンカ、トビロウンカ、ヒメトビウンカ)、コブノメイガ

月	半旬	セジロウンカ					トビロウンカ					ヒメトビウンカ					コブノメイガ	
		諫早		佐世保	島原	岐宿	諫早		佐世保	島原	岐宿	諫早		佐世保	島原	岐宿	予察圃(諫早)	
		白熱	ネット	白熱	白熱	白熱	白熱	ネット	白熱	白熱	白熱	白熱	ネット	白熱	白熱	白熱	早期	普通期
4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-
	5	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-
	6	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-
5	1	0	1	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-
	2	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-
	3	1	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-
	4	2	3	-	-	-	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-
	5	2	0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	8	-	-	-	-	-
	6	0	1	-	-	-	0	0	-	-	-	0	4	-	-	-	-	-
6	1	2	14	0	0	0	1	0	1	0	0	0	9	0	0	0	-	-
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	-
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	-
	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
	6	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	1	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	225	6	34	12	55	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	5	
	3	63	0	2	1	11	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	
	4	16	0	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	6	
	5	7	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
	6	1	18	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
8	1	1	16	3	7	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	2	7	25	0	5	108	0	0	0	0	2	0	0	0	5	4	4	
	3	119	1	5	137	1,194	6	0	18	30	1	0	0	0	5	8	4	
	4	107	2	7	42	540	0	0	0	10	0	0	0	1	2	5	0	
	5	8	1	1	171	78	0	2	16	2	0	0	0	0	0	2	1	
	6	10	2	5	15	186	3	0	11	1	10	0	1	0	2	1	1	
9	1	120	5	173	72	2,003	0	0	1	4	17	0	0	4	9	0	15	
	2	12	1	35	8	47	2	0	1	1	3	0	0	0	2	1	0	
	3	11	1	2	2	21	0	1	0	0	2	0	1	0	1	2	11	
	4	3	-	3	18	16	0	-	0	1	0	0	-	0	0	-	-	
	5	1	-	-	2	14	2	-	-	1	7	0	-	0	0	-	-	
	6	2	-	0	4	15	0	-	0	1	1	0	-	0	0	-	-	
10	1	1	-	-	-	-	13	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	
	2	0	-	-	-	-	11	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	
	3	0	-	-	-	-	4	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	
	4	0	-	-	-	-	7	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	
	5	0	-	-	-	-	4	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	
	6	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	
合計		722	97	274	501	4299	0	3	15	44	84	2	25	1	7	29	34	50

b ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ナシヒメシンクイ、チャノコカクモンハマキ、チャノホソガ、チャノキイロアザミワ (2021年調査)

月	半旬	ハスモンヨトウ		オオタバコガ		ナシヒメシンクイ		チャノコカクモンハマキ		チャノホソガ		チャノキイロアザミワ	
		諫早 (フェロントラップ)		諫早 (フェロントラップ)		諫早 (フェロントラップ)		東彼杵 (フェロントラップ)		東彼杵 (フェロントラップ)		諫早 (黄色粘着トラップ)	
		2021	平年	2021	平年	2021	平年	2021	平年	2021	平年	2021	平年
4	1	0	1.6	0	0.4	12	18.6	40.5	24.4	23.0	451.1	1	0.6
	2	2	10.8	0	0.8	3	12.8	40.5	60.3	23.0	566.1	1	0.9
	3	6	15.9	3	0.5	1	8.5	40.5	97.8	23.0	552.2	4	0.4
	4	1	15.9	0	1.1	0	4.5	67.2	197.8	41.6	162.5	1	0.2
	5	6	21.5	1	1.8	4	1.9	185.4	176.6	46.9	163.8	2	0.4
	6	7	22.8	3	1.9	9	1.7	151.5	105.3	4.0	75.2	3	0.6
5	1	10	21.6	3	5.3	5	2.7	69.5	68.4	4.9	53.1	0	1.3
	2	34	40.6	3	4.1	0	1.9	132.7	136.7	1.3	42.1	4	3.8
	3	45	45.3	0	5.1	0	4.1	87.3	115.3	6.7	35.6	4	3.6
	4	208	43.5	9	5.9	13	7.1	6.7	54.0	89.3	67.6	12	3.9
	5	159	31.3	1	2.8	9	10.4	1.0	45.1	770.0	1070.3	3	5.8
	6	149	34.8	4	3.0	13	17.8	0.0	29.9	744.0	2804.7	18	8.4
6	1	86	30.1	0	0.8	2	17.7	13.0	35.3	2,078.0	2780.5	68	26.9
	2	20	60.8	0	0.5	4	10.8	128.0	33.0	1,002.0	2460.3	54	30.2
	3	9	54.3	0	1.3	10	10.5	545.0	77.5	534.0	776.3	136	34.2
	4	28	61.4	0	1.4	14	4.7	693.0	357.1	182.5	508.7	86	27.2
	5	13	62.1	0	7.1	9	9.8	602.6	451.4	182.6	176.9	44	30.4
	6	6	104.9	0	7.6	18	9.5	354.4	361.5	658.7	216.0	180	25.9
7	1	32	90.0	2	5.6	8	14.2	97.0	232.6	690.7	630.3	91	16.5
	2	81	85.6	3	2.8	11	21.8	17.0	86.3	314.0	1289.2	50	12.4
	3	48	79.6	0	1.3	20	21.8	12.0	16.0	300.0	1018.7	39	12.5
	4	8	56.5	0	0.5	14	18.6	67.3	19.7	193.0	894.9	35	12.9
	5	8	62.0	0	0.1	10	21.6	398.3	68.6	247.5	329.0	29	13.1
	6	50	77.3	0	0.5	11	17.4	976.7	190.5	1,461.5	369.5	64	20.3
8	1	45	75.5	0	0.1	11	15.2	287.0	100.9	1,372.0	880.8	62	21.1
	2	129	70.6	0	0.8	3	12.6	33.0	90.0	251.8	852.3	62	19.2
	3	89	63.1	2	0.3	5	12.9	15.0	29.5	219.8	1006.3	18	16.6
	4	37	59.6	0	0.3	10	14.6	6.0	17.8	135.4	957.1	8	16.5
	5	10	105.5	3	0.5	8	14.5	32.3	11.8	51.0	419.9	4	21.4
	6	63	122.8	0	1.5	5	13.5	230.7	17.1	744.0	352.1	14	24.4
9	1	140	112.6	0	1.4	2	12.0	314.0	55.4	714.5	475.4	16	21.1
	2	54	80.7	0	0.4	6	16.8	383.0	201.3	999.5	1396.4	6	22.5
	3	62	93.0	0	1.8	3	12.7	295.0	340.6	1,114.0	1582.1	20	12.2
	4	71	154.0	0	2.1	4	14.9	69.0	308.0	35.0	711.3	3	14.6
	5	32	128.0	0	4.3	4	12.9	82.3	204.4	479.3	412.4	12	8.9
	6	38	124.0	0	3.0	13	16.1	65.7	113.0	1,527.7	375.0	16	7.8
10	1	41	173.8	1	7.4	10	12.3	43.0	59.8	659.0	204.1	36	
	2	38	112.3	0	6.3	0	5.8	57.2	32.5	1,386.4	160.2	67	
	3	42	117.5	0	7.5	5	3.0	65.8	19.7	2,542.6	230.9	41	
	4	86	83.6	49	5.3	3	2.3	23.0	30.4	673.0	243.9	11	
	5	41	88.0	26	7.9	0	1.4	19.5	24.6	220.0	287.4	8	
	6	67	136.1	10	10.5	0	0.6	23.2	26.7	400.0	251.0	18	
11	1	49	72.4	1	4.1			23.8	10.0	405.4	116.1		
	2	35	126.3	2	14.8			42.3	10.1	126.8	118.2		
	3	8	70.5	5	7.0			42.3	36.0	126.8	124.6		
	4	6	72.5	1	6.8			39.0	18.3	136.2	113.9		
	5	3	41.1	3	6.8			20.1	15.9	289.3	118.0		
	6	4	27.1	2	1.3			0.6	9.7	2.5	24.7		
合計		2,206	3,440	137	164	181	454	5,921	4,197	20,947	33,808	661	455

* チャノコカクモンハマキ、チャノホソガは農林技術開発センター茶業研究室の調査

平年値はハスモンヨトウ、オオタバコガは2011～2020年(最大・小除く)

ナシヒメシンクイ、チャノキイロアザミワは2011～2020年、チャノコカクモンハマキ・チャノホソガは2016～2020年の平均

c カメムシ類

(2021年調査)

月	半旬	クモヘリカメムシ				ホソハリカメムシ				シラホシカメムシ				アカスジカスミカメ			
		諫早	北有	佐世保	岐宿	諫早	北有	佐世保	岐宿	諫早	北有	佐世保	岐宿	諫早	北有	佐世保	岐宿
		白熱	白熱	白熱	白熱	白熱	白熱	白熱	白熱	白熱	白熱	白熱	白熱	白熱	白熱	白熱	白熱
4	1	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	2	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	3	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	4	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	5	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	6	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
5	1	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	2	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	1	-	-	-
	3	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	2	-	-	-
	4	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	5	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	6	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	1	-	-	-
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	12
	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12	0	23
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	8	0	111
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	20	0	17
	5	0	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	24	0	23
	6	0	2	2	5	0	0	0	1	0	0	0	0	7	6	0	16
8	1	0	3	0	9	0	0	0	2	0	0	0	0	0	5	0	33
	2	0	1	0	6	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	34
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
	5	0	1	0	0	0	2	0	3	0	5	0	0	0	1	0	53
	6	0	1	0	1	0	0	0	5	0	3	0	0	2	3	0	118
9	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	168
	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	154
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	205
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	1	0	117
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	90
	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	3	7	0	175
10	1	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	2	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	3	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	4	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	5	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
	6	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-
合計		0	11	4	26	0	3	0	14	0	10	0	2	45	101	1	1415

(2021年調査)

月	半旬	チャバネアオカメムシ							ツヤアオカメムシ							マルホシタヤドリバエ	
		諫早				北有馬	佐世保	岐宿	諫早				北有馬	佐世保	岐宿	諫早	
		白熱	青色	黄色 コガネ コルA	黄色 コガネ コルB	白熱	白熱	白熱	白熱	青色	黄色 コガネ コルA	黄色 コガネ コルB	白熱	白熱	白熱	黄色 コガネ コルA	黄色 コガネ コルB
4	1	0		0	0				0		0	1				0	1
	2	0		0	0				0		0	0				0	0
	3	0		0	0				0		0	0				2	0
	4	0		0	0				0		0	0				3	1
	5	0		1	0				0		1	0				10	1
	6	0		0	0				0		0	0				0	4
5	1	0		0	8				0		0	3				4	2
	2	0		3	2				0		1	1				14	3
	3	0		5	2				0		0	1				5	1
	4	0		2	51				0		0	3				2	0
	5	0		2	8				0		0	0				1	0
	6	0		1	7				0		0	1				1	1
6	1	0	0	7	10	0	0	0	0	0	0	21	1	0	0	0	0
	2	0	0	10	0	1	0	0	0	0	0	11	1	1	0	4	2
	3	0	0	2	1	0	7	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
	4	0	1	2	3	0	2	0	0	1	0	4	0	0	0	0	1
	5	0	0	0	54	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	6	0	0	7	1	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0
7	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	2	0	0	1	49	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	3	0	1	0	36	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
	4	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
8	1	0	0	1	13	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	1	8	4	3	1	0	0	0	9	3	2	0	0	0
	3	0	0	0	7	12	8	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0
	4	1	0	0	8	14	1	1	0	0	0	0	3	1	0	0	0
	5	0	2	0	2	17	18	8	0	0	0	8	2	1	0	0	0
	6	0	4	0	6	42	15	15	0	1	0	3	4	3	2	0	0
9	1	0	0	0	1	8	2	12	1	0	0	0	2	0	1	0	0
	2	0	0	1	3	5	6	1	0	0	0	0	3	4	0	0	0
	3	0	1	0	0	1	9	9	0	0	0	0	2	5	0	0	0
	4	0	0	1	1	1	4	2	0	0	0	0	0	2	1	0	0
	5	0	0	0	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
	6	0	0	0	8	3	5	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0
10	1		0	0	7					0	0	0				0	1
	2			6	7						2	0				9	0
	3															4	0
	4															0	0
	5															0	0
	6															0	0
合計		1	9	58	312	120	87	49	1	3	4	78	27	26	5	62	19

(4)巡回調査成績

ア 稲

(ア)早期水稲

調査時期			葉いもち				紋枯病				ばか苗病				萎縮病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	5	前後	37	0	0	0	37	0	0	0	37	0	0	0	37	0	0	0
		後前	25	0	0	0	25	0	0	0	25	0	0	0	25	0	0	0
	6	前後	37	5.4	56.0	1.5	37	0	0	0	37	0	0	0	37	0	0	0
		後前	25	4.0	100.0	4.0	25	0	0	0	25	0	0	0	25	0	0	0
	7	前後	39	20.5	88.0	2.6	39	0	0	0	39	0	0	0	39	0	0	0
		後前	25	12.0	8.0	0.5	25	20.0	5.0	0.0	25	0	0	0	25	0	0	0
	8	前後	37	-	-	-	34	44.1	12.0	1.2	34	0	0	0	34	0	0	0
		後前																

調査時期			縞葉枯病				白葉枯病				ごま葉枯病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	5	前後	37	0	0	0	37	0	0	0	37	0	0	0
		後前	25	0	0	0	25	0	0	0	25	0	0	0
	6	前後	37	0	0	0	37	0	0	0	37	0	0	0
		後前	25	0	0	0	25	0	0	0	25	12.0	80.0	6.4
	7	前後	39	2.6	0.2	0.0	39	0	0	0	39	17.9	100.0	10.6
		後前	25	0	0	0	25	0	0	0	25	32.0	100.0	16.3
	8	前後	34	0	0	0	34	0	0	0	34	26.5	100.0	7.3
		後前												

調査時期			穂いもち				もみ枯細菌病				稲こうじ病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病総率		調査圃場数	発生圃場率	発病総率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	6	前後	37	-	-	-	37	-	-	-	37	-	-	-
		後前	25	-	-	-	25	-	-	-	25	-	-	-
	7	前後	39	-	-	-	39	-	-	-	39	-	-	-
		後前	25	20.0	11.0	1.1	25	0	0	0	25	0	0	0
	8	前後	34	17.6	10.0	0.4	34	0	0	0	34	0	0	0
		後前												

調査時期			ツマグロヨコバイ							セジロウンカ								
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	成虫(頭/株)		幼虫(頭/株)		合計(頭/株)		調査圃場数	発生圃場率	成虫(頭/株)		幼虫(頭/株)		合計(頭/株)	
					最高	平均	最高	平均	最高	平均			最高	平均	最高	平均	最高	平均
2021	5	前後	37	5.4	0.02	0.00	0	0	0.02	0.00	37	0	0	0	0	0	0	0
		後前	25	4.0	0	0	0.02	0.00	0.02	0.00	25	24.0	0.08	0.01	0.02	0.00	0.10	0.01
	6	前後	37	56.8	0.05	0.00	2.40	0.23	2.45	0.24	37	70.3	0.15	0.79	1.40	0.21	1.55	1.00
		後前	25	80.0	0.40	0.03	1.25	0.38	1.65	0.42	25	84.0	0.90	0.10	2.38	0.67	3.28	0.77
	7	前後	39	66.7	0.15	0.02	2.30	0.21	2.45	0.23	39	89.7	0.70	0.09	3.90	0.88	4.60	0.97
		後前	25	56.0	0.20	0.03	1.30	0.23	1.50	0.26	25	60.0	0.90	0.12	0.80	0.14	1.70	0.26
	8	前後	34	64.7	0.60	0.06	6.80	0.90	7.40	0.96	34	55.9	0.35	0.04	0.15	0.03	0.50	0.07
		後前																

調査時期			トビロウンカ							ヒメトビウンカ								
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	成虫(頭/株)		幼虫(頭/株)		合計(頭/株)		調査圃場数	発生圃場率	成虫(頭/株)		幼虫(頭/株)		合計(頭/株)	
					最高	平均	最高	平均	最高	平均			最高	平均	最高	平均	最高	平均
2021	5	前後	37	0	0	0	0	0	0	0	37	0	0	0	0	0	0	0
		後前	25	0	0	0	0	0	0	0	25	4.0	0	0	0.03	0.00	0.03	0.00
	6	前後	37	0	0	0	0	0	0	0	37	54.1	0.15	0.02	0.85	0.07	1.00	0.09
		後前	25	52.0	0.30	0.03	0.98	0.16	1.28	0.19	25	84.0	0.55	0.07	1.85	0.36	2.40	0.43
	7	前後	39	48.7	0.10	0.01	0.60	0.08	0.70	0.08	39	82.1	0.70	0.11	4.65	0.32	5.35	0.43
		後前	25	16.0	0.05	0.00	0.65	0.04	0.70	0.04	25	60.0	0.55	0.09	0.90	0.13	1.45	0.21
	8	前後	34	23.5	0.10	0.00	0.40	0.05	0.50	0.05	34	70.6	0.45	0.07	0.35	0.09	0.80	0.16
		後前																

調査時期			コブノメイガ						
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	被害葉発生圃場率	食害株率		10㎡当り成虫数	
						最高	平均	最高	平均
2021	5	前後	37	0	0	0	0	0	0
		後前	25	0	0	0	0	0	0
	6	前後	37	8.1	0	0	0	0.30	0.02
		後前	25	12.0	20.0	4.0	0.3	3.00	0.20
	7	前後	39	15.4	56.4	16.0	2.0	7.00	0.45
		後前	25	0	0	0	0	0	0
	8	前後	34	-	-	-	-	-	-
		後前							

調査時期			ニカメイガ				イチモンジセセリ				フタオビコヤガ							
年	月	期	調査圃場数	被害発生圃場率	被害株率		株当虫数		被害発生圃場率	被害株率		株当虫数		被害発生圃場率	被害株率		株当虫数	
					最高	平均	最高	平均		最高	平均	最高	平均		最高	平均		
2021	5	前後	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		後前	25	0	0	0	0	0	16.0	0.4	0.1	0	0	0	0	0	0	
	6	前後	37	0	0	0	0	0	37.8	16.0	1.5	0	0	2.7	4.0	0.1	0	
		後前	25	0	0	0	0	0	16.0	16.0	1.4	0	0	0	0	0	0	
	7	前後	39	0	0	0	0	0	15.4	2.0	0.1	0	0	0	0	0	0	
		後前	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	8	前後	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		後前																

調査時期			カメムシ類				イネミズゾウムシ				イネゾウムシ			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	20回振り成虫数		調査圃場数	被害葉発生圃場率	食害株率		調査圃場数	被害葉発生圃場率	食害株率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	5	前後	37	-	-	-	37	62.2	76.0	11.1	37	16.2	4.0	0.4
		前後	25	-	-	-	25	68.0	92.0	23.9	25	40.0	4.0	1.3
	6	前後	37	-	-	-	37	-	-	-	37	-	-	-
		前後	25	-	-	-	25	-	-	-	25	-	-	-
	7	前後	39	58.3	13.0	1.9	39	-	-	-	39	-	-	-
		前後	25	24.0	4.0	0.4	25	-	-	-	25	-	-	-
	8	前後	34	2.9	2.0	0.1	34	-	-	-	34	-	-	-

調査時期			イネヨトウ				アワヨトウ				イネクロカメムシ					
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	食害株率		調査圃場数	発生圃場率	寄生株率		調査圃場数	被害発生圃場率	被害株率		株当り寄生虫数	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均	最高	平均
2021	5	前後	37	0	0	0	37	0	0	0	37	0	0	0	0	0
		前後	25	0	0	0	25	0	0	0	25	24.0	8.0	1.1	0	0
	6	前後	37	0	0	0	37	0	0	0	37	2.0	2.0	0.1	0.08	0.00
		前後	25	0	0	0	25	0	0	0	25	16.0	12.0	0.8	0.04	0.00
	7	前後	39	0	0	0	39	0	0	0	39	23.1	4.0	0.6	4.00	0.15
		前後	25	0	0	0	25	0	0	0	25	0	0	0	0	0
	8	前後	34	0	0	0	34	0	0	0	34	-	-	-	-	-

(イ)普通期水稻

調査時期			葉いもち				紋枯病				ばか苗病				萎縮病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	6	前後	16	0	0	0	16	0	0	0	16	0	0	0	16	0	0	0
		後	68	0	0	0	68	0	0	0	68	0	0	0	68	0	0	0
	7	前後	86	2.3	60.0	1.3	86	0	0	0	86	0	0	0	86	0	0	0
		後	68	8.8	8.0	0.3	68	2.9	6.0	0.1	68	0	0	0	68	0	0	0
	8	前後	86	29.1	84.0	3.0	86	20.9	31.0	1.1	86	0	0	0	86	0	0	0
		後	68	25.0	24.0	0.7	68	25.0	50.0	1.5	68	1.5	0.2	0.0	68	0	0	0
	9	前後	86	-	-	-	86	59.3	88.0	6.9	86	0	0	0	86	0	0	0
		後	68	-	-	-	68	76.5	86.0	11.7	68	-	-	-	68	-	-	-

調査時期			縞葉枯病				白葉枯病				黄化萎縮病				ごま葉枯病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	6	前後	16	0	0	0	16	0	0	0	16	0	0	0	16	0	0	0
		後	68	0	0	0	68	0	0	0	68	0	0	0	68	0	0	0
	7	前後	86	0	0	0	86	0	0	0	86	0	0	0	86	1.2	2.0	0.0
		後	68	0	0	0	68	0	0	0	68	0	0	0	68	1.5	8.0	0.1
	8	前後	86	0	0	0	86	0	0	0	86	0	0	0	86	15.1	100.0	3.6
		後	68	0	0	0	68	0	0	0	68	0	0	0	68	7.4	88.0	2.2
	9	前後	86	0	0	0	86	0	0	0	86	0	0	0	86	25.6	100.0	7.5
		後	68	0	0	0	68	0	0	0	68	-	-	-	68	13.2	80.0	2.3

調査時期			穂いもち				もみ枯細菌病				稲こうじ病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病穂率		調査圃場数	発生圃場率	発病穂率		調査圃場数	発生圃場率	発病穂率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	7	前後	86	-	-	-	86	-	-	-	86	-	-	-
		後	68	-	-	-	68	-	-	-	68	-	-	-
	8	前後	86	-	-	-	86	-	-	-	86	-	-	-
		後	68	2.9	0.8	0.0	68	2.9	0.2	0.0	68	0	0	0
	9	前後	86	16.3	19.0	0.3	86	17.4	5.0	0.2	86	10.5	24.0	0.5
		後	68	13.2	2.0	0.1	68	5.9	0.2	0.0	68	5.9	15.0	0.2

調査時期			ツマグロヨコバイ						セジロウシカ									
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	成虫(頭/株)		幼虫(頭/株)		合計(頭/株)		調査圃場数	発生圃場率	成虫(頭/株)		幼虫(頭/株)		合計(頭/株)	
					最高	平均	最高	平均	最高	平均			最高	平均	最高	平均	最高	平均
2021	6	前後	16	6.3	0	0	0.02	0.00	0.02	0.00	16	0	0	0	0	0	0	0
		後	68	1.5	0	0	0.05	0.00	0.05	0.00	68	0	0	0	0	0	0	0
	7	前後	86	5.8	0.05	0.00	0.20	0.00	0.25	0.01	86	37.2	0.70	0.07	0.20	0.00	0.90	0.08
		後	68	25.0	0.20	0.01	0.65	0.05	0.85	0.05	68	29.4	0.60	0.03	5.00	0.25	5.60	0.27
	8	前後	86	34.9	0.65	0.02	0.80	0.08	1.45	0.10	86	37.2	0.80	0.04	0.25	0.03	1.05	0.07
		後	68	16.2	0.10	0.00	0.40	0.02	0.50	0.02	68	39.7	0.65	0.02	3.40	0.11	4.05	0.13
	9	前後	86	23.3	0.05	0.00	1.15	0.05	1.20	0.05	86	61.6	0.35	0.04	0.65	0.06	1.00	0.10
		後	68	17.6	2.94	0.00	16.18	0.01	19.12	0.02	68	51.5	0.10	0.01	1.30	0.12	1.40	0.13

調査時期			トビイロウンカ						ヒメトビウンカ									
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	成虫(頭/株)		幼虫(頭/株)		合計(頭/株)		調査圃場数	発生圃場率	成虫(頭/株)		幼虫(頭/株)		合計(頭/株)	
					最高	平均	最高	平均	最高	平均			最高	平均	最高	平均	最高	平均
2021	6	前後	16	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0
		後	68	0	0	0	0	0	0	0	68	1.5	0.05	0.00	0	0	0.05	0.00
	7	前後	86	4.7	0.05	0.00	0.05	0.00	0.10	0.00	86	9.3	0.10	0.01	0.05	0.00	0.15	0.01
		後	68	2.9	0.00	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	68	22.1	0.25	0.01	0.40	0.02	0.65	0.04
	8	前後	86	8.1	0.05	0.00	0.15	0.01	0.20	0.01	86	37.2	0.25	0.02	0.60	0.03	0.85	0.05
		後	68	0.4	0.10	0.01	0.40	0.01	0.50	0.02	68	29.4	0.10	0.00	0.50	0.04	0.60	0.05
	9	前後	86	31.4	0.05	0.00	0.20	0.02	0.25	0.02	86	44.2	0.20	0.02	0.50	0.04	0.70	0.06
		後	68	51.5	0.15	0.01	0.95	0.12	1.10	0.13	68	51.5	0.25	0.01	0.65	0.06	0.90	0.07

調査時期			コブノメイガ						
年	月	期	調査圃場数	成虫発生圃場率	被害葉発生圃場率	食害株率		10m当り成虫数	
						最高	平均	最高	平均
2021	6	前後	16	0	0	0	0	0	0
		後	68	0	0	0	0	0	0
	7	前後	86	3.5	2.3	2.0	0.0	0.00	0.01
		後	68	0	26.5	10.0	0.6	0	0
	8	前後	86	10.5	55.8	20.0	2.0	1.00	0.03
		後	68	7.4	20.6	4.0	0.3	1.00	0.03
	9	前後	86	-	-	-	-	-	-
		後	68	-	-	-	-	-	-

調査時期			ニカメイガ				イチモンジセセリ				フタオビコヤガ							
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	被害株率		株当り虫数		被害発生圃場率	被害株率		株当り虫数		被害発生圃場率	被害株率		株当り虫数	
					最高	平均	最高	平均		最高	平均	最高	平均		最高	平均	最高	平均
2021	6	前後	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		後	68	0	0	0	0	0	1.5	1.0	0.0	0	0	0	0	0	0	
	7	前後	86	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.2	0.5	0.0	0	
		後	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	8	前後	86	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		後	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	9	前後	86	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		後	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

調査時期			カメシ類				イネミズゾウムシ				イネゾウムシ			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	20回振り成虫		調査圃場数	被害葉発生圃場率	食害株率		調査圃場数	被害葉発生圃場率	食害株率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	6	前	16	-	-	-	16	31.3	6.0	1.5	16	0	0	0
		後	68	-	-	-	68	8.8	12.0	0.5	68	4.4	8.0	0.2
	7	前	86	-	-	-	86	3.5	8.0	0.2	86	2.3	2.0	0.0
		後	68	-	-	-	68	-	-	-	68	-	-	-
	8	前	86	-	-	-	86	-	-	-	86	-	-	-
		後	68	18.2	3.0	0.3	68	-	-	-	68	-	-	-
	9	前	86	15.1	5.0	0.3	86	-	-	-	86	-	-	-
		後	68	8.8	6.0	0.2	68	-	-	-	68	-	-	-

調査時期			イネヨトウ				アワヨトウ				イネクロカメシ					
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	食害株率		調査圃場数	発生圃場率	寄生株率		調査圃場数	発生圃場率	寄生株率		株当寄生虫数	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均	最高	平均
2021	6	前	16	0	0	0	16	0	0	0	16	0	0	0	0	0
		後	68	0	0	0	68	0	0	0	68	4.4	1.0	0.0	0	0
	7	前	86	0	0	0	86	0	0	0	86	7.0	16.0	0.6	0	0
		後	68	0	0	0	68	0	0	0	68	5.9	4.0	0.1	0	0
	8	前	86	0	0	0	86	0	0	0	86	2.3	8.0	0.1	0.08	0.00
		後	68	0	0	0	68	0	0	0	68	0	0	0	0	0
	9	前	86	0	0	0	86	0	0	0	86	-	-	-	-	-
		後	68	0	0	0	68	0	0	0	68	-	-	-	-	-

イ 麦類

(ア)小麦

調査時期			さび病類				うどんこ病				萎縮病類				黒節病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	3	前後	15	0	0	0	15	0	0	0	15	0	0	0	15	0	0	0
		後	15	0	0	0	15	0	0	0	15	0	0	0	15	0	0	0
	4	前後	15	0	0	0	15	6.7	0.1	0.0	15	0	0	0	15	0	0	0
		後	15	0	0	0	15	13.3	5.0	0.3	15	0	0	0	15	0	0	0
	5	前後	21	0	0	0	21	0	0	0	21	0	0	0	21	0	0	0
後	9	0	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0	

調査時期			株腐病				赤かび病				黒穂病類			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	3	前後	15	0	0	0	15	-	-	-	15	-	-	-
		後	15	0	0	0	15	-	-	-	15	-	-	-
	4	前後	15	6.7	1.0	0.1	15	0	0	0	15	0	0	0
		後	15	0	0	0	15	0	0	0	15	0	0	0
	5	前後	21	4.8	1.0	0.0	21	0	0	0	21	0	0	0
後	9	0	0	0	0	9	22	0.3	0.0	9	0	0	0	

調査時期			アブラムシ類				ハモグリバエ類			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	株当虫数		調査圃場数	発生圃場率	寄生茎率	
					最高	平均			最高	平均
2021	3	前後	15	20.0	0.08	0.01	15	0	0	0
		後	15	60.0	0.20	0.04	15	0	0	0
	4	前後	15	60.0	0.04	0.02	15	0	0	0
		後	15	13.3	0.04	0.01	15	0	0	0
	5	前後	21	28.6	0.56	0.06	21	0	0	0
後	9	0	0	0	0	9	0	0	0	

(イ)大麦

調査時期			さび病類				うどんこ病				萎縮病類				斑葉病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	3	前後	9	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0
		後	9	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0
	4	前後	9	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0
		後	9	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0
	5	前後	12	0	0	0	12	0	0	0	12	0	0	0	12	0	0	0

調査時期			黒節病				株腐病				赤かび病				黒穂病類			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	3	前後	9	0	0	0	9	0	0	0	9	-	-	-	9	-	-	-
		後	9	0	0	0	9	0	0	0	9	-	-	-	9	-	-	-
	4	前後	9	0	0	0	9	22.2	7.0	1.1	9	0	0	0	9	0	0	0
		後	9	11.1	0.2	0.0	9	33.3	0.5	0.1	9	0	0	0	9	0	0	0
	5	前後	12	0	0	0	12	0	0	0	12	0	0	0	12	0	0	0

調査時期			アブラムシ類				ハモグリバエ類			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	株当虫数		調査圃場数	発生圃場率	株当虫数	
					最高	平均			最高	平均
2021	3	前後	9	11.1	0.04	0.00	9	0	0	0
		後	9	77.8	0.44	0.12	9	0	0	0
	4	前後	9	77.8	4.00	0.50	9	0	0	0
		後	9	11.1	0.08	0.01	9	0	0	0
	5	前後	12	8.3	0.04	0.00	12	0	0	0

ウ 大豆

調査時期			べと病				葉焼病				ウイルス病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率		調査圃場数	発生圃場率	発病株率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
2021	7	前	5	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0
		後	9	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0
	8	前	15	13.3	4.0	0.4	15	0	0	0	15	0	0	0
		後	9	44.4	100	28.9	9	0	0	0	9	0	0	0
	9	前	15	46.7	100	21.6	15	60.0	76.0	13.3	15	0	0	0
		後	9	55.6	100	31.8	9	55.6	100	29.3	9	0	0	0
	10	前	9	0	0	0	9	55.6	100	37.3	9	0	0	0
		後	9	0	0	0	9	77.8	100	65.8	9	0	0	0

調査時期			ハスモンヨトウ						ウワバ類					
年	月	期	調査圃場数	白変葉発生圃場率	寄生株率		株当虫数		調査圃場数	発生圃場率	寄生株率		株当虫数	
					最高	平均	最高	平均			最高	平均	最高	平均
2021	7	前	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0
		後	9	11.1	20.0	3.2	0.40	0.07	9	22.2	1.0	0.2	0.01	0.00
	8	前	15	80.0	20.0	4.5	1.00	0.11	15	0	0	0	0	0
		後	9	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0
	9	前	15	66.7	48.0	8.4	3.00	0.30	15	13.3	4.0	0.4	0.04	0.00
		後	9	66.7	8.0	2.2	1.44	0.31	9	0	0	0	0	0
	10	前	9	66.7	18.0	5.3	4.20	0.84	9	0	0	0	0	0
		後	9	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0

調査時期			アブラムシ類				コガネムシ類				カメムシ類(成幼虫)					
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	寄生株率		調査圃場数	発生圃場率	寄生株率		調査圃場数	発生圃場率	寄生株率		株当虫数	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均	最高	平均
2021	7	前	5	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0
		後	9	11.1	0.2	0.0	9	0	0	0	9	0	0	0	0	0
	8	前	15	0	0	0	15	0	0	0	15	6.7	4.0	0.3	0.04	0.00
		後	9	0	0	0	9	11.1	0.5	0.1	9	11.1	0.5	0.1	0.01	0.00
	9	前	15	0	0	0	15	0	0	0	15	0	0	0	0	0
		後	9	88.9	28.0	12.9	9	0	0	0	9	33.3	4.0	1.3	0.04	0.01
	10	前	9	33.3	32.0	6.2	9	0	0	0	9	11.1	4.0	0.4	0.04	0.00
		後	9	0	0	0	9	0	0	0	9	0	0	0	0	0

(子実調査)

調査時期			紫斑病	ダイズサヤマハエ	カメムシ類
年	月	期	被害粒率	被害莢率	被害粒率
2021	11	前	0.1	1.2	6.7

エ かんきつ

調査時期			そうか病								かいよう病							
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病果率		調査圃場数	発生圃場率	発病果率		調査圃場数	発生圃場率	発病果率		調査圃場数	発生圃場率	発病果率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均			最高	平均
21	3	前後	36	3	2	0.1	-	-	-	-	36	39	6	1	-	-	-	-
		前後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4	前後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		前後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5	前後	36	8	1	0	-	-	-	-	36	28	6	0	-	-	-	-
		前後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6	前後	36	6	0	0	36	0	0	0	36	16.7	2	0.2	36	0	0	0
		前後	-	-	-	-	0	-	0	-	-	-	-	-	0	-	0	-
	7	前後	36	0	0	0	36	2.8	1	0.03	36	36.1	18	1.15	36	22	6	0
		前後	-	-	-	-	0	-	0	-	-	-	-	-	0	-	0	-
	8	前後	-	-	-	-	36	0	0	0	36	41.7	4	0.6	36	25.0	4	0.2
		前後	-	-	-	-	36	0	0	0	36	55.6	8	0.9	36	38.9	8	1.0
	9	前後	-	-	-	-	36	0	0	0	36	58.3	10	0.9	36	47	10	0.9
		前後	-	-	-	-	36	0	0	0	36	33.3	6	1	36	22.2	6	1
	10	前後	-	-	-	-	36	0	0	0	-	-	-	-	36	25.0	6	0.4
		前後	-	-	-	-	33	0	0	0	-	-	-	-	33	21.2	4	0.4

調査時期			黒点病				灰色かび病				青かび・緑かび病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病果率		調査圃場数	発生圃場率	発病果率		調査圃場数	発生圃場率	発病果率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
21	6	前後	36	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-
		前後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7	前後	36	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	
		前後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	8	前後	36	5.6	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	
		前後	36	16.7	12	0.5	-	-	-	-	-	-	-	
	9	前後	36	19.4	6	0.6	-	-	-	-	-	-	-	
		前後	36	69.4	100	7.0	-	-	-	-	36	0	0	0
	10	前後	35	77.1	60	11.4	-	-	-	-	35	2.9	0.3	0.01
		前後	33	69.7	44	7.3	-	-	-	-	33	0	0	0

調査時期			ヤノネカイガラムシ						アカマルカイガラムシ				ナシマルカイガラムシ					
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	寄生果率		調査圃場数	発生圃場率	寄生果率		調査圃場数	発生圃場率	寄生果率		調査圃場数	発生圃場率	寄生果率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均			最高	平均
21	5	後	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		前後	36	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		前後	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	7	前後	36	0	0	0	36	0	0	0	36	2.8	4	0.1	36	0	0	0
		前後	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	8	前後	36	0	0	0	36	0	0	0	36	6	2	0.1	36	0	0	0
		前後	36	0	0	0	36	0	0	0	36	16.7	14	0.8	36	8.3	4	0.2
	9	前後	36	0	0	0	36	0	0	0	36	8.3	16	0.5	36	0	0	0
		前後	36	0	0	0	36	0	0	0	36	13.9	10	0.5	36	0	0	0
	10	前後	36	0	0	0	35	2.9	4	0.1	35	2.9	4	0.1	35	0	0	0
		前後	33	0	0	0	33	0	0	0	33	3.0	1	0.0	33	3.0	2	0.1

調査時期			チャノキイロアザミウマ						ミカンハダニ				アブラムシ類					
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	果梗部		調査圃場数	発生圃場率	果頂部		調査圃場数	発生圃場率	寄生果率		調査圃場数	発生圃場率	寄生新梢率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均			最高	平均
21	3	前後	-	-	-	-	-	-	-	36	30.6	16	2.2	-	-	-	-	
		前後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	4	前後	-	-	-	-	-	-	-	36	61.1	50	6.4	36	8	4	0.3	
		前後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5	前後	-	-	-	-	-	-	-	36	25.0	28	2.1	36	25	8	0.8	
		前後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6	前後	36	0	0	0	36	0	0	0	36	30.6	20	1.7	36	8.3	4	0.3
		前後	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	7	前後	36	0	0	0	36	0	0	0	36	25.0	100	8.9	36	0	0	0
		前後	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	8	前後	36	13.9	4	0.3	36	5.6	2	0	36	30.6	36	2.7	36	3	1	0.01
		前後	36	41.7	12	1.0	36	13.9	6	0	36	33.3	54	3.6	36	0	0	0
	9	前後	36	36.1	12	1.7	36	11.1	2	0	36	30.6	22	2.2	36	0	0	0
		前後	36	16.7	12	0.6	36	25.0	10	1.0	36	16.7	8	0.7	36	6	2	0.1
	10	前後	35	14.3	12	0.9	35	37.1	12	1.7	35	14.3	20	1.0	-	-	-	-
		前後	33	0	0	0	33	36.4	6	1.3	33	3.0	12	0.4	-	-	-	-
	11	前後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		前後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

オ びわ

調査時期			がんしゅ病				灰斑病				褐斑病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病枝葉率		調査圃場数	発生圃場率	発病枝葉率		調査圃場数	発生圃場率	発病枝葉率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
21	4	前	10	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-
		5	10	10	1	0	10	0	0	0	10	0	0	0
		6	10	0	0	0	10	40	2	0.6	10	60	4	1.2
		7	10	0	0	0	10	90	22	5.4	10	80	22	8
		8	10	10	1	0	10	10	1	0.1	10	100	10	2.9
9	前	10	0	0	0	10	50	4	1.2	10	80	8	2.8	

カ なし

調査時期			ナシマルカイガラムシ				ナシヒメシクイ				ハマキムシ類			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	寄生枝葉率		調査圃場数	発生圃場率	寄生枝葉率		調査圃場数	発生圃場率	寄生枝葉率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
21	4	前	10	0	0	0	10	0	0	0	10	20	2	0.4
		5	10	0	0	0	10	0	0	0	10	10	2	0
		6	10	0	0	0	10	0	0	0	10	0	0	0
		7	10	0	0	0	10	0	0	0	10	60	4	1
		8	10	0	0	0	10	0	0	0	10	30	1	0
9	前	10	0	0	0	10	0	0	0	10	10	2	0.2	

調査時期			黒星病(葉)				黒星病(果実)				赤星病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病葉率		調査圃場数	発生圃場率	発病果率		調査圃場数	発生圃場率	発病葉率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
21	4	前	12	8.3	0.2	0.02	12	8.3	0.2	0.02	12	25	8	0.7
		後	12	8	0.2	0	12	25	2	0	12	66.7	13	1.8
	5	前	12	8.3	2	0.2	12	8.3	0.2	0.0	12	66.7	20	4.4
		後	12	33.3	6	1.3	12	8.3	6	0.5	12	75.0	16	4.2
	6	前	12	25.0	4	0.42	12	0	0	0	12	58.3	52	8.2
		後	12	33.3	6	1.1	12	8	1	0.08	12	66.7	34	5.3
	7	前	12	25.0	0.5	0.1	12	0	0	0	-	-	-	-
		後	12	16.7	0.5	0.1	12	0	0	0	-	-	-	-
	8	前	12	8.3	0.3	0.0	12	8.3	6	0.5	-	-	-	-
		後	12	16.7	6	0.7	12	0	0	0	-	-	-	-
	9	前	12	25.0	1	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-
		後	12	25.0	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-

調査時期			輪紋病(果実)				輪紋病(葉)				うどんこ病			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病果率		調査圃場数	発生圃場率	発病葉率		調査圃場数	発生圃場率	発病葉率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
21	6	前	-	-	-	-	-	-	-	-	12	0	0	0
		後	-	-	-	-	-	-	-	-	12	0	0	0
	7	前	12	0	0	0	12	8.3	0.1	0.01	12	0	0	0
		後	12	8.3	0.2	0.02	12	0	0	0	12	0	0	0
	8	前	12	0	0	0	12	0	0	0	12	16.7	1	0.1
後		12	0	0	0	12	25	8	1.4	12	0	0	0	
9	前	-	-	-	-	12	8	0.3	0.03	12	0	0	0	
	後	-	-	-	-	12	0	0	0	12	0	0	0	

調査時期			ハダニ類				アブラムシ類				カメムシ類			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	寄生葉率		調査圃場数	発生圃場率	寄生新梢率		調査圃場数	発生圃場率	寄生果率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均
21	4	前	12	0	0	0	12	16.7	0.5	0.1	-	-	-	-
		後	12	0	0	0	12	16.7	3	0.3	-	-	-	-
	5	前	12	8.3	0.2	0.02	12	33.3	24	2.3	12	0	0	0
		後	12	8.3	0.5	0.04	12	16.7	4	0	12	0	0	0
	6	前	12	0	0	0	12	0	0	0	12	0	0	0
		後	12	8.3	0.2	0.02	12	0	0	0	12	0	0	0
	7	前	12	17	2	0.3	12	8.3	0.2	0.02	12	0	0	0
		後	12	42	92	14.1	12	0	0	0	12	8.3	0.1	0.01
	8	前	12	0	0	0	12	0	0	0	12	8.3	0.5	0.04
		後	12	8.3	12	1.0	12	0	0	0	12	16.7	4	0.67
	9	前	12	16.7	14	1.33	12	0	0	0	-	-	-	-
		後	12	0	0	0	12	0	0	0	-	-	-	-

キ 茶

調査時期			炭疽病				もち病				チャノコカクモンハマキ				チャノホソガ			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	病葉数 / m ²		調査圃場数	発生圃場率	病葉数 / m ²		調査圃場数	発生圃場率	巻葉数 / m ²		調査圃場数	発生圃場率	巻葉数 / m ²	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均			最高	平均
21	4	後	-	-	-	-	-	-	-	-	15	0	0	0	15	6.7	0.5	0.03
		前	19	0	0	0	19	0	0	0	19	0	0	0	19	0	0	0
	5	後	15	26.7	2	0.4	15	0	0	0	15	6.7	2	0.1	15	6.7	2	0
		前	19	68.4	10	1.3	19	0	0	0	19	11	1	0	19	21	0.5	0
	6	後	15	66.7	19	3.1	15	0	0	0	15	20	4	0	15	0	0	0
		前	19	84.2	125	12.6	19	0	0	0	19	52.6	11	1	19	15.8	2	0
	7	後	15	40.0	5	0.6	15	0	0	0	15	13	2	0	15	0	0	0
		前	19	73.7	21	3.0	19	0	0	0	19	37	21	2	19	5.3	2	0.1
	8	後	15	53.3	11	1.8	15	0	0	0	15	26.7	4	1	15	0	0	0
		前	19	57.9	3	0.5	19	16	0	0	19	15.8	0.1	0	19	5	0.5	0
	9	後	15	100	37	11.8	15	0	0	0	15	46.7	9.1	1.5	15	40.0	2	0.3
		前																

調査時期			チャノミドリヒメヨコバイ				カンザワハダニ				チャノキイロアザミウマ				クワシロカイガラムシ			
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	虫数		調査圃場数	発生圃場率	寄生葉率		調査圃場数	発生圃場率	虫数		調査圃場数	発生圃場率	寄生株率	
					最高	平均			最高	平均			最高	平均			最高	平均
21	2	前	-	-	-	-	15	7	6	0	-	-	-	-	-	-	-	-
		後	-	-	-	-	15	40	26	3	-	-	-	-	15	6.7	10	0.7
	3	前	-	-	-	-	15	53.3	30	5.0	-	-	-	-	15	33.3	10	1.8
		後	-	-	-	-	15	0	0	0	15	33.3	5	0.9	15	40.0	6	0.8
	4	前	15	26.7	5	0.7	15	0	0	0	15	26.7	3	0.5	15	20.0	5.5	0.5
		後	19	94.7	5.5	2.2	19	42.1	78	5.5	19	84.2	12.5	4.4	19	0	0	0
	5	前	15	26.7	1	0.2	15	6.7	3	0.2	15	66.7	27	5.3	15	0	0	0
		後	19	94.7	38	10.8	19	15.8	3	0.2	19	94.7	44	17.6	19	47.4	15	1.5
	6	前	15	100	31	13.5	15	0	0	0	15	100	137	35.2	15	26.7	65	6.7
		後	19	78.9	35	4.6	19	15.8	16	2.1	19	94.7	104	26.2	19	42.1	20	4.1
	7	前	15	60.0	14	2.5	15	6.7	4	0.3	15	93.3	60	18.3	15	27	20	3
		後	19	52.6	14	2.6	19	42.1	8	1	19	89.5	191	51.6	19	31.6	20	3.4
8	前	15	66.7	7	1.6	15	13	8	1	15	93.3	235	49.3	15	6.7	5	0.3	
	後	19	26.3	3	0.5	19	21.1	4	0.5	19	57.9	38	5.6	19	5.3	1	0.1	
9	前	15	80.0	11	2.0	15	27	4	1	15	100	41	10.1	15	46.7	70	12.3	
	後																	

ケバレイシヨ

2021年(令和3年)春作

調査時期			葉巻病				モザイク病			青枯病			疫病		
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
21	3	前後	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		後	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	前後	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		後	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	前後	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後		5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

調査時期			アブラムシ類					ニジュウヤホシテントウ					
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	寄生株率		株当虫数		発生圃場率	寄生株率		株当虫数	
					最高	平均	最高	平均		最高	平均	最高	平均
21	3	前後	24	16.7	12	1.3	0.24	0.02	0	0	0	0	0
		後	24	20.8	8	1.2	0.08	0.01	4.17	2	0.08	0.02	0.00
	4	前後	24	25	12	1.2	0.16	0.01	4.17	2	0.08	0.02	0.00
		後	21	38.1	24	3.4	0.44	0.07	0	0	0	0	0
	5	前後	18	38.9	60	7.6	1.4	0.14	5.56	2	0.11	0.02	0.00
後		5	20	4	0.8	0	0	0	0	0	0	0	

調査時期			ジャガイモガ				ヨウムシ類								
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	被害株率		発生圃場率	被害株率		ハスモンヨウ		シイモシヨウ		その他	
					最高	平均		最高	平均	株当虫数		株当虫数		株当虫数	
										最高	平均	最高	平均	最高	平均
21	3	前後	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		後	24	4.2	2	0.08	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	前後	24	12.5	0.5	0.05	0	0	0	0	0	0	0	0	
		後	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5	前後	18	5.6	0.4	0.02	5.56	0.2	0.01	0	0	0.00	0.00	0	0
後		5	20	2	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0		

2021年(令和3年)秋作

調査時期			葉巻病				モザイク病			青枯病			疫病		
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
21	9	後	18	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		前後	20	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	10	前後	20	10.0	1	0.1	0	0	0	10.0	2.0	0.2	0	0	
		前	20	0.0	0	0	0	0	0	5.0	1	0.1	0	0	
	11	後	20	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	10.0	5	

調査時期			アブラムシ類					ニジュウヤホシテントウ					
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	寄生株率		株当虫数		発生圃場率	寄生株率		株当虫数	
					最高	平均	最高	平均		最高	平均	最高	平均
21	9	後	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		前後	20	15.0	4	0.4	0.04	0.0	0	0	0	0	0
	10	前後	20	5.0	4	0.2	0.2	0.0	0	0	0	0	0
		前	20	10.0	8	0.6	0.4	0.0	0	0	0	0	0
	11	後	20	35.0	65.4	5.1	32.0	1.6	0	0	0	0	0

調査時期			ジャガイモガ				ヨウムシ類								
年	月	期	調査圃場数	発生圃場率	被害株率		発生圃場率	被害株率		ハスモンヨウ		シイモシヨウ		その他	
					最高	平均		最高	平均	株当虫数		株当虫数		株当虫数	
										最高	平均	最高	平均	最高	平均
21	9	後	18	5.6	0.5	0.03	11.1	2	0.2	0	0	0.02	0.00	0	0
		前後	20	20.0	2	0.35	95.0	56	17.1	0.8	0.09	0.12	0.02	0	0
	10	前後	20	20.0	6	0.6	65.0	84	16.5	0.0	0.00	0.08	0.01	0	0
		前	20	20.0	24	1.43	60.0	100	23.8	0.04	0.01	0	0	0	0
	11	後	20	5.0	1	0.05	35.0	100	13.5	0.3	0.02	0	0	0	0

コ きゅうり

調査時期			調査圃場数	モザイク病			斑点細菌病			べと病			褐斑病		
年	月	期		発生圃場率	発病葉率		発生圃場率	発病葉率		発生圃場率	発病葉率		発生圃場率	発病葉率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
21	11	前後	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11		11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12		12	0	0	0	0	0	0	8.3	2.0	0.2	0	0	0
22	1	前後	12	0	0	0	0	0	0	16.7	29.0	2.4	0	0	0
	2		12	0	0	0	0	0	0	33.3	25.0	2.8	0	0	0
	3		11	0	0	0	0	0	0	36.4	40.0	5.7	0	0	0
	3		10	0	0	0	0	0	0	70.0	58.0	14.9	0	0	0
	4	前	4	0	0	0	0	0	75.0	65.0	28.0	0	0	0	

調査時期			調査圃場数	炭疽病			うどんこ病			菌核病			灰色かび病		
年	月	期		発生圃場率	発病葉率		発生圃場率	発病葉率		発生圃場率	発病果率		発生圃場率	発病果率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
21	11	前後	8	0	0	0	37.5	7.0	1.3	0	0	0	0	0	0
	11		11	0	0	0	18.2	1.0	0.1	0	0	0	0	0	0
	12		12	0	0	0	41.7	10.0	1.8	0	0	0	0	0	0
22	1	前後	12	0	0	0	16.7	34.0	3.0	0	0	0	0	0	0
	2		12	0	0	0	33.3	7.0	1.0	0	0	0	0	0	0
	3		11	0	0	0	45.5	9.0	2.9	0	0	0	0	0	0
	3		10	0	0	0	50.0	4.0	1.2	0	0	0	0	0	0
	4	前	4	0	0	0	25.0	7.0	1.8	0	0	0	0	0	

調査時期			調査圃場数	退緑黄化病			黄化えそ病		
年	月	期		発生圃場率	発病葉率		発生圃場率	発病葉率	
					最高	平均		最高	平均
21	11	前後	8	0	0	0	0	0	0
	11		11	0	0	0	0	0	0
	12		12	41.7	14.0	3.1	0	0	0
22	1	前後	12	66.7	60.0	15.6	0	0	0
	2		12	75.0	95.0	35.0	0	0	0
	3		11	72.7	95.0	41.5	0	0	0
	3		10	80.0	98.0	24.5	0	0	0
	4	前	4	25.0	0.2	0.1	0	0	0

調査時期			調査圃場数	ミナキイロアザミウマ			アブラムシ			コナジラミ			ウリハムシ		
年	月	期		発生圃場率	寄生葉率		発生圃場率	寄生葉率		発生圃場率	寄生葉率		発生圃場率	寄生葉率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
21	11	前後	8	0	0	0	0	0	0	87.5	29.0	8.8	0	0	0
	11		11	0	0	0	0	0	0	27.3	4.0	0.6	0	0	0
	12		12	0	0	0	0	0	0	8.3	2.0	0.2	0	0	0
22	1	前後	12	8.3	1.0	0.1	0	0	0	25.0	2.0	0.4	0	0	0
	2		12	33.3	5.0	0.9	0	0	0	25.0	10.0	1.1	0	0	0
	3		11	18.2	49.0	4.5	0	0	0	18.2	2.0	0.3	0	0	0
	3		10	20.0	34.0	3.5	0	0	0	10.0	24.7	2.5	0	0	0
	4	前	4	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	

調査時期			調査圃場数	ハスモンヨトウ			ハダニ		
年	月	期		発生圃場率	寄生葉率		発生圃場率	寄生葉率	
					最高	平均		最高	平均
21	11	前後	8	0	0	0	0	0	0
	11		11	0	0	0	0	0	0
	12		12	0	0	0	0	0	0
22	1	前後	12	0	0	0	0	0	0
	2		12	0	0	0	8.3	2.0	0.2
	3		11	0	0	0	0	0	0
	3		10	0	0	0	0	0	0
	4	前	4	0	0	0	0	0	

サトマト

調査時期			調査圃 場数	黄化葉巻病			モザイク病			青枯・萎凋病			疫病		
年	月	期		発生圃 場率	発病株率		発生圃 場率	発病株率		発生圃 場率	発病株率		発生圃 場率	発病株率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
21	11	前後	12	0	0	0	0	0	0	8.3	1.0	0.1	0	0	0
		11	12	8.3	0.2	0.02	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		12	12	8.3	0.5	0.04	0	0	0	8.3	0.5	0.0	0	0	0
22	11	1	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2	12	25.0	50.0	5.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		3	12	8.3	1.0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		3	12	25.0	5.0	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		4	12	25.0	5.0	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		4	11	18.2	3.0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		5	11	9.1	1.0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		5	12	25.0	4.0	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期			調査圃 場数	葉かび			灰色かび病			アブラムシ			コジラミ		
年	月	期		発生圃 場率	発病株率		発生圃 場率	発病株率		発生圃 場率	寄生株率		発生圃 場率	寄生株率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
21	11	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41.7	10.0	2.2
		11	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	83.3	21.0	3.1
		12	12	17	0	0	0	0	0	0	0	0	83.3	11.0	2.8
22	11	1	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	83.3	29.0	4.0
		2	12	0	0	0	17	2	0	0	0	0	33.3	14.0	3.2
		3	12	0	0	0	17	1	0	0	0	0	41.7	16.0	3.1
		3	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50.0	32.0	6.2
		4	12	8	10	1	17	4	0	0	0	0	41.7	50.0	7.8
		4	11	9	1	0	45	6	1	0	0	0	36.4	19.0	2.8
		5	11	0	0	0	9	0	0	0	0	0	54.5	93.0	14.8
		5	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33.3	97.0	18.1

調査時期			調査圃 場数	ハモグリハエ			タカコ類		
年	月	期		発生圃 場率	寄生葉率		発生圃 場率	被害果率	
					最高	平均		最高	平均
21	11	前後	12	0	0	0	0	0	0
		11	12	0	0	0	0	0	0
		12	12	0	0	0	0	0	0
22	11	1	12	0	0	0	0	0	0
		2	12	0	0	0	0	0	0
		3	12	0	0	0	0	0	0
		3	12	0	0	0	0	0	0
		4	12	0	0	0	0	0	0
		4	11	0	0	0	0	0	0
		5	11	0	0	0	0	0	0
		5	12	8.3	1.0	0.1	0	0	0

シ いちご
育苗床

調査時期			調査圃場数	うどんこ病			炭疽病 (<i>C.acutatum</i>)			炭疽病 (<i>G.cingulata</i>)			萎黄病		
年	月	期		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
'21	5	前	27	7.4	86.0	3.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		後	30	13.3	44.0	1.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		前後	30	3.3	54.0	1.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	前	27	3.7	48.0	1.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		後	29	10.3	32.0	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		前後	26	3.8	2.0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	前	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		後	25	0	0	0	0	0	0	4.0	0.2	0.01	0	0	0
		前後	26	0	0	0	0	0	0	7.7	0.6	0.03	0	0	0

調査時期			調査圃場数	輪斑病			じゃのめ病			ハダニ類			アブラムシ類		
年	月	期		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
'21	5	前	27	0	0	0	0	0	0	63.0	80	12.6	59.3	36	5.5
		後	30	16.7	2	0.2	0	0	0	10.0	60	3.1	6.7	6	0.3
		前後	30	40.0	40	4.3	0	0	0	13.3	4	0.3	16.7	4	0.4
	6	前	27	70.4	76	9.5	0	0	0	48.1	54	5.4	7.4	18	0.9
		後	29	58.6	48	4.7	0	0	0	62.1	48	9.4	17.2	6	0.5
		前後	26	61.5	52	6.6	0	0	0	69.2	74	19.8	3.8	2	0.08
	7	前	30	63.3	46	8.4	0	0	0	53.3	80	15.4	16.7	18	1.5
		後	25	88.0	68	13.4	0	0	0	48.0	36	6.1	4.0	4	0.2
		前後	26	61.5	60	11.6	0	0	0	53.8	64	10.2	19.2	28	1.8

調査時期			調査圃場数	ハスモンヨトウ				コガネムシ類					
年	月	期		発生圃場率	被害株率		株当幼虫数		発生圃場率	被害株率		株当幼虫数	
					最高	平均	最高	平均		最高	平均	最高	平均
'21	5	前	27	3.7	4	0.1	0	0	0	0	0	0	0
		後	30	16.7	2	0.2	0	0	6.7	1	0.07	0	0
		前後	30	6.7	4	0.2	0	0	13.3	6	0.3	0	0
	6	前	27	11.1	0.4	0.04	0	0	14.8	4	0.2	0	0
		後	29	17.2	4	0.4	0.04	0.001	10.3	4	0.2	0	0
		前後	26	7.7	2	0.1	0	0	19.2	2	0.2	0	0
	7	前	30	23.3	8	0.9	0.08	0.003	6.7	1	0.04	0	0
		後	25	36.0	12	1.5	0.02	8E-04	0	0	0	0	0
		前後	26	19.2	4	0.4	0.02	0.002	0	0	0	0	0

調査時期			調査圃場数	アザミウマ類				メセンチュウ			
年	月	期		発生圃場率	被害株率		株当幼虫数		発生圃場率	被害株率	
					最高	平均	最高	平均		最高	平均
'21	5	前	27	22.2	12	1.7	0.1	0.01	0	0	0
		後	30	40	22	2.6	0.06	0.007	0	0	0
		前後	30	16.7	6	0.6	0.1	0.005	0	0	0
	6	前	27	29.6	8	0.8	0	0	0	0	0
		後	29	3.4	0.2	0.007	0.02	7E-04	0	0	0
		前後	26	15.4	18	1	0.06	0.002	0	0	0
	7	前	30	13.3	6	0.4	0.02	0.002	0	0	0
		後	25	4	4	0.16	0	0	0	0	0
		前後	26	0	0	0	0	0	0	0	0

本圃

調査時期			調査圃場数	炭疽病			萎黄病			うどんこ病(葉)			うどんこ病(果)			灰色かび病			菌核病		
年	月	期		発生圃場率	発生株率 最高 平均	発生圃場率	発生株率 最高 平均	発生圃場率	発生株率 最高 平均	発生圃場率	発生株率 最高 平均	発生圃場率	発生株率 最高 平均	発生圃場率	発生株率 最高 平均	発生圃場率	発生株率 最高 平均	発生圃場率	発生株率 最高 平均		
21	9	後	27	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10	前後	27	3.7	1.33	0.049	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	10	後	26	3.8	0.0	0.0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11	前後	27	11.1	5.0	0.22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11	後	27	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
	12	前後	27	3.7	0.2	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	12	後	27	7.4	1.0	0.0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
22	1	前後	27	0	0	0	4	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	
	1	後	26	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	前後	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	後	27	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	前後	26	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	後	27	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	前後	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	後	27	0	0	0	7	14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

調査時期			調査圃場数	アブラムシ			ハダニ			ハスモンヨトウ				
年	月	期		発生圃場率	発生株率 最高 平均	発生圃場率	発生株率 最高 平均	発生圃場率	被害株率 最高 平均	株当虫数 最高 平均	最高	平均	最高	平均
21	9	後	27	22.2	10.0	0.9	29.6	58.0	5.4	29.6	20.0	1.8	0.0	0.00
	10	前後	27	22.2	12.0	1.5	33.3	40.0	4.2	63.0	26.0	6.2	0.2	0.03
	10	後	26	19.2	10.0	1.0	34.6	84.0	9.5	69.2	24.0	3.8	0.1	0.1
	11	前後	27	18.5	20.0	1.3	48.1	60.0	5.7	22.2	16.0	1.6	0.0	0.001
	11	後	27	7.4	10.0	0.7	59.3	36.0	5.9	25.9	4.0	0.8	0.1	0.00
	12	前後	27	25.9	14.0	1.6	66.7	84.0	12.9	0	0	0	0	0
	12	後	27	18.5	22.0	1.6	63.0	62.0	11.3	3.7	2.0	0.1	0.0	0.0
22	1	前後	27	29.6	18.0	1.9	77.8	48.0	9.0	7.4	2.0	0.1	0.0	0.0
	1	後	26	19.2	26.0	2.4	46.2	46.0	8.8	0	0	0	0	0
	2	前後	27	18.5	16.0	1.6	51.9	84.0	12.7	0	0	0	0	0
	2	後	27	22.2	42.0	2.5	55.6	98.0	11.4	0	0	0	0	0
	3	前後	26	26.9	74.0	3.4	42.3	100	16.7	3.8	2.0	0.1	0.0	0.0
	3	後	27	33.3	46.0	2.9	66.7	60.0	14.1	0	0	0	0	0
	4	前後	27	14.8	6.0	0.5	55.6	94.0	18.3	0	0	0	0	0
	4	後	27	22.2	6.0	0.7	66.7	90.0	19.6	0	0	0	0	0

調査時期			調査圃場数	オオハコガ(葉)				オオハコガ(果)					
年	月	期		発生圃場率	発生株率 最高 平均	株当虫数 最高 平均	発生圃場率	被害株率 最高 平均	株当虫数 最高 平均	最高	平均	最高	平均
21	9	後	27	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-
	10	前後	27	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-
	10	後	26	3.8	2.0	0.1	2.00	0.077	-	-	-	-	-
	11	前後	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11	後	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12	前後	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12	後	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	1	前後	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1	後	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	前後	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	後	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	前後	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	後	27	3.7	4.0	0.1	0.04	0.001	0	0	0	0	0
	4	前後	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	後	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期			調査圃場数	アザミウマ類(花)		
年	月	期		発生圃場率	寄生花率 最高 平均	寄生花率 最高 平均
21	9	後	-	-	-	-
	10	前後	-	-	-	-
	10	後	18	27.8	3.0	0.50
	11	前後	26	61.5	9.0	1.6
	11	後	27	40.7	3.0	0.7
	12	前後	25	52.0	6.0	1.3
	12	後	26	42.3	23.0	2.4
22	1	前後	27	14.8	2.0	0.2
	1	後	26	11.5	6.0	0.3
	2	前後	27	29.6	7.0	0.7
	2	後	27	29.6	13.0	1.0
	3	前後	26	38.5	15.0	1.7
	3	後	27	66.7	27.0	6.1
	4	前後	27	59.3	56.0	5.5
	4	後	27	74.1	38.0	6.0

ス レタス

調査時期			調査圃場数	萎黄病			斑点細菌病			腐敗病			灰色かび病		
年	月	期		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
21	9	後	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10	前後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10	後	15	6.7	0.2	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11	前後	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11	後	15	0	0	0	0	0	0	6.6667	0.333	0.022	13.333	0.2	0.027
	12		10	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0.2	0.02	

調査時期			調査圃場数	菌核病			すそ枯病		
年	月	期		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率	
					最高	平均		最高	平均
21	9	後	4	0	0	0	0	0	0
	10	後	15	0	0	0	0	0	0
	11	前後	15	0	0	0	0	0	0
	11	後	15	0	0	0	0	0	0
	12		10	20.0	1.8	0.2	0	0	0

調査時期			調査圃場数	ネキリムシ			アブラムシ			ハスモンヨトウ				
年	月	期		発生圃場率	寄生株率		発生圃場率	寄生株率		発生圃場率	寄生株率		株当虫数	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均	最高	平均
21	9	後	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	10	前後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	10	後	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11	後	15	0	0	0	6.7	2.0	0.1	6.6667	8	0.533	0.08	0.005
	12		10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11	後	15	0	0	0	6.7	2.0	0.1	6.7	8.0	0.5	0.08	0.005

調査時期			調査圃場数	オオタバコガ				
年	月	期		発生圃場率	寄生株率		株当虫数	
					最高	平均	最高	平均
21	9	後	4	0	0	0	0	0
	10	前後	2	0	0	0	0	0
	10	後	15	0	0	0	0	0
	11	前	15	0	0	0	0	0
	12		10	0	0	0	0	0

セ たまねぎ

調査時期			調査圃場数	萎黄病			白色疫病			べと病			葉枯病		
年	月	期		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
21	11	前後	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		11	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		12	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0
22	2	1	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2	16	0	0	0	0	0	0	6	0.1	0.0	0	0	0
		前後	16	0	0	0	0	0	0	19	0.3	0.0	0	0	0
		2	16	0	0	0	0	0	0	43.8	1.0	0.2	0	0	0
		3	16	0	0	0	0	0	0	50.0	0.6	0.1	10	7	1

調査時期			調査圃場数	黒班病			さび病			アザミウマ類			アブラムシ類		
年	月	期		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	寄生株率		発生圃場率	寄生株率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
21	11	前後	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		11	16	0	0	0	0	0	0	25.0	16.0	2.0	0	0	0
		12	16	0	0	0	0	0	0	37.5	16.0	3.3	0	0	0
22	2	1	16	0	0	0	0	0	0	50.0	20	6.3	0	0	0
		2	16	0	0	0	0	0	0	81.3	76.0	33.0	0	0	0
		前後	16	0	0	0	0	0	0	56.3	56.0	9.5	0	0	0
		2	16	0	0	0	0	0	0	68.8	76	22.0	0	0	0
		3	16	0	0	0	0	0	0	70.0	56.0	24.6	0	0	0

ソ ブロココリー

調査時期			調査圃場数	黒腐病(葉)			軟腐病(葉)			べと病(葉)			花蕾腐敗病		
年	月	期		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率		発生圃場率	発病株率	
					最高	平均		最高	平均		最高	平均		最高	平均
21	9	前後	4	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	
	9	前後	8	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	
	10	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	
	10	前後	12	25.0	26	4.3	0	0	0	0	0	-	-	-	
	11	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	12	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

調査時期			調査圃場数	アブラムシ類				コナガ					
年	月	期		発生圃場率	寄生株率		株当虫数		発生圃場	寄生株率		株当虫数	
					最高	平均	最高	平均		最高	平均	最高	平均
21	9	前後	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9	前後	8	0	0	0	0	0	12.5	4.0	0.5	0.04	0.01
	10	前後	12	0	0	0	0	0	66.7	28.0	10.0	0.7	0.2
	10	前後	12	0	0	0	0	0	25.0	8.0	2.2	0.1	0.03
	11	前後	12	16.7	8.0	1.0	0.8	0	33.3	48.0	9.7	1.2	0.2
	11	前後	12	0	0	0	0	0	58.3	16.0	4.0	0.2	0.04
	12	前後	12	8.3	20.0	1.7	2.7	0.2	25.0	8.0	1.3	0.1	0.01

調査時期			調査圃場数	ハスモンヨトウ					ヨトウガ						
年	月	期		発生圃場率	寄生株率		株当虫数		白変葉数		発生圃場	寄生株率		株当虫数	
					最高	平均	最高	平均	最高	平均		最高	平均	最高	平均
21	9	前後	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	9	前後	8	37.5	12.0	3.5	0.3	0.06	0	0	0	0	0	0	
	10	前後	12	50.0	68.0	18.0	32.1	6.1	15.0	2.6	0	0	0	0	
	10	前後	12	58.3	12.0	4.2	5.2	1.1	8.0	1.2	0	0	0	0	
	11	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	12	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

調査時期			調査圃場数	シロイチモジヨトウ				オオタバコガ					
年	月	期		発生圃場率	寄生株率		株当虫数		発生圃場	寄生株率		株当虫数	
					最高	平均	最高	平均		最高	平均	最高	平均
21	9	前後	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	9	前後	8	12.5	4.0	0.5	0.04	0.01	13	1	0	0	0
	10	前後	12	33.3	20.0	3.3	3.4	0.3	0	0	0	0	0
	10	前後	12	16.7	12.0	1.3	0.1	0.01	25.0	16.0	2.0	20.0	3.2
	11	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11	前後	12	25.0	12.0	2.3	0	0	0	0	0	0	0
	12	前後	12	16.7	8.0	1.0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期			調査圃場数	ウリバ類				ハイマダラノメイガ				ネキリムシ類				
年	月	期		発生圃場率	寄生株率		株当虫数		発生圃場	寄生株率		株当虫数		発生圃場	被害株率	
					最高	平均	最高	平均		最高	平均	最高	平均		最高	平均
21	9	前後	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	9	前後	8	25.0	24.0	3.5	0.2	0.04	0	0	0	0	0	0	0	
	10	前後	12	8.3	28.0	2.3	0.4	0.03	0	0	0	0	0	0	0	
	10	前後	12	25.0	4.0	1.0	0.04	0.01	0	0	0	0	0	0	0	
	11	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	12	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

調査時期			調査圃場数	アオムシ				コナジラミ類					
年	月	期		発生圃場率	寄生株率		株当虫数		発生圃場	寄生株率		白化症	
					最高	平均	最高	平均		最高	平均	最高	平均
20	9	前後	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	9	前後	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	10	前後	12	0	0	0	0	0	8.3	4	0.3	0	0
	10	前後	12	0	0	0	0	0	8.3	4.0	0.3	0	0
	11	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11	前後	12	0	0	0	0	0	8.3	4.0	0.3	0	0
	12	前後	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

タ アスパラガス

調査時期			調査圃場数	斑点性病害 (褐斑病・斑点病)			アザミウマ類			ハスモンヨトウ		
				発生圃場率	発病株率		発生圃場率	虫数/10カ所		発生圃場率	寄生幼虫数	
年	月	期	最高		平均	最高		平均	最高		平均	
21	5	前	11	9.1	0.333	0.0	90.9	179	28.6	0	0	0
	6	前	12	16.7	2	0.3	41.7	34	5.4	0	0	0
	7	前	12	16.7	3.0	0.4	58.3	243	27.1	0	0	0
	8	前	12	25	7	1.1	66.7	85	24.5	0	0	0
	9	前	11	90.9	65	13.1	45.5	230	42.7	9.1	1	0.091
	10	前	9	88.9	34.0	9.6	55.5	54	16.4	0	0	0

(5)病害虫防除員による調査成績

ア 普通作

(フェロモントラップ調査)

コブノメイガ (2021年)

大村市萱瀬		佐世保市吉井町		長崎市琴海		対馬市	
調査期間	頭	調査期間	頭	調査期間	頭	調査期間	頭
6/22	設置	6/22	設置	6/25	設置	6/25	設置
7/1	1	6/26	0	6/28	0	7/9	3
7/13	1	7/1	0	7/5	0	7/16	0
7/21	0	7/6	0	7/12	1	7/26	0
8/3	0	7/11	8	7/16	0	8/4	0
		7/16	3	7/20	0	8/19	0
		7/21	0	7/26	0	8/26	0
		7/26	0	7/29	0		
		7/31	3	8/3	0		
		8/5	0	8/10	2		
		8/10	1	8/16	0		
		8/15	2	8/19	0		
		8/20	5	8/26	0		
		8/25	3	8/31	0		
		8/30	2				

注) 数値は調査期間内に誘殺されたトラップ1基当たりの雄成虫数

イ 野菜花き フェロモンラップ調査 (2021年)

ハスモンヨトウ							
大村市武留路		諫早市小野島		雲仙市吾妻		南島原市南有馬	
調査 月日		調査 月日		調査 月日		調査 月日	
6/30	設置	6/30	設置	6/28	設置	6/28	設置
7/2	28	7/2	9	6/30	11	7/5	14
7/9	36	7/7	161	7/5	21	7/12	71
7/16	26	7/12	365	7/9	78	7/19	18
7/23	33	7/14	135	7/15	67	7/26	10
7/30	16	7/19	119	7/20	7	8/3	14
8/6	49	7/21	32	7/26	23	8/10	42
8/13	20	7/26	124	7/30	10	8/16	39
8/20	35	7/30	220	8/5	10	8/24	23
8/27	23	8/2	124	8/11	17	8/30	6
9/3	59	8/6	99	8/16	26	9/7	50
9/10	203	8/10	199	8/20	23	9/14	31
9/17	131	8/12	12	8/25	4	9/21	23
9/24	62	8/17	7	8/30	11	9/27	13
10/1	31	8/20	8	9/6	117	10/5	26
10/8	25	8/24	2	9/10	56	10/11	25
10/15	42	8/27	3	9/15	31	10/18	58
10/22	131	8/31	16	9/21	61	10/25	89
10/29	51	9/1	3	9/24	79	11/4	47
		9/6	55	9/30	46	11/9	14
		9/14	34	10/5	163	11/17	58
		9/21	33	10/11	204	11/22	33
		9/28	37	10/15	53	11/29	18
		9/30	5	10/20	193		
		10/1	3	10/25	119		
		10/6	46	10/29	68		
		10/15	48	11/5	137		
		10/24	75	11/11	110		
		10/29	33	11/15	48		
		11/1	27	11/19	33		
		11/9	53	11/26	26		
		11/16	78	11/29	2		
		11/18	70				
		11/24	80				
		12/1	35				

ウ きゅうり

数値は管内の発生概況(5段階評価:多(5)、やや多(4)、並(3)、やや少(2)、少(1))、なし(0)

調査時期 年 月	調査 地区数	退緑黄化病		黄化えそ病		斑点細菌病		べと病		褐斑病		うどんこ病	
		最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均
21	10	0											
	10	1	4	4	0	0	0	0	1	1	1	1	1
	11	1	4	4	1	1	1	1	2	2	1	1	1
	11	1	3	3	0	0	0	0	2	2	1	1	2
	12	1	4	4	2	2	0	0	2	2	1	1	1
	12	1	4	4	1	1	0	0	3	3	1	1	2
22	1	1	2	2	0	0	0	0	2	2	2	2	3
	1	1	2	2	0	0	0	0	2	2	2	2	3
	2	1	3	3	1	1	0	0	2	2	2	2	3
	2	1	3	3	0	0	0	0	3	3	2	2	3
	3	1	3	3	0	0	0	0	3	3	1	1	3
	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

調査時期 年 月	調査 地区数	アブラムシ類		アザミウマ類		コナジラミ類		ウリハムシ		灰色かび(果実)		菌核病(果実)	
		最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均
21	10	0											
	10	1	1	1	4	4	4	4	0	0	1	1	1
	11	1	2	2	4	4	5	5	0	0	1	1	1
	11	1	1	1	3	3	3	3	0	0	1	1	1
	12	1	0	0	3	3	4	4	0	0	0	0	0
	12	1	0	0	3	3	4	4	0	0	1	1	1
22	1	1	1	1	2	2	3	3	0	0	3	3	3
	1	1	1	1	2	2	3	3	0	0	3	3	3
	2	1	1	1	3	3	3	3	0	0	3	3	3
	2	1	1	1	3	3	3	3	0	0	3	3	4
	3	1	2	2	2	2	3	3	0	0	4	4	4
	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

エ トマト

数値は管内の発生概況(5段階評価:多(5)、やや多(4)、並(3)、やや少(2)、少(1))、なし(0)

調査時期 年 月	調査 地区数	黄化葉巻病		モザイク病		青枯病		萎凋病類		疫病		葉かび病	
		最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均
21	11	2	3	3.0	0	0	4	2.5	0	0	0	0	0
	11	2	3	3.0	0	0	4	2.5	0	0	0	0	0
	12	2	3	3.0	0	0	4	2.5	0	0	3	1.5	3
	12	2	3	3.0	0	0	4	2.5	0	0	3	1.5	3
22	1	2	3	3.0	0	0	3	2.0	0	0	1	1.0	2
	1	2	3	3.0	0	0	3	2.0	0	0	1	1.0	2
	2	2	4	3.5	0	0	4	3.0	0	0	3	2.0	3
	2	2	4	3.5	0	0	3	2.0	0	0	3	2.5	3
	3	2	4	3.5	0	0	4	3.5	0	0	3	3.0	3
	3	2	4	3.5	0	0	3	3.0	0	0	3	3.0	3

調査時期 年 月	調査 地区数	アブラムシ類		コナジラミ類		ハモグリバエ類		灰色かび病(果実)		タバコガ類(果実)		
		最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	
21	11	2	0	0	5	4.0	3	2.0	0	0	4	2.0
	11	2	0	0	4	3.0	3	1.5	0	0	4	2.0
	12	2	0	0	4	3.0	3	1.5	3	1.5	3	1.5
	12	2	0	0	4	2.5	3	1.5	3	2.0	3	1.5
22	1	2	0	0	4	2.5	3	1.5	3	2.0	3	1.5
	1	2	0	0	4	3.5	3	1.5	3	2.0	3	1.5
	2	2	0	0	4	4.0	3	2.0	4	3.5	3	1.5
	2	2	1	0.5	4	0.5	3	2.0	4	3.5	3	1.5
	3	2	3	1.5	4	4.0	3	3.0	4	3.5	3	1.5
	3	2	3	1.5	0	4.0	3	3.0	4	3.5	3	1.5

オ いちご育苗床

数値は管内の発生概況(5段階評価:多(5)、やや多(4)、並(3)、やや少(2)、少(1))

調査時期 年 月	調査 地区数	炭疽病		萎黄病		うどんこ病		輪斑病		ハスモンヨトウ		
		最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	
21	6	4	3	1.8	3	0.8	3	1.0	4	2.5	3	1.3
		4	3	2.0	3	0.8	4	2.0	4	3.0	3	1.3
	7	4	3	2.8	3	1.0	3	2.0	4	3.3	3	2.0
		3	4	3.0	3	1.0	3	2.0	3	3.0	3	2.0
	8	3	4	3.3	3	0.8	3	1.8	3	2.5	4	1.5
		2	4	3.3	3	0.8	3	1.8	4	3.3	3	2.0
	9	2	4	3.8	3	1.0	3	1.5	4	3.0	4	2.8
		1	5	4.0	3	1.0	3	1.5	4	3.0	4	2.3

調査時期 年 月	調査 地区数	アブラムシ類		ハダニ類		アザミウマ類		ヒメヨコバイ類		
		最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	
21	6	3	3	2.3	4	2.8	3	2.3	4	2.8
		4	3	2.3	4	3.0	3	2.0	5	3.3
	7	4	4	2.3	4	3.3	4	3.3	4	3.5
		2	3	2.0	4	3.3	3	3.0	4	3.5
	8	3	4	2.8	4	3.3	3	2.0	3	1.8
		2	4	2.8	3	2.8	3	2.3	3	1.8
	9	2	4	2.5	5	3.3	3	2.5	3	2.3
		1	4	2.3	4	2.8	3	2.3	3	2.3

カ いちご本圃

数値は管内の発生概況(5段階評価:多(5)、やや多(4)、並(3)、やや少(2)、少(1))

(ア)葉

調査時期 年 月	調査 地区数	炭疽病		うどんこ病		萎黄病		ハスモンヨトウ		アブラムシ類		ハダニ類			
		最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均		
21	10	4	4	3.0	3	1.3	1	0.5	5	4.0	4	1.8	4	3.3	
		4	4	3.3	3	1.3	1	0.5	4	3.8	4	2.3	4	3.3	
	11	4	4	3.5	3	1.5	3	1.5	3	2.8	4	2.0	4	3.3	
		4	4	3.0	3	1.8	3	1.5	3	2.3	4	2.5	4	3.0	
	12	4	4	2.5	4	1.3	3	1.0	3	1.5	4	2.3	4	3.0	
		4	3	1.3	4	1.3	3	1.0	3	1.3	3	2.0	4	3.3	
	22	1	4	3	1.5	4	1.3	3	1.3	3	1.3	3	2.0	4	3.0
			4	3	1.5	4	1.3	3	1.0	3	1.0	4	2.5	4	3.3
	2	4	3	1.5	4	1.3	3	1.0	3	0.8	4	2.5	4	3.0	
		4	3	1.5	4	1.5	3	1.0	3	0.8	4	2.8	4	3.3	
3	4	3	1.5	3	1.3	3	1.0	3	0.8	4	2.8	4	3.3		
	4	3	1.5	3	1.5	3	1.0	3	0.8	4	3.0	4	3.0		

(イ)果実

調査時期 年 月	調査 地区数	うどんこ病		灰色かび病		菌核病		タバコガ類		アザミウマ類			
		最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均	最高	平均		
21	10	4	3	1.0	3	1.0	0	0.0	4	1.3	4	1.7	
		4	3	0.8	3	0.8	0	0.0	3	1.0	4	1.5	
	11	4	3	1.0	4	2.3	3	1.3	4	2.0	4	2.3	
		4	3	1.8	4	2.8	3	1.8	4	2.3	4	2.3	
	12	4	4	1.3	3	1.8	1	0.5	3	0.8	4	2.0	
		4	4	1.3	3	2.0	1	0.5	3	0.8	3	1.8	
	22	1	4	4	1.3	3	2.3	1	0.5	3	0.8	3	2.0
			4	4	1.3	3	2.3	1	0.5	3	0.8	3	2.0
	2	4	4	1.3	3	2.5	1	0.5	3	1.0	3	2.5	
		4	4	1.5	3	2.5	1	0.5	3	1.0	4	3.3	
3	4	4	1.5	3	2.5	1	0.3	3	0.8	4	3.5		
	4	4	1.8	3	2.5	1	0.3	3	0.8	4	3.8		

キ アスパラガス

数値は管内の発生概況(5段階評価:多(5)、やや多(4)、並(3)、やや少(2)、少(1))

調査時期		調査 地区数	斑点病	褐斑病	アザミウマ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ	ハダニ類
年	月							
21	6	1	0	1	4	1	1	1
		1	1	1	3	1	2	2
	7	1	0	1	3	1	1	1
		1	0	0	1	3	1	1
	8	1	0	4	3	3	3	3
		1	0	4	3	3	4	3
	9	1	3	5	3	3	4	3
		1	3	5	3	3	4	3
	10	1	4	5	4	3	4	3
		1	4	5	4	3	3	3

ク たまねぎ

数値は管内の発生概況(5段階評価:多(5)、やや多(4)、並(3)、やや少(2)、少(1))

調査時期		調査 地区数	白色疫病	べと病	萎黄病	黒斑病	さび病	ネギアザミウマ	アブラムシ類
年	月								
21	12	1	3	0	0	0	0	0	0
		1	0	0	0	0	0	0	0
	1	1	1	0	2	0	0	0	0
		1	2	0	2	0	0	2	0
	2	1	1	1	1	0	0	2	0
		1	1	4	1	0	0	1	1
	3	1	0	3	0	0	0	1	1
		1	0	3	1	0	1	1	0

ケ 果樹カメムシ類 フェロモントラップ調査(黄色コガネコール)

月	半旬	諫早市多良見町			西海市西彼町			南島原市有家町		
		チャバネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	計	チャバネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	計	チャバネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	計
6	1							0	0	0
	2							5	0	5
	3							8	0	8
	4				17	0	17	3	0	3
	5				20	0.4	20.4	2	0	2
	6				8.2	0.6	8.8	2	0	2
7	1	0	0	0	1.3	0	1.3	5	0	5
	2	0	0	0	2.5	0.6	3.1	2	0	2
	3	0	0	0	2.1	0.4	2.5	2	0	2
	4	0	0	0	1.3	0	1.3	0	0	0
	5	0	0	0	2	0	2	0	0	0
	6	0	0	0	1.8	0	1.8	1	0	1
8	1	1	0	1	2.3	0	2.3	0	0	0
	2	2	0	2	3.8	0	3.8	0	0	0
	3	0	0	0	2.9	0	2.9	0	0	0
	4	0	0	0	1.1	0	1.1	1	0	1
	5	0	0	0	2.4	0	2.4	0	0	0
	6	0	0	0	2.1	0	2.1	1	0	1
9	1	0	0	0	3	0	3	0	0	0
	2	0	0	0	5	0	5	0	2	2
	3	0	0	0	6	0	6	0	5	5
	4	0	0	0	6.9	0	6.9	0	0	0
	5	0	0	0	12.9	0	12.9	1	2	3
	6	0	0	0	13.2	0	13.2	0	2	2
10	1	0	0	0	8.6	0	8.6			
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
合計		3	0	3	126.4	2	128	33	11	44

(6) その他の調査成績

ア ヒメトビウンカ

(ア) 調査目的

ヒメトビウンカの越冬世代ならびに第1世代の発生状況を明らかにし、縞葉枯病の防除対策の参考に資する。

(イ) 調査方法

- a 越冬世代調査：2021年(令和3年)2月25日～3月9日に動力散粉機を用い、吹き出し法により10㎡当りの生息数を調査した。
- b 第1世代調査：2021年(令和3年)5月6日～5月26日に捕虫網を用いて20回すくい取りにより生息数を調査した。

(ウ) 調査結果

第1表 ヒメトビウンカの越冬状況

調査地点名	採集日	調査植物	齢別構成(%)				10㎡当り頭数
			幼虫			成虫	
			若齢	中齢	老齢		
長崎市手熊	3/3	スズメノテッポウ	0	20.2	28.9	50.9	30.4
長崎市長浦町	3/1	スズメノテッポウ	0	8.8	58	33.2	20.2
諫早市多良見町	2/25	スズメノテッポウ	0	14.6	69.2	16.2	6.2
諫早市小野	3/9	スズメノテッポウ	0	1.3	21.3	77.3	12.5
諫早市森山	3/9	スズメノテッポウ	0	2.1	14.4	83.6	3.0
雲仙市国見町	3/3	スズメノテッポウ	0	4.8	8.1	87.1	2.9
雲仙市吾妻町	3/8	スズメノテッポウ	0	0.8	36.8	62.4	3.4
佐世保市長畑	3/4	スズメノテッポウ	0	3.1	25.1	71.8	44.3
佐世保市針尾	3/4	スズメノテッポウ	0	15.1	25.1	59.8	30.6
平均			0	9.9	33.1	57.0	9.3

第2表 ヒメトビウンカ（第1世代）の発生状況

調査地点名	採集日	調査植物	齢別構成(%)				20回 当たり 頭数
			幼虫			成虫	
			若齢	中齢	老齢		
長崎県手熊	5/6	イネ科雑草	0	5.3	0	94.7	0.3
長崎市琴海戸根	5/18	スズメテッポウ	21.4	14.3	7.1	57.1	1.3
長崎市外海町神ノ浦	5/7	スズメテッポウ	0	0	100.0	0	0.0
西海市大瀬戸町	5/7	スズメテッポウ	0	0	33.3	66.7	0.1
諫早市小船越	5/18	小麦	11.1	32.6	43.1	13.2	7.6
諫早市小野	5/21	小麦	8.9	35.7	35.7	19.6	3.1
諫早市森山	5/21	小麦	5.4	37.8	44.1	12.6	4.8
諫早市多良見町	5/6	スズメテッポウ	41.6	46.8	3.9	7.8	6.4
大村市鈴田	5/26	スズメテッポウ	0	3.8	3.8	92.3	0.7
東彼杵町三根	5/26	スズメテッポウ	9.5	57.1	9.5	23.8	1.1
雲仙市吾妻町	5/19	イネ科雑草	0	0	0	100.0	0.0
雲仙市国見町神代	5/19	小麦	7.1	26.3	46.5	20.2	4.0
佐世保市長畑	5/14	イネ科雑草	1.4	12.9	65.7	20.0	0.8
佐世保市針尾	5/14	イネ科雑草	1.5	48.5	45.5	4.5	1.8
松浦市志佐	5/7	イネ科雑草	7.7	46.2	46.2	0	0.3
平戸市紐差	5/7	イネ科雑草	0	76.0	16.0	8.0	0.4
五島市上大津	5/19	小麦	0	50.0	50.0	0	0.3
五島市野々切	5/19	小麦	0	40.0	40.0	20.0	0.4
五島市崎山	5/19	小麦	0	0	0	0	0
五島市富江山手	5/19	小麦	0	0	0	0	0
五島市三尾野	5/19	小麦	0	100.0	0	0	0.2
五島市岐宿町	5/19	小麦	0	20.0	40.0	40.0	2.0
五島市岐宿川原	5/19	小麦	0	0	100.0	0.0	0.2
五島市富江山下	5/19	小麦	0	0	0	0	0
五島市富江町岳	5/19	小麦	0	0	0	0	0
壱岐勝本町	5/11	イネ科雑草	0	0	100.0	0	0.0
平均			9.6	33.9	36.8	19.7	1.0

第3表 ヒメトビウンカ（第1世代）の生息密度の推移

調査年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平年
生息密度(頭)	5.6	9.8	6.0	9.8	2.4	1.0	6.6

注) 平年値は平成23～令和2年の平均値(最大・最小値除く)

イ ツマグロヨコバイ

(ア) 調査目的

ツマグロヨコバイの第1世代の発生状況を明らかにし、イネ萎縮病の防除対策の参考に資する。

(イ) 調査方法

第1世代調査：2021年(令和3年)5月下旬に捕虫網を用いて20回すくい取りにより生息数を調査した。

(ウ) 調査結果

第4表 ツマグロヨコバイ(第1世代)の発生状況

調査地点名	調査日	寄主植物	齢別構成(%)				20回 当たり 頭数
			幼虫			成虫	
			若齢	中齢	老齢		
諫早市小船越	R3.5.18	イ科雑草	10.0	20.0	25.0	45.0	0.3
雲仙市吾妻町	R3.5.19	イ科雑草	0	0	0	100.0	0.3
諫早市小野	R3.5.21	イ科雑草	0.7	10.9	9.5	78.9	14.6
平均			3.6	10.3	11.5	74.6	5.1

第5表 ツマグロヨコバイ(第1世代)の生息密度の推移

調査年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平年
生息密度(頭)	21.5	12.7	10.8	9.2	13.9	5.1	11.8

注) 平年値は平成23~令和2年の平均値(最大・最小値除く)

ウ チャバネアオカメムシの越冬量調査

(ア) 落葉採集時期：令和4年1月18、20日

(イ) 調査方法：調査地点は南向きの樹林地（シイ、カシ等）を選び、1㎡当たりの地表面の落葉を3ヶ所採集した。採集した落葉は約20mm目のふるいにかけて、通過した落葉をバットに集め、約25℃で8日間静置後、落葉中の個体数を計数した。

表1 チャバネアオカメムシの越冬量調査結果

No	調査地点	虫数/㎡ (頭)
1	佐世保市針尾	0
2	佐世保市宮	0.3
3	西海市小迎	0
4	西海市丹納	0
5	東彼杵町赤木	0
6	大村市鬼橋	0
7	大村市今村	0
8	長与町岡	0
9	時津町西時津	0
10	諫早市東園	0
11	諫早市佐瀬	0
12	諫早市長田	0
13	雲仙市百花台	0.3
14	雲仙市伊福	0
15	南島原市新切	0
16	南島原市沢野	0
	平均	0.04

落葉採集日：令和4年1月18、20日

各調査地点は1m×1mの範囲を3箇所ずつ調査した

表2 過去10年間のチャバネアオカメムシ越冬量調査結果

調査年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	平年	(参考) H18
虫数 (頭/㎡)	0.47	0.41	0.42	0.25	0.02	0.17	0.35	0.06	1.56	0	0.04	0.37	1.59

平年値は過去10年間の平均

エ カメムシ類のヒノキにおける寄生状況調査

(ア) 調査時期：令和3年7月20、21日及び8月18、19日

(イ) 調査方法：ヒノキのきゅう果が着生している枝を1地点につき10枝以上選び、枝の先端からきゅう果を覆うように捕虫網をかぶせ、その上から棒で5回程度たたいて、寄生しているカメムシを落下させ、種別、齢別に計測した。

(ウ) 調査結果

ア) 7月下旬調査

表1 ヒノキのきゅう果におけるカメムシ類の寄生状況(令和3年7月20、21日調査)

調査地点	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計	寄生枝率
	成虫	老齡	中齡	若齡	計	成虫	老齡	中齡	若齡	計		
諫早市多良見町東園	0.5	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	0.5	14.3
" 佐瀬	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0.5	0.5	33.3
長与町岡	0.2	0.2	0	0	0.4	0.2	0	0	0	0.2	0.6	40
時津町子々川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西海市西彼町小迎	0.5	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	0.5	50
" 西海町木場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
諫早市長田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40
大村市今村	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	50
東彼杵町赤木	0	0	0.3	0	0.5	0	0	0	0	0	0.5	50
雲仙市瑞穂町伊福	0.4	0	0	0	0.7	0	0	0	0	0	0	16.7
" 国見町百花台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南島原市有家町新切	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
" 北有馬町田平名	1.2	0	0	0	1.2	0	0	0	0	0	1.2	83.3
佐世保市宮	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0.2	16.7
" 針尾	0.5	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	0.5	16.7
平均	0.3	0.02	0.03	0.1	0.4	0.05	0	0	0	0.05	0.3	28.7

表2 果樹カメムシ類の寄生状況およびヒノキのきゅう果着生量の年次別推移(7月下旬)

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平年
寄生虫数(頭/枝)	1.1	2.8	3.4	2.5	0.6	0.3	2.6	4.9	0.9	0.6	0.5	2.1
きゅう果着生量	3.1	3.0	2.2	3.5	1.0	2.3	3.5	2.9	3.5	2.1	2.3	2.7

* きゅう果着生量は、程度を5段階(多:5, やや多:4, 中:3, やや少:2, 少:1)として達観調査した

イ) 8月下旬調査

表1 ヒノキのきゅう果におけるカメムシ類の寄生状況(令和3年8月18、19日調査)

調査地点	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計	寄生枝率
	成虫	老齡	中齡	若齡	計	成虫	老齡	中齡	若齡	計		
諫早市多良見町東園	2.6	0.6	0	0	3.2	0	0	0	0	0	3.2	50
" 佐瀬	1.6	0	0	0	1.6	0	0	0	0	0	1.6	60
長与町岡	0	0	0.2	0	0.2	0	0	0	0	0	0.2	17
時津町西時津	0	0.8	0.4	0	1.2	0	0	0	0	0	1.2	40
西海市西彼町小迎	0.2	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0.2	17
" 西海町木場	0.0	0	0.3	0	0.3	0	0.2	0	0	0.2	0.5	33
諫早市長田	0.1	0.1	0.1	0	0.4	0	0	0	0	0	0.4	38
大村市今村	0.0	0.3	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0.3	33
東彼杵町赤木	0.2	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0.2	16.7
雲仙市瑞穂町伊福	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0.1	14
" 国見町百花台	0.6	0.4	0.4	0	1.4	0	0	0	0	0	1.4	43
南島原市有家町新切	0.3	0.3	0	0	0.7	0	0	0	0	0	0.7	50.0
" 北有馬町田平名	0.2	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0.2	17
佐世保市宮	0.2	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0.2	20
" 針尾	0.2	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0.2	20
平均	0.4	0.2	0.1	0.0	0.7	0	0.01	0	0	0.01	0.7	31.2

表2 果樹カメムシ類の寄生状況の年次別推移（8月下旬）

年度	23年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平年
寄生虫数(頭/枝)	2.0	1.6	1.1	4.8	0.2	2.1	4.5	0.8	2.6	2.3	0.7	2.2

オ ヒノキのきゅう果における口針鞘（カメムシの吸汁痕）

（ア）採集日：令和3年7月20日、21日及び8月18日、19日

（イ）調査方法

カメムシ類の寄生調査時に、各調査地点につき5枝以上から30果以上のヒノキきゅう果を採集した。採集したきゅう果は、一度凍結させた後に電子レンジで軟化させ、きゅう果表面の縫合部に形成された口針鞘を実体顕微鏡下で計数した。

表1 ヒノキきゅう果における口針鞘数及び被害果率

採集地点	7月20,22日		8月19,20日	
	口針鞘数 (本/果)	被害果率 (%)	口針鞘数 (本/果)	被害果率 (%)
諫早市多良見町東園	0.1	13.3	3.9	86.7
諫早市多良見町佐瀬	1.2	0.0	3.1	57
長与町岡	2.2	46.7	7.5	83.3
時津町西時津	0.7	33.3	18.7	96.7
西海市西彼町小迎	3.1	86.7	6.3	96.7
西海市西海町木場	0.1	6.7	7.1	90.0
諫早市長田	0.4	16.7	5.8	63
大村市今村	1.4	50.0	2.2	43.3
東彼杵町赤木	2.5	63.3	15.0	100.0
雲仙市瑞穂町伊福	0.7	40.0	5.3	50.0
雲仙市国見町百花台	0.7	30.0	6.6	96.7
南島原市有家町新切	0.2	13.3	5.5	76.7
南島原市北有馬町田平名	2.2	66.7	6.5	90.0
佐世保市宮	1.4	40.0	9.3	100
佐世保市針尾	0.7	36.7	—	—
平均	1.2	36.2	7.4	80.7

- ・調査果数は1地点につき30果
- ・ヒノキきゅう果からの離脱の目安となる口針鞘数は、きゅう果1果当たり25本以上とされている

表2 口針鞘数の推移

	7月下旬	8月下旬	9月上旬
令和3年	1.2	7.4	
平均値(H23～R3)	2.9	11.7	
令和2年	2.4	12.9	
令和元年	1.1	7.1	
平成30年	9.7	21.9	
29年	2.0	8.2	15.3
28年	0.8	6.5	
27年	6.2	14.3	
26年	1.2	9.5	
25年	2.4	14.3	
24年	2.7	15.3	
23年	0.7	7.1	

カ 令和3年度温州みかん果実の病虫害発生状況調査結果

1 調査の目的

温州みかんの収穫果実の病虫害被害状況を調査し、当年の病虫害発生状況を的確に把握することで、改善技術作成や防除指導の参考にする。

2 調査概要

(1) 対象産地

諫早市(多良見)、西海市、大村市、雲仙市(瑞穂)、佐世保市

(2) 対象農家

各産地の防除暦に準じた防除を行っている生産者1地区3名を選定

(3) 調査対象品種

各産地の主要な品種(原口早生、宮川早生、興津早生、させぼ温州等)

(4) 調査時期

令和3年11月11~22日(うち4日間)

(5) 調査項目

そうか病、かいはよう病、黒点病(前期型、後期型)、灰色かび病、すす病、ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、訪花性害虫、チャノキイロアザミウマ(果梗部、果頂部)、ハナアザミウマ類、サビダニ、ミカンハダニ、カメムシ類、風ずれ、その他

(6) 調査方法

1生産者あたり200個の果実を任意に抽出して病虫害の被害状況を肉眼により観察した。ただし、調査対象は家庭選果前の果実とした。調査は被害程度別に行い、調査項目ごとに被害果率、被害度を算出した。

3 調査結果及び考察

(1) かいはよう病

平年より発生が多かった。前年の発生が多く伝染源となる越冬菌が多い状態であったと推定され、主要な感染時期の高温や強風雨などにより発病葉からの感染が助長されたためと考えられた。

(2) そうか病

葉での発生が平年よりやや多い状況であったため被害果の発生が懸念されたが、ごくわずかであった。要因として主な感染時期である6月中旬~7月下旬の降水量が概ね平年より少なかったためと考えられた。

(3) 黒点病

前期型病斑は平年に比べやや多く、後期型病斑は平年並の発生であった。総じて発生が平年よりやや多かった要因として、8月中旬に曇天が続き降水量も非常に多く、降雨状況に応じて実施すべき薬剤散布が十分にできなかった園地があったと考えられた。

また、緑斑が残る果実が散見され、後期型病斑の発病部位の着色遅延や秋季の長期乾燥が要因として考えられた。

(4) 灰色かび病

平年に比べ多い発生であった。感染期にあたる5月中旬の降水量が平年より多かったこと、および例年より樹体の生育が早く、防除が前進化したことで、開花終期の防除時期がずれたことなどが考えられた。

(5) すず病

平年よりやや少ない発生であった。

(6) チャノキイロアザミウマ

果梗部の被害は平年に比べやや少なく、果頂部の被害は平年よりやや多い発生であった。果頂部の被害果がやや多かった要因として6月下旬～7月下旬の降水量が平年より少なく経過したことが本虫の発生を助長したものと考えられた。

(7) ミカンハダニ

平年に比べ少なかった。要因として8月中旬の降水量が多かったことや9月中旬の台風接近による強風雨により増殖が抑制されたと考えられた。

(8) カイガラムシ類 (アカマルカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ、ヤノネカイガラムシ)

アカマルカイガラムシは平年と比べやや少なかった。ナシマルカイガラムシが平年より多かった。ヤノネカイガラムシは認めなかった。ナシマルカイガラムシが多かった要因として5月下旬～6月中旬の降雨により防除適期を逸した園地があったと考えられた。

(9) ハナアザミウマ類

平年よりやや多い発生であった。9月下旬以降の降水量が少なく、発生が助長されたと考えられた。

(10) 訪花性害虫

平年に比べ少ない発生であった。

(11) サビダニ

平年並の発生であった。

(12) カメムシ類

発生は認められなかった。

(13) 風ずれ

一定の発生は見られたが、平年より少なかった。

(14) 葉害

発生は認められなかった。

(15) その他

主な症状として、日焼け、生傷(押し傷、刺し傷)が見られ、平年より多かった。日焼けの比率が高く、梅雨明け以降の夏季の乾燥時の高温が助長したと考えられる。

表 令和3年度温州みかん果実の病害虫発生状況調査結果

地区名	調査項目	かいよう病	そうか病	黒点病		灰色かび病	すす病	チャノキイロアザミワ		ハナアザミウマ類	ミカンハダニ	アカマルカイガラムシ	ナシマルカイガラムシ	ヤノネカイガラムシ	訪花性害虫	サビダニ	ホコリダニ	カメムシ類	風ずれ	葉害	その他
				前期	後期			果梗	果頂												
諫早市 (多良見)	被害果率(%)	2.5	0.2	23.2	3.8	33.0	0.3	1.2	3.7	0.5	0.2	2.0	6.8	0	0	0	0	0	24.0	0	4.5
	被害度	0.4	0.02	4.5	0.5	7.4	0.05	0.2	0.6	0.1	0.02	0.3	1.1	0	0	0	0	0	4.0	0	0.8
西海市 (西彼)	被害果率(%)	5.0	0	6.5	15.8	40.8	0	2.0	8.2	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	23.2	0	6.7
	被害度	1.0	0	1.1	2.7	8.7	0	0.3	1.3	0	0	0.02	0.0	0	0	0	0	0	3.4	0	1.4
大村市	被害果率(%)	0.2	0	24.8	32.2	33.0	0	3.5	4.3	0.5	0	0.8	0.2	0	0.3	0	0	0	22.3	0	2.5
	被害度	0.02	0	4.4	5.8	6.0	0	0.7	0.7	0.1	0	0.2	0.02	0	0.1	0	0	0	3.4	0	0.5
雲仙市 (瑞穂)	被害果率(%)	2.0	0	52.2	31.7	26.3	0.3	4.7	11.8	0.2	0	0	0	0	0.2	0.2	0.3	0	17.3	0	5.2
	被害度	0.3	0	10.7	6.7	4.6	0.05	0.8	2.3	0.02	0	0	0	0	0	0.02	0.05	0	2.5	0	0.7
佐世保市	被害果率(%)	3.8	0	23.0	30.7	33.2	0	2.7	7.2	3.5	0.7	0	12.3	0	0	0	0	0	16.3	0	7.3
	被害度	0.7	0	3.9	4.9	6.5	0	0.5	1.0	0.6	0.1	0	2.3	0	0	0	0	0	2.7	0	1.4
県平均	被害果率(%)	2.7	0.03	25.9	22.8	33.3	0.1	2.8	7.0	0.9	0.2	0.6	3.9	0	0.1	0.03	0.07	0	20.6	0	5.2
	被害度	0.5	0.005	4.9	4.1	6.6	0.02	0.5	1.2	0.2	0.02	0.1	0.7	0	0.03	0.00	0.01	0	3.2	0	1.0
平年値 (H23～R2 平均)	被害果率(%)	0.2	0.1	10.7	28.9	9.2	0.3	4.5	3.3	0.4	1.5	2.0	0.03	0.0	0.8	0.1	0.1	0.03	43.3	0.01	0.7
	被害度	0.05	0.03	2.7	6.9	1.7	0.1	0.9	0.6	0.1	0.4	0.5	0.01	0.01	0.2	0.04	0.04	0.01	9.1	0.002	0.1

A(4):被害が著しく目立つもの B(3):被害が目立つもの C(2):被害がやや多く見られるもの D(1):被害が散見されるもの

$$*被害度 = \frac{7A + 5B + 3C + D}{7 \times \text{調査葉(果)数}} \times 100$$

その他の項は、日焼け、刺し傷、押し傷などが該当

4 発生予察情報の発表

(1) 発生予察情報等の発表

病虫害発生予報(毎月1回、15日頃発表)

病虫害発生予察警報・注意報・特殊報・防除情報・技術情報(随時発表)

表 令和3年度病虫害発生予察情報の発表状況(R3.4.1～R4.3.31)

種類	予報	警報	注意報	特殊報	防除情報	技術情報	合計
回数	12	0	4	1	27	7	51

(2) 発生予察情報の提供方法

メールとFAXにより関係機関に配信

区分	配信先箇所数と配信方法別			備考
	合計	メール	FAX	
長崎県関係	32	32	0	
県内農業共済組合	11	11	0	
県内農協	55	0	55	
県内関係団体	15	10	5	
九州各県防除所・試験研究機関	12	12	0	
県内市町	35	35	0	
国関係機関・県外関係団体	8	7	1	
合計	168	107	61	

(3) 病虫害防除所ホームページアクセス数

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
アクセス数(回)	13,717	15,279	15,668	13,598	14,645	12,919	13,202


年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
アクセス数(回)	12,901	13,690	13,182	11,945	13,682	16,101	16,111

(4) 情報(警報、注意報、特殊報)の内容

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
注意報	5月18日	アスパラガス	アザミウマ類	<p>1. 発生地域(対象地域) 県内全域</p> <p>2. 発生程度 多</p> <p>3. 注意報発令の根拠</p> <p>(1) 5月前期の巡回調査(11筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10か所)は28.6頭(平年7.7頭)、発生圃場率は90.9%(平年72.2%)と平年より多い発生であった(図1、2)。</p> <p>(2) 気象予報(福岡管区气象台、令和3年5月13日発表)によると、向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div> <p>4. 防除対策</p> <p>(1) 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。</p> <p>(2) 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和3年長崎県病害虫防除基準P284~285の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。</p> <p>(3) 茎葉が繁茂すると内部まで薬液が届きにくくなるため、本虫の発生を確認した場合はできるだけ茎葉が展開・繁茂する前の早い段階で防除を徹底する。</p>
注意報	7月1日	早期水稻	トビイロウンカ	<p>1. 発生地域(対象地域) 県内全域</p> <p>2. 発生程度 多</p> <p>3. 注意報発令の根拠</p> <p>(1) 6月後期の巡回調査(25筆)の結果、早期水稻における株当たり虫数は0.2頭(平年0.00頭)、発生圃場率は52.0%(平年0.5%)であり、若齢から老齢までの幼虫及び成虫が非常に多く見られた(図1、2)。</p> <p>(2) 7月1半月の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稻における株当たり虫数は0.2頭(平年0.02頭)であり、平年より多かった。</p> <p>(3) 本虫の飛来は平年より早く、短翅型雌成虫が6月後期の巡回調査で確認されている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div> <p>図1 トビイロウンカの株当たり虫数の推移</p> <p>図2 トビイロウンカの発生圃場率の推移</p>

				<p>4. 防除対策</p> <p>(1) 本虫の発生は圃場間や同一圃場内でも偏りがあるので、圃場の見回りを徹底して、発生を認めたら早急に防除を行う。</p> <p>(2) 本虫は株元を好んで寄生するので、農薬散布は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。</p> <p>(3) 薬剤の使用にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに周辺環境を十分に確認し、ミツバチを含め周辺動植物等への飛散等の影響がないよう十分注意する。</p>										
注意報	9月16日	かんきつ	かいよう病	<p>1. 発生地域(対象地域) 県内全域</p> <p>2. 発生程度 多</p> <p>3. 注意報発令の根拠</p> <p>(1) 9月前期の巡回調査(36筆)の結果、葉では発病葉率は0.9%(平年 0.2%)、発生圃場率は58.3%(平年 10.6%)であった。果実では発病果率は0.9%(平年 0.1%)、発生圃場率は47.2%(平年 2.8%)であった(図1、2、3、4)。</p> <p>(2) 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>図1 かいよう病 発病葉率の推移 (月・旬)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>図2 かいよう病(葉) 発生圃場率の推移 (月・旬)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>図3 かいよう病 発病果率の推移 (月・旬)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>図4 かいよう病(果実) 発生圃場率の推移 (月・旬)</p> </div> </div> <p>4. 防除対策</p> <p>(1) 本病の抑制には、予防的な薬剤散布が効果的である。台風などの強風を伴う雨が予想される場合には、事前に銅水和剤の散布を行う。ただし、収穫期が近い品種では、果実に汚れが残る恐れがあるので注意する。</p> <p>(2) 樹上で越冬した菌は翌年の感染源になるため、発病枝や発病果は除去し、圃場外に持ち出し処分する。</p> <p>(3) 銅剤は高温期に散布すると葉害を生じることがあるため注意する。また、葉害防止のため農薬のラベルに従い、炭酸カルシウム水和剤(クレフノン等)を混用する。</p> <p>(4) 各品種による耐病性は下表のとおりである。耐病性が弱い品種は特に注意する。</p> <p style="text-align: center;">表 かいよう病に対する各品種の耐病性(長崎県病害虫防除基準より)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>耐病性</th> <th>品 種 名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>弱い</td> <td>グレープフルーツ、ネーブル</td> </tr> <tr> <td>やや弱い</td> <td>ナツダイダイ、天草、みはや、津之望、麗紅</td> </tr> <tr> <td>中程度</td> <td>温州みかん、清見、不知火</td> </tr> <tr> <td>強い</td> <td>ハッサク、ボンカン、ユズ、キンカン、日向夏、璃の香</td> </tr> </tbody> </table>	耐病性	品 種 名	弱い	グレープフルーツ、ネーブル	やや弱い	ナツダイダイ、天草、みはや、津之望、麗紅	中程度	温州みかん、清見、不知火	強い	ハッサク、ボンカン、ユズ、キンカン、日向夏、璃の香
耐病性	品 種 名													
弱い	グレープフルーツ、ネーブル													
やや弱い	ナツダイダイ、天草、みはや、津之望、麗紅													
中程度	温州みかん、清見、不知火													
強い	ハッサク、ボンカン、ユズ、キンカン、日向夏、璃の香													

<p>注意報</p>	<p>12月15日</p>	<p>いちご</p>	<p>ハダニ類</p>	<p>1. 発生地域（対象地域） 県内全域</p> <p>2. 発生程度 多</p> <p>3. 注意報発令の根拠 12月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は12.9%（平年 5.8%）、発生圃場率は66.7%（平年 36.6%）と平年より高く（図1、2）、地域によっては多発生圃場が認められた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="603 414 997 660"> <p>図1 いちご ハダニ類 寄生株率</p> </div> <div data-bbox="1013 414 1407 660"> <p>図2 いちご ハダニ類 発生圃場率</p> </div> </div> <p>4. 防除対策</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 早期発見、早期防除に努める。また、防除効果を高めるため薬剤散布前に古葉を除去し、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。 (2) 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵のカブリダニ類等への影響を考慮する。 (3) 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P216～219「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。 (4) 除去した茎葉は圃場内に放置せず、すみやかに処理し、圃場内の環境整備に努める。
------------	---------------	------------	-------------	--

特殊報	8月6日	トマト・ミニトマト	トマト黄化病	<p>1 病害虫名 トマト黄化病</p> <p>2 病原ウイルス トマト退緑ウイルス (T o C V ; <i>Tomato chlorosis Virus</i>)</p> <p>3 発生物 トマト・ミニトマト</p> <p>4 発生確認の経過および発生状況</p> <p>(1) 令和3年2月、県内の施設ミニトマトにおいて、葉が黄化する症状が認められた(図1)。また、3月に別の施設トマトでも葉が黄化する症状が認められた(図2、3)。そこで、RT-PCR法により遺伝子診断を行ったところ、トマト退緑ウイルス(T o C V)が検出され、トマト黄化病であることを確認した。県内での本ウイルスによる病害の発生確認は初めてである。</p> <p>(2) 本病は、平成20年(2008年)に栃木県で初めて確認され、九州、関東、中部、四国を中心に22都県で確認されている。</p> <p>5 病徴</p> <p>(1) 下位葉から中位葉へと症状が進展し、発病の初期には、葉の葉脈間が退緑黄化し、斑状の黄化葉となる。</p> <p>(2) 症状が進むと葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化し、えそ症状が現れる。</p> <p>(3) 本病の黄化症状は苦土欠乏症に似ており判別が難しい。</p> <p>(4) 発病株では生育が抑制され、収量が減収する傾向にある。</p> <p>6 病原ウイルスの特徴</p> <p>(1) 本ウイルスは、クリニウイルス属に属し、タバココナジラミ(バイオタイプBおよびQ)およびオンシツコナジラミが媒介する。</p> <p>(2) 本ウイルスを吸汁したコナジラミ類は、数時間から数日間ウイルスを媒介する能力を有する。</p> <p>(3) 本ウイルスが属するクリニウイルス属ウイルスは経卵伝染、汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしないとされている。</p> <p>7 防除対策</p> <p>本ウイルスはコナジラミ類によって媒介されるため、基本的な防除対策はトマト黄化葉巻病のコナジラミ類の防除対策と同様である。</p> <p>(1) 施設の開口部に防虫ネット(0.4mm以下)を張り、コナジラミ類の侵入を防ぐ。</p> <p>(2) 黄色粘着板等でコナジラミ類の発生状況を把握し、防除に努める。</p> <p>(3) コナジラミ類の薬剤抵抗性発達防止のため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。</p> <p>(4) 発病株は伝染源となるので見つけ次第抜き取り、ハウス外に持ち出し適切に処分する。</p> <p>(5) 施設内および周辺の雑草は、コナジラミ類の発生源となるので徹底した除草を行う。</p> <p>(6) 施設外にコナジラミ類を分散させないため、収穫終了後はハウスを密閉して蒸し込みを行い、ハウス内に残存するコナジラミ類を死滅させる。</p>
				
<p>図1 葉の黄化症状(ミニトマト)</p>				

				 
				<p>図2 施設内の発生状況（トマト） 図3 葉の黄化症状（トマト）</p>

5 特に問題となった病害虫の発生状況、原因解析及び防除対策

対象作物：イネ

病害虫名：いもち病

発生程度：早期 葉いもち 並 普通期 葉いもち 並
穂いもち 並 穂いもち やや多

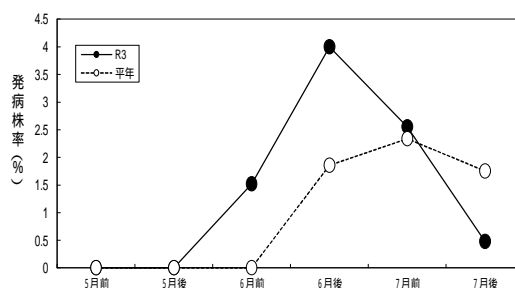
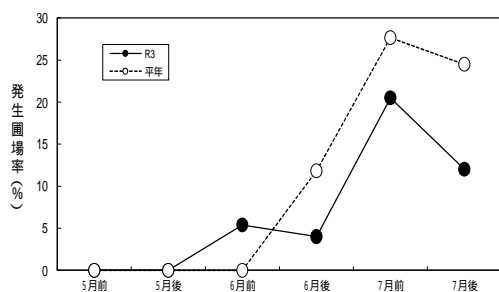
1 発生経過と原因解析

(葉いもち)

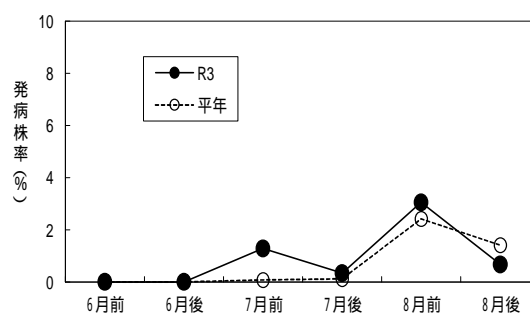
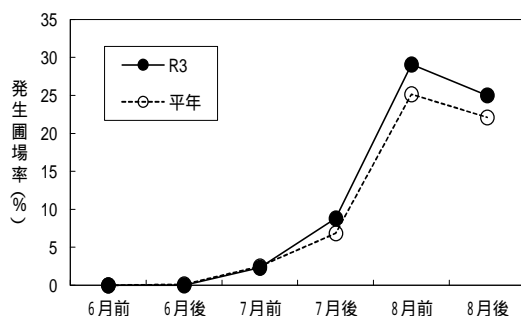
・早期水稲では6月2半旬から発生を認め、一部多発圃場がみられたが、平年並の発生で推移した

・普通期水稲では7月2半旬に発生を認め、一部多発圃場がみられたが、平年並の発生で推移した。

(早期・葉いもちの発生推移)



(普通期・葉いもちの発生推移)

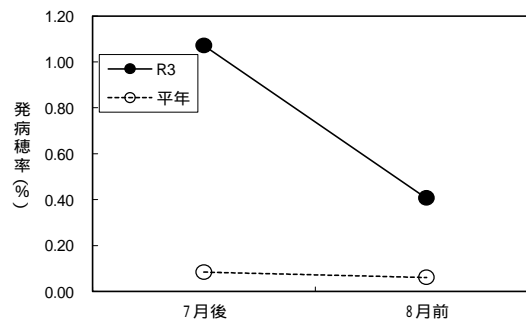
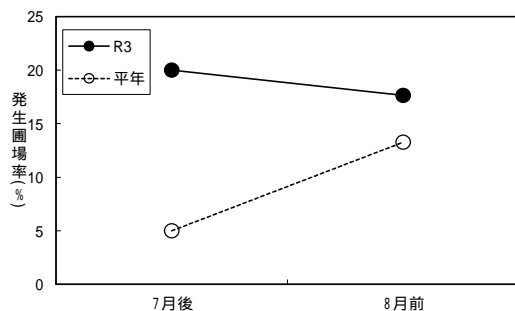


(穂いもち)

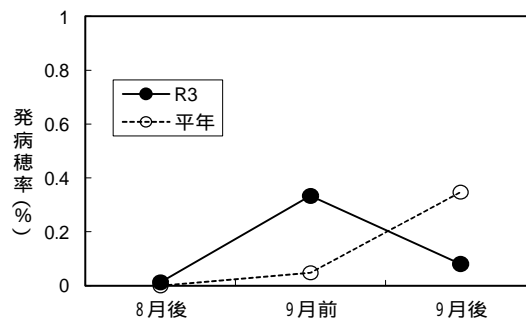
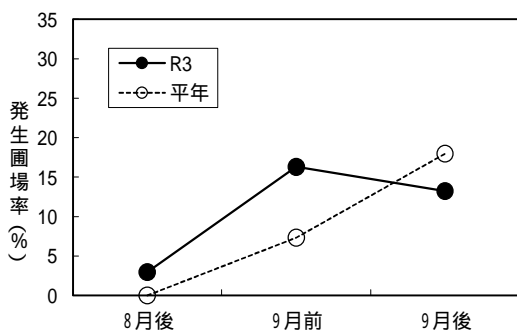
・早期水稲では7月6半旬から発生を認め、一部多発圃場がみられたが平年並の発生であった。

・普通期水稲では8月6半旬から発生を認め、9月前期にかけて発生は増加し、やや多の発生であった。8月中旬の低温、多雨、寡日照が穂いもちの発生を助長したと考えられる。

(早期・穂いもちの発生推移)



(普通期・穂いもちの発生推移)



2 防除対策等対応内容

- ・ 県内全域で、いもち剤を含む箱施薬剤の施用が実施されている。
- ・ 早期水稻では、7月中下旬（出穂期～穂揃い期）の薬剤防除実施。
- ・ 普通期水稻では、8月前期の巡回調査で葉いもちの一部多発圃場がみられたことや穂いもちの発生に好適な気象が予想されたため、8月17日に防除情報を発表した。8月下旬～9月上旬（出穂～穂揃い期）の薬剤防除（フェリムゾン・フサライド剤、カスガマイシン剤、トリシクラゾール剤）の実施。

3 問題となった点

- ・ 普通期については出穂期前後の気象がいもち病の発生に好適な条件だったため、穂いもちでは発病程度及び発生圃場ともに平年よりやや多い発生が見られた。また施肥量の多い圃場で発生が多かった。
- ・ ほとんどの地域で斑点米カメムシ類との同時防除を行っているため、穂ばらみ期の防除を行なわない地域が多かった。

4 今後の課題

- ・ 穂いもちの適期防除の徹底（穂ばらみ期と穂揃い期の2回防除）
- ・ 適正施肥の励行

対象作物：イネ

病害虫名：トビイロウンカ

発生程度：早期：並

普通期：やや少

1 発生経過

(1) 飛来

・ 6月3日に予察灯（諫早市・佐世保市）で平年より早い初誘殺を確認した。その後、7月2半旬にやや少ない飛来が見られた。また、8月3半旬に飛来を確認した。

(2) 発生～増殖

(早期水稲)

・ 6月6半旬に巡回調査において圃場での発生を確認し、発生圃場率、株当たり虫数ともに7月前期にかけて平年より多い発生で推移したが、その後は平年並の発生となった。（図1，2）。

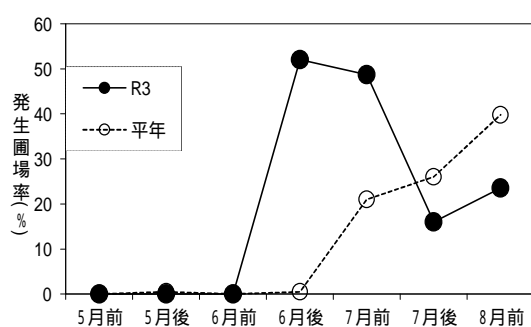


図1 発生圃場率の推移

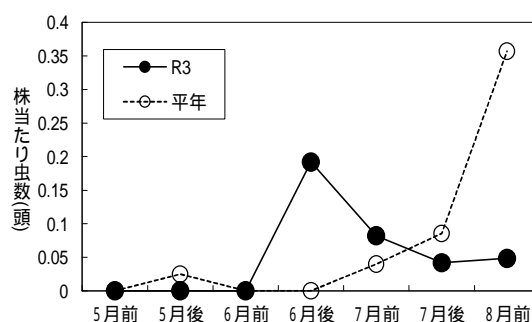


図2 株当たり虫数の推移

(普通期水稲)

・ 7月2半旬に巡回調査において圃場での発生を確認し、7月前期の発生圃場率・株当たり虫数は平年並であったが、7月後期以降、平年よりやや少なく推移した（図3，4）。

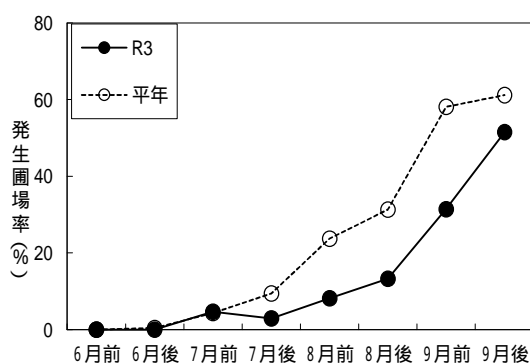


図3 発生圃場率の推移

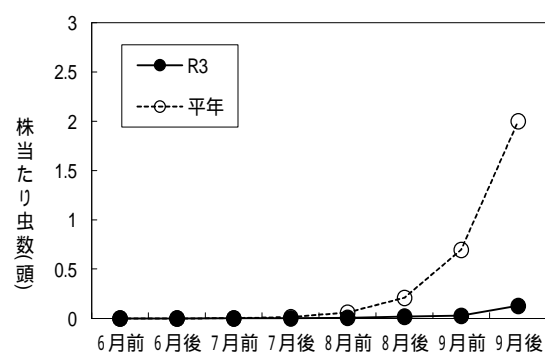


図4 株当たり虫数の推移

(3) 被害の状況

・ 巡回調査等で、坪枯れの発生は確認していない。

2 原因解析

(早期)

・ 平年より飛来は早かったが、飛来量はやや少なかった。

・ 出穂期までやや多の発生となったが、出穂後の斑点米カメムシ類と同時防除で密度が減少したと考えられる。

(普通期)

- ・ 平年より飛来は早かったが、飛来量はやや少なかった。
- ・ 県内全域でのトリフルメゾピリム剤の普及。

3 早期水稲における加害程度、時期と減収被害の関係（要防除密度）について

- ・ 坪枯れの発生は確認しなかった（早期水稲における要防除密度設定なし）。

4 防除対策等対応内容

（１）予察調査及び情報発信

- ・ 予察灯（４地点）、ネットトラップ（２地点）の調査データをＨＰ上で提供。
- ・ 巡回調査：月２回（２～３半旬及び５～６半旬、県内概ね６０～９０圃場）
- ・ 予察圃場：（無防除圃場）調査月３回（１、３、５半旬）
- ・ 上記調査結果に基づき、早期水稲については７月１日に注意報、普通期水稲については７月１５日に防除情報、８月２４日に技術情報を発表した。

（２）防除指導

- ・ 上記情報により適期防除や株元への丁寧な薬剤散布、圃場の見回りの徹底を促した。
- ・ 各地域においては防除検討会に出席し、適期防除指導を行った。また、農協と普及組織が連携して生産者や無人ヘリ防除組織に対し、防除所が提供する情報をもとに防災無線やチラシ等により伝達し、防除指導を行った。

防除の実施状況

（早期水稲）

- ・ 全域でいもち病、紋枯病、カメムシ類と同時防除で７月中下旬（出穂期～穂揃い期）の薬剤防除実施。防除薬剤はシラフルオフエン剤、エトフェンプロックス剤、ジノテフラン剤が主体。

（普通期水稲）

- ・ 県内全域で箱施薬剤（トリフルメゾピリム）の施用。
- ・ 本田１回目の防除は普通期早植地域では７月６半旬～８月１半旬、普通期移植地域では８月４～５半旬、２回目は８月６半旬～９月１半旬、３回目は９月２～３半旬の３回防除を基本に行われた。
- ・ 防除薬剤について、本田１回目はブプロフェジン剤、スルホキサフロル剤、エトフェンプロックス剤等、２回目、３回目はシラフルオフエン剤、エトフェンプロックス剤、ジノテフラン剤が主体。

5 問題となった点

- ・ 特になし

6 今後の課題等

- ・ 箱施薬剤の適正な処理方法。
- ・ コスト・防除効果を考慮した本田防除体系の検討。
- ・ 有効薬剤の開発（特に本田防除薬剤）。
- ・ 臨機防除を確実にできる体制の確立。
- ・ 株元に薬剤が十分付着するような薬剤散布の徹底。

7 その他、飛来性害虫（コブノメイガ、セジロウンカ、ヒメトビウンカ）の状況について、必要に応じて追記。

- ・ セジロウンカ：初飛来は平年よりも早く、飛来量は平年よりやや多かったが、圃場での発生について、早期水稲・普通期水稲ともに並の発生であった。
- ・ ヒメトビウンカ：圃場での発生について、早期水稲では平年並の発生、普通期水稲ではやや少なかった。
- ・ コブノメイガ：飛来量はやや少なく、圃場での発生について、早期水稲では平年並の発生、普通期水稲ではやや少なかった。

対象作物：かんしょ

病害虫名：サツマイモ基腐病

発生程度：

1 発生経過

- ・令和2年10月に、県内のかんしょ生産者から立枯症状が発生しているとの相談があり、現地調査したところ、地際部の茎及び蒔梗が暗褐色に腐敗する症状が認められた。圃場から検体を採取し、九州沖縄農業研究センターに同定依頼した結果、本県では未確認のサツマイモ基腐病であると判明。令和2年11月5日に特殊報を発出。
- ・令和3年8月に、別の地区でサツマイモ基腐病と疑わしきかんしょが持ち込まれ、所内で同定するとともに、九州沖縄農業研究センターに同定依頼した結果、サツマイモ基腐病と判明した。

2 原因解析

- ・汚染苗の使用
- ・排水不良による大雨後の浸冠水

3 対応内容

- ・令和2年度、確認地域において普及組織や市町村、農協関係者で対策会議を実施。農研機構刊行のマニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策（令和元年度版）」に沿って、対策を指導。併せて発生圃場生産者にも、次年度の作付けに関して指導を行った。
- ・2月にまん延防止の通知文書を関係機関に通知、また注意喚起の啓発資料を作成し、農協や直売所等に送付した。
- ・令和3年度、新たに発生した地域においては、普及組織の担当者に、農研機構刊行のマニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策（令和2年度版）」に沿って、対策を指導し、普及組織から生産者へ対策を周知した。
- ・県内関係者に向けて、指導文書やマニュアルを用い対策を周知した。

4 問題となった点

- ・休作・輪作等の代替圃場の確保が困難であった。

5 今後の課題

- ・健全苗の確保。
- ・有効薬剤の登録推進。

対象作物：いちご

病害虫名：ハダニ類

発生程度：令和2年産本圃 多、令和3年産育苗圃 やや多

1 発生経過と原因解

(1) 発生経過

【本圃】

・定植後から栽培終期まで平年に比べ発生が多かった(図1, 2)。

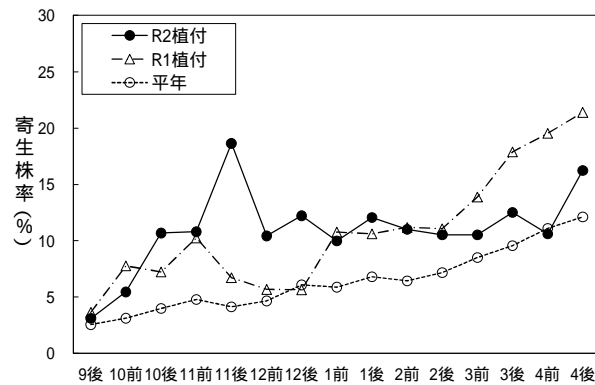


図1 いちご ハダニ類 寄生株率の推移

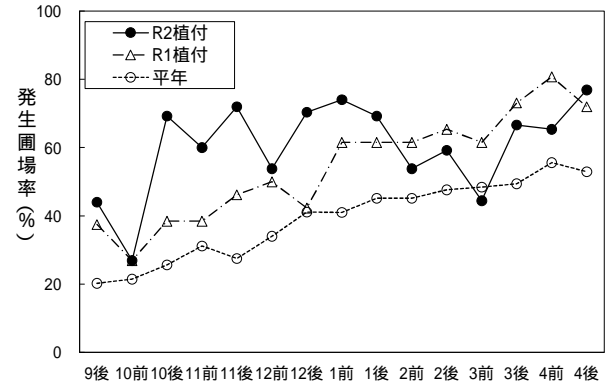


図2 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移

【育苗圃】

・5月調査開始時から発生が多かったが、5月後期から6月前期の調査では寄生株率、発生圃場率とも減少した。その後は再び増加し、発生は平年を上回った(図3, 4)。

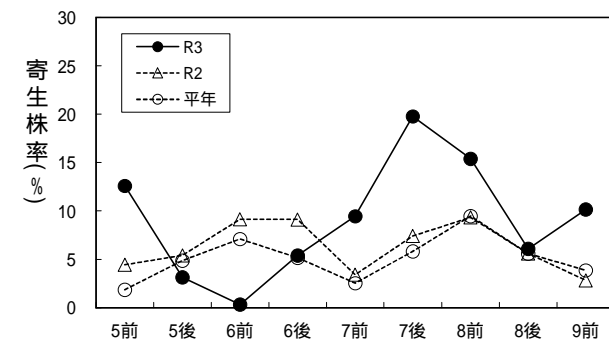


図3 ハダニ類 寄生株率の推移

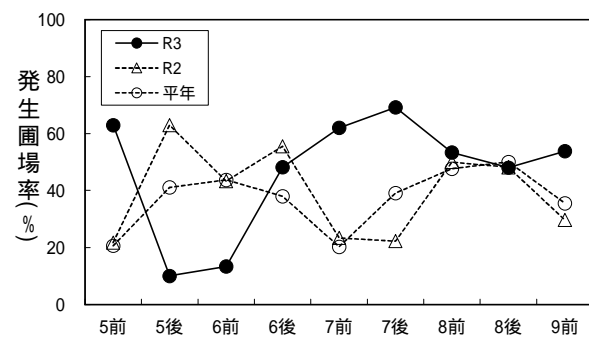


図4 ハダニ類 発生圃場率の推移

(2) 原因解析

【本圃】

- ・育苗圃からの持ち込みが多く生育期間を通して発生が多く見られた。
- ・定植後は晴れる日が多く気温も高くなったことから、ハダニ類の増加・拡大につながった。
- ・天敵導入は進んでいるが、天敵放飼前の薬剤防除後も寄生株率が下がらず、天敵を有効に活用できなかった。
- ・年明け以降も平年より気温が高く、特に3月以降は収穫出荷作業の増大により、防除作業が不十分となり発生が拡大した。

【育苗圃】

- ・前年産の本圃からの持込みおよび育苗初期の高温、少雨により5月前期から多発生圃場が見られた。しかし梅雨入りが早く5月の降水量がかなり多くなったことから5月後期～6月前期には寄生株率、発生圃場率は大きく減少した。6月以降は前線の影響を受けにくい気象状況が続き、気温が高く降水量が少なかったことからハダニ類の増加・拡大につながった。
- ・薬剤感受性低下を防ぐため、定植直前まで気門封鎖剤の使用を推奨したが、ハダニ類の発生を完全に抑えることができなかった。

2 防除対策等対応内容

- ・注意報（令和2年11月2日、12月2日）、および防除情報（令和3年5月18日、7月15、8月3日）を発表し防除徹底を図った。

3 問題となった点

- ・本県の主要品種「ゆめのか」は、従来品種に比べ茎葉が大きく株が繁茂しやすいため、株内部に薬剤が付着しにくく、防除効果が不十分となった。
- ・新品種「恋みのり」は株が旺盛になりやすく、葉の先端が内側に丸まりやすい特性があり薬液が均一にかかりにくいため、ハダニが発生しやすい。
- ・高齢の生産者はハダニ類の発見が遅れ、発生初期の防除が困難である。
- ・薬剤感受性の低下により化学農薬の散布だけでは防除が困難になっている。

4 今後の課題等

- ・育苗期後半～定植前の防除効果を上げるため、薬剤散布方法等について見直し防除効果のばらつきを改善する。
- ・化学農薬のみに頼らない防除技術の普及推進（天敵、気門封鎖剤、高濃度炭酸ガス処理等）。
- ・新規有効薬剤の登録推進。

対象作物：イチゴ

病害虫名：炭疽病

発生程度：令和2年産本圃 並、令和3年産育苗圃 やや少

1 発生経過と原因解析

(1) 発生経過

【本圃】

・定植後から2月後期まで発生が見られたが(図1, 2)、平年並の発生であった。

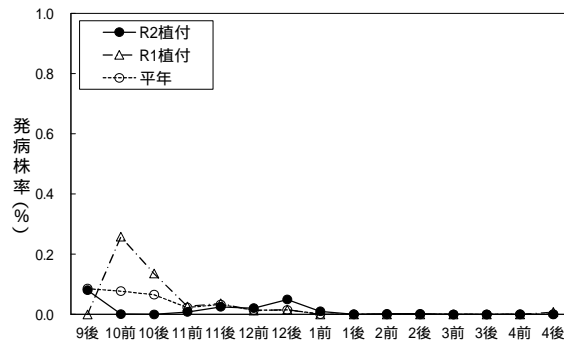


図1 いちご 炭そ病 発病株率の推移

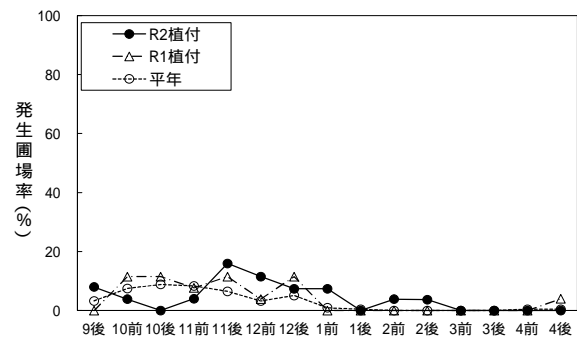


図2 いちご 炭そ病 発生圃場率の推移

【育苗圃】

・7月前期に発生を認め、平年より少なく推移した(図3, 4)。

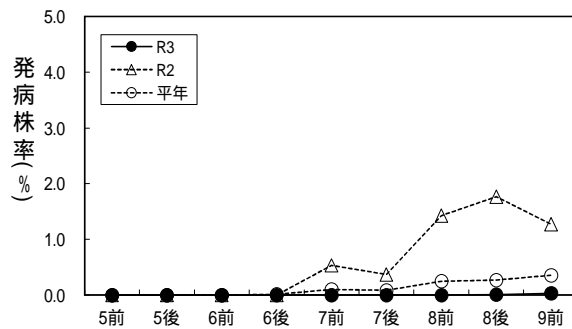


図3 炭疽病 発病株率の推移

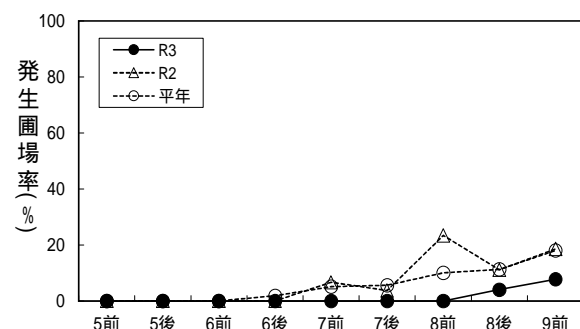


図4 炭疽病 発生圃場率の推移

(2) 原因解析

【本圃】

- ・育苗中は発生が多かったが、定植後は晴れる日が多く生育良好となりの発生は少なかった。
- ・定植時期に台風や前線の影響を受け平年より降水量が多かったことで潜在感染株ではわずかに発病がみられた。

【育苗圃】

- ・梅雨入りが早く本病の発生が懸念されたことで防除圧が高くなったことと、梅雨期間の降水量が平年の8割程度と少なかったことから発生は平年と比べてやや少なかった。

2 防除対策等対応内容

- ・注意報(令和2年9月16日)を発表し防除の徹底を図った。
- ・生産対策会議や地域振興協議会において発生状況について関係機関への情報提供を行った。

3 問題となった点

- ・ 潜在感染株の見分けは難しく、定植後に発生が見られた。

4 今後の課題等

- ・ 雨除け育苗の推進。

対象作物：タマネギ

病害虫名：べと病

発生程度：多

1 発生経過

- ・一次感染株の初確認は1月21日で、前年よりやや遅く平年並みであったが、その後は増加傾向で発生圃場は前年と同様に急速に拡大した。
- ・二次感染株は3月上旬に発生を確認し、その後は緩やかに増加した。しかし3月中旬以降は降雨が少なく、圃場間差は見られたものの発生拡大による収量への影響は小さかった。

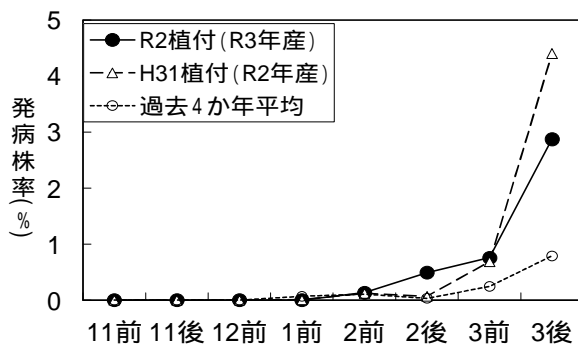


図1 たまねぎべと病発病株率の推移

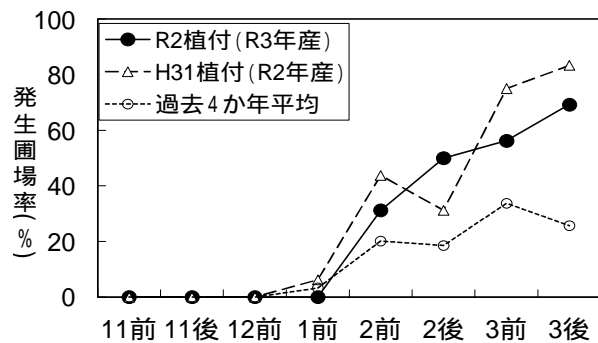


図2 たまねぎべと病発生圃場率の推移

2 原因解析

- ・定植後の降水量は少なかったが、9月の降水量が平年の2.5倍とかなり多く、卵胞子による感染が助長され、連作圃場においては一次感染が拡大した。
- ・年明け以降は寒暖の差が激しく数日の周期で天候は変化した。平均気温は高く降水量は平年より少なかったことから発生圃場は拡大したが、二次感染が鱗茎の肥大を阻害する病勢進展には繋がらなかった。

3 防除対策等対応内容

- ・令和3年2月1日に防除情報、3月2日に注意報を発出し、3月5日には防除対策会議において関係機関あてに情報提供を行い、発病株の抜き取りや薬剤防除の徹底、発病株の適正な処分等、時期ごとの防除対策について周知を図った。
- ・1月上旬より主産地において定点圃場を巡回し、一次感染株の発生状況を調査し一次感染株の初発時期を確認した。
- ・本年産の発生状況を踏まえ次年度防除対策を関係機関と連携し協議し、防除暦の見直しを行った。

4 問題となった点

- ・一部圃場では1月中旬頃の生育初期から発病が見られる等、発生は圃場間差が大きかった。

5 今後の課題等

- ・多発生圃場においては作付け圃場の変更による連作の回避等、発生リスクに応じた対策を実施し、一次感染株の抜き取りの徹底を再度周知する必要がある。
- ・予防防除の徹底および地域一斉防除への取組強化。

対象作物：トマト

病害虫名：トマト黄化葉巻病

発生程度：やや多

1 発生経過

・黄化葉巻病は11月後期から発生を確認し発生圃場率は平年並で推移し、4月後期から高くなった。発病株率は1月前期より上昇し耐病性品種を導入していない圃場で一部多発した(図1、2)。

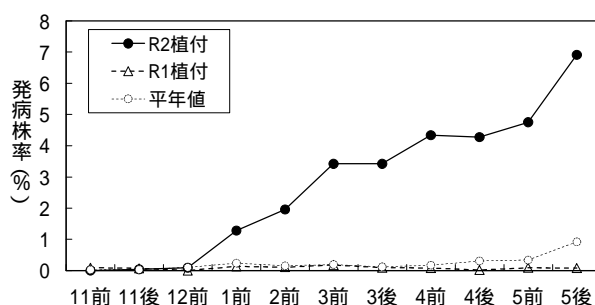


図1 トマト黄化葉巻病 発病株率の推移

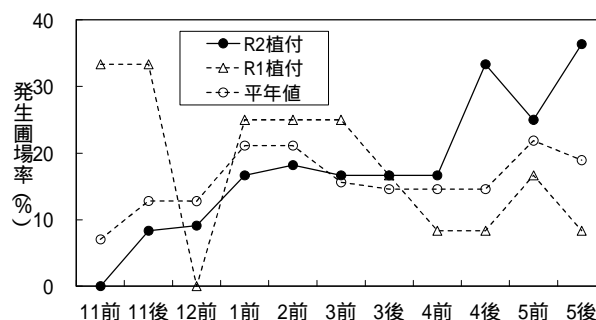


図2 トマト黄化葉巻病 発生圃場率の推移

2 原因解析

- ・産地によっては防虫ネットの展張が不十分で、コナジラミ対策の徹底が図られていない。
- ・一部で発病株の抜き取りが徹底されていない。

3 防除対策等対応内容

・予察情報を主体とした情報提供及び媒介虫であるコナジラミ類について令和3年度防除情報第1号(令和3年4月16日)でタバココナジラミの防除、防除情報第4号(令和3年5月18日)で収穫終了後の対策について周知を図った。

4 問題となった点

- ・タバココナジラミに対する有効な薬剤が少ない。
- ・感受品種を作付けしている圃場で発病株の抜き取りが徹底されておらず一部圃場で多発し発病株率を引き上げた。
- ・耐病性品種については感染無病徴株があるためバココナジラミの防除対策がおろそかになる等の事例がある。
- ・同一産地内で夏秋きゅうりと冬春トマトが混在している事例で、栽培終期の防除不足と栽培終了後の蒸し込み処理の不徹底により地域内のコナジラミ類の密度および保毒虫の増加が懸念されている。

5 今後の課題等

- ・有効薬剤の登録推進
- ・耐病性品種導入産地への指導方針の検討(感受性品種や他品目への対策)
- ・薬剤感受性モニタリング

対象作物：かんきつ

病害虫名：かいよう病

発生程度：多

1 発生経過

(1) 県予察圃場では4月下旬から春葉での発生が確認され、現地でも年間を通じて葉、果実ともに平年より多い発生で推移した(図1、2、3、4)。

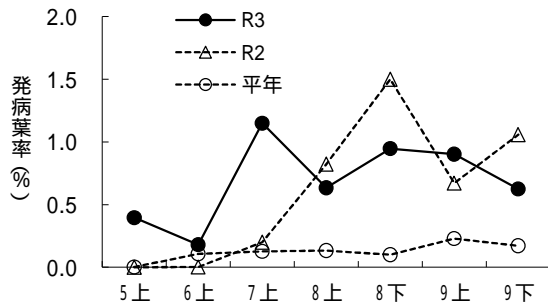


図1 かいよう病 発病葉率の推移 (月・旬)

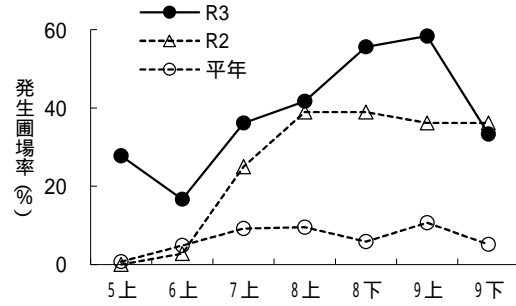


図2 かいよう病(葉) 発生圃場率の推移 (月・旬)

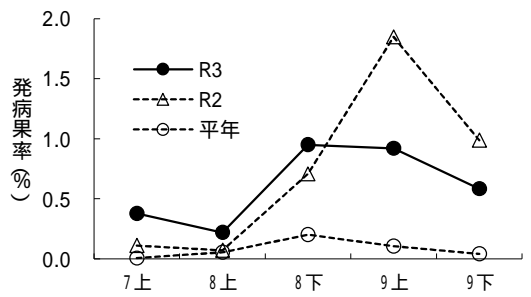


図3 かいよう病 発病果率の推移 (月・旬)

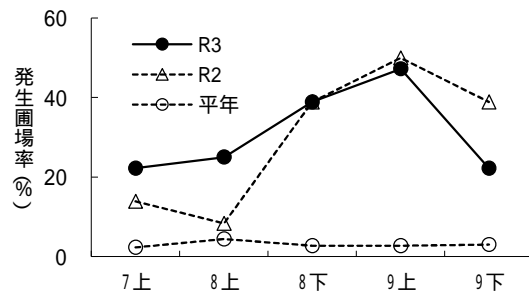


図4 かいよう病(果実) 発生圃場率の推移 (月・旬)

2 原因解析

- (1) 前年の発生も平年より多く暖冬であったため、越冬病斑が多くなり伝染源が多かったと考えられる。
- (2) 3月上旬の降雨や、3月～4月の高温、春先の強風が発芽期の感染を助長
- (3) 5月中下旬、8月上中旬の多雨、9月中旬の台風接近による強風雨が感染拡大を助長したと考えられる。

3 防除対策等対応内容

- 7月15日 防除情報
- 8月17日 防除情報
- 9月16日 注意報

4 問題となった点

- (1) 剪定時の罹病枝の除去などによる伝染源の抑制の不徹底
- (2) 多雨、強風雨時の防除の遅れによる感染拡大

5 今後の防除対策

罹病枝の除去による越冬病菌の密度低減や基本的な防除管理指導の徹底

対象作物：果樹共通

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）

発生程度：前半（7月以前）少 後半（8月以降）少

飛来時期：前半（7月以前）少 後半（8月以降）少

1 発生経過

- (1) チャバネアオカメムシの越冬量調査結果では、ここ10年間で最も少なかった（令和3年2月調査；0頭/m²、平年0.28頭/m²）。
- (2) フェロモントラップによる誘殺量は越冬世代（4月～7月）、当年世代（8月～10月）ともに平年より少ない誘殺量で推移した（図1）。
- (3) 予察灯の誘殺量は平年並～少なく推移した（図2）。
- (4) ヒノキきゅう果の寄生虫数は7月下旬、8月下旬ともに平年より少なかった（表1、2）。

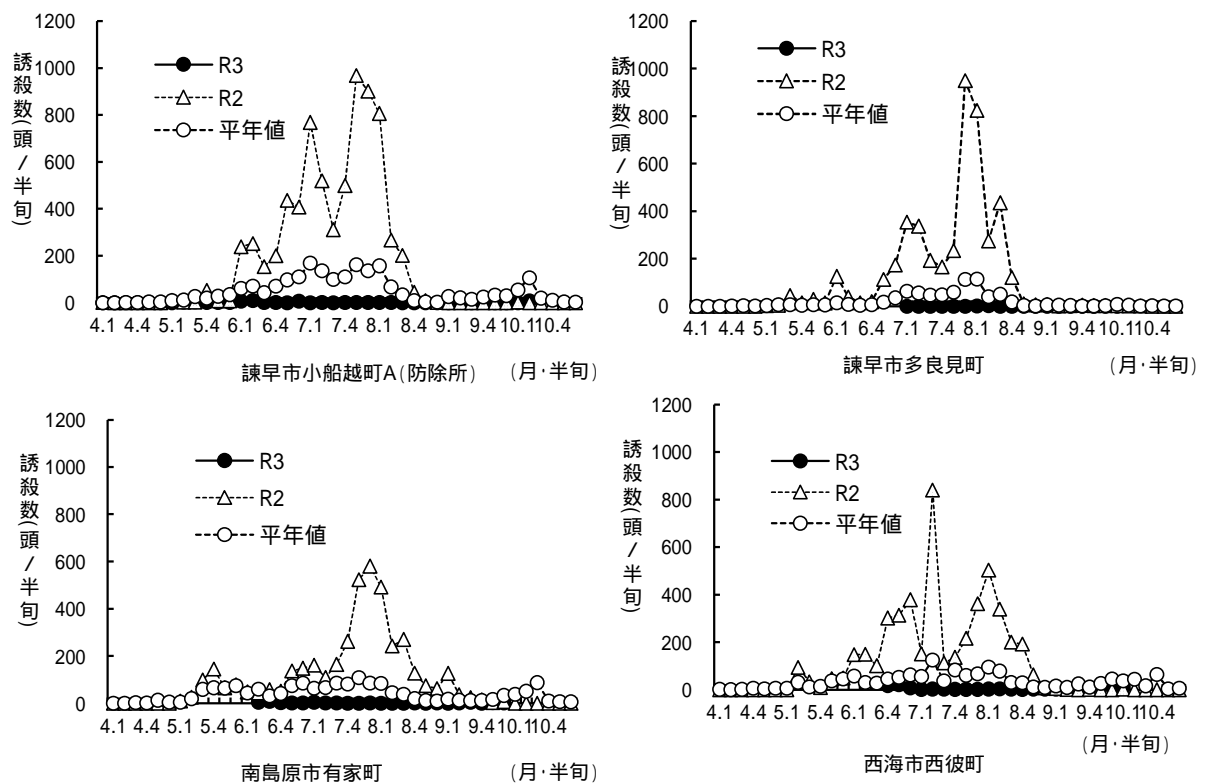


図1 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

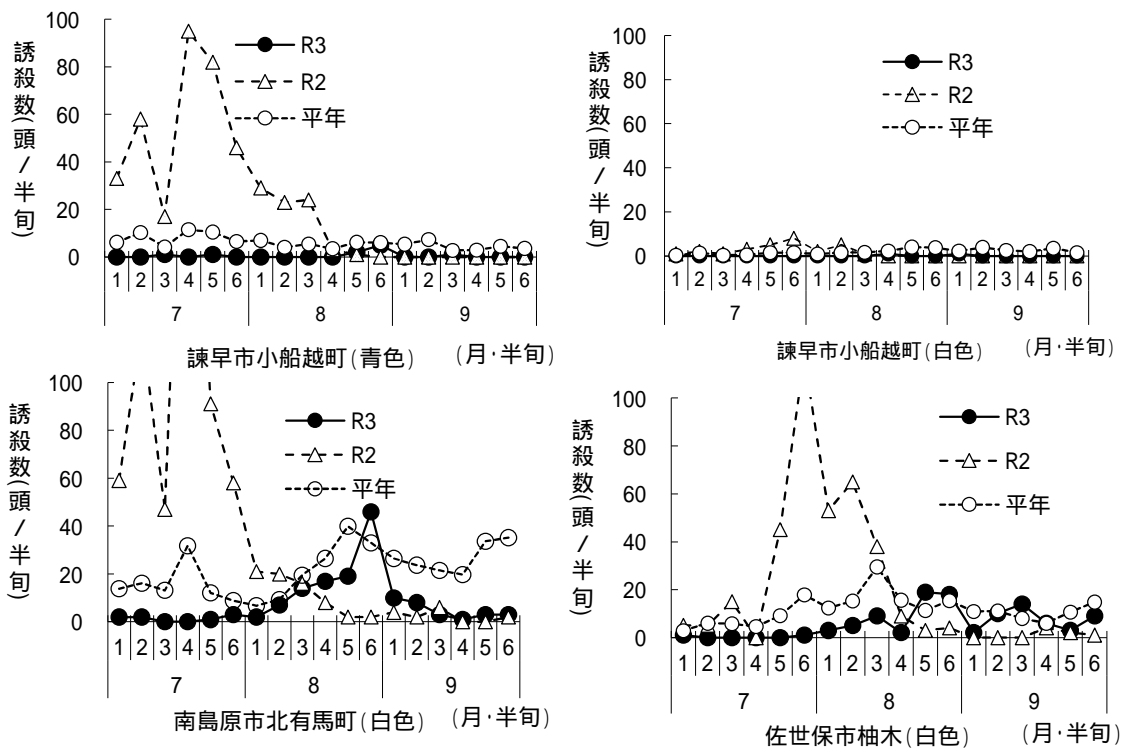


図2 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ類誘殺状況(予察灯;白色、青色)

2 原因解析

- (1) 越冬量は平年より少なかった。前年の当年世代の発生量が少なく越冬量も少なかったと考えられる。
- (2) ヒノキきゅう果の着生量は平年よりやや少なく、越冬世代の虫数も少なかったことから当年世代の増殖は大きくは伸びなかった(図1、図2、表1)。

表1 ヒノキ樹(きゅう果着生枝)における果樹カメムシ類の寄生状況(令和3年7月20,21日調査)

	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計	きゅう果着生量*
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計		
令和3年	0.3	0.0	0.0	0.1	0.4	0.05	0	0	0	0.05	0.5	2.3
平年	0.7	0.2	0.4	0.5	1.8	0.1	0.1	0.1	0	0.3	2.1	2.7

*きゅう果着生量は、程度を5段階(多:5, やや多:4, 中:3, やや少:2, 少:1)として達観調査した

表2 ヒノキ樹(きゅう果着生枝)における果樹カメムシ類の寄生状況(令和3年8月18,19日調査)

	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計	
令和3年	0.4	0.2	0.1	0.0	0.7	0.0	0	0	0	0.0	0.7
平年	1.2	0.2	0.3	0.2	1.9	0.3	0	0	0	0.3	2.2

3 防除対策等対応内容

- 2月17日 技術情報 越冬量調査結果について
- 8月5日 技術情報 当年世代の飛来予測について

4 問題となった点

特に問題なし

5 今後の防除対策

飛来が見られる園では、ジノテフラン水溶剤による防除

6 果樹園への飛来予測方法と確認方法

(1) 対象種

チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ

(2) 県内の飛来予測と確認方法

越冬量の状況

- ・越冬量(チャバネのみ)、春～初夏のフェロモントラップ・予察灯誘殺数、ナシ果実の被害推移で、前期発生型は確認している。

後期発生型は、フェロモントラップと予察灯誘殺数で確認。

ヒノキきゅう果結実量と口針鞘数による予測とその確認

- ・ヒノキきゅう果結実量は県の医師会が調査している花粉量のデータを参考にしながら、7月5半旬のピーティング調査時に確認している。
- ・7月5半旬の口針鞘数の予測式を用い予測し、8月下旬にもピーティングおよび口針鞘数の調査を実施している。

予察灯とフェロモントラップでの誘殺状況とほ場での被害

- ・前期・後期発生型とも誘殺数が増加する時期を園への飛来開始時期の参考とし、誘殺のピーク時期を被害果の発生増加時期の参考として、予察灯およびフェロモントラップデータをHPに掲載している。掲載時には果樹担当普及員等にメールで情報提供している。
- ・ほ場での被害については、巡回調査以外では病害虫防除員および普及指導員等から情報収集を行っている。

(3) 改善方向

飛来予測方法：7月下旬、8月下旬以外のピーティングおよび口針数調査の実施およびピーティング時のきゅう果着生量の広域調査の実施について検討する。

確認方法：9月中～下旬のピーティング調査を継続する。

対象作物：かんきつ

病害虫名：ミカンコミバエ種群

発生程度：多

1 発生経過

- (1) 令和2年度に誘殺されたミカンコミバエ種群に係る追跡調査において、令和3年5月25日に長崎市潮見町に設置したトラップにミカンコミバエ種群の誘殺が確認された。
- (2) 5月28日に同じ地区で3頭の誘殺が確認された後、6月に入って対馬市、西海市、佐世保市、時津町でも誘殺が確認され、現在まで(11月2日時点)に6市3町で122頭が誘殺されている。
- (3) 寄主果実調査において、9月21日に諫早市でカキの果実への寄生が確認され、現在まで(11月2日時点)に4市の計10カ所で寄生果(カキ、キミノバンジロウ)が確認されている。

2 原因解析

中国・台湾方面からの風の吹込みによる飛来が考えられるが、詳しい原因は不明。

3 防除対策等対応内容

- (1) 地上防除誘殺が確認された地点より半径5km円内にトラップを増設し侵入警戒調査を強化するとともに、半径2km円内の寄主果実調査を実施。また、半径2km円内(初動防除強化エリアについては5km)に人力によるテックス板(誘殺板)設置を行い、設置開始日を目安に約1か月間隔で更新している。現在まで(11月2日時点)に約240,000枚を設置。
- (2) 航空防除
長崎市、諫早市、西海市、時津町および長与町の初動防除強化エリアにおいて、8月27日より山間部への有人ヘリによる航空防除(テックス板:104,000枚)を実施。
- (3) 寄主果実除去
幼虫の寄生果実確認に伴い、発見地点から半径1km円内での寄主果実(庭木、家庭菜園摘果果実など)の除去、処分(埋却、焼却)を実施するとともに、半径2km円内の寄主果実の自主的な処分を呼びかけ。

4 問題となった点

- (1) 初動防除を誘殺当初から行っているにも関わらず断続的に広域での誘殺が確認されているため、連日テックス板設置を行っているが、動員の確保に苦慮している。
- (2) 寄生果実が発見された場合の対応について、寄主果実の埋設に適した場所の選定に苦慮している。

5 今後の防除対策

- (1) 厳寒期の活動停止時期までの地上防除および航空防除の継続。
- (2) 生産者、住民への不要な果実の処分継続を呼びかけ。

6 今後の課題

- (1) 植物防疫所や市町等の関係機関との役割分担の明確化および迅速な初動対応を実施するための体制整備。
- (2) 適時適切な防除を実施するための十分な予算の確保。

6 防除対策推進上の問題点及びその対策

農作物名	病害虫名	問題点	対策
普通期水稲	トビロウンカ	<ul style="list-style-type: none"> 一部で箱剤の的確な施用(施用時期・施用量)がなされていない。 飛来波が多く防除時期の設定に苦慮した。また、コブノメイガの飛来量も多く、加害を受けたため、コブノメイガと同時防除で薬剤の選択に苦慮した。 トリフルメゾピリムを含む箱剤を使用されていない圃場で坪枯れの発生が目立った。 	<ul style="list-style-type: none"> 箱施薬剤の適正な処理方法。 コストを考慮した本田防除体系の検討。 残効が長く防除効果の高い有効薬剤の開発(特に本田防除薬剤)。 臨機防除を確実にできる体制の確立。 株元に薬剤が十分付着するような薬剤散布の徹底。 トビロウンカに効果の高い箱施薬剤の施用。
普通期水稲	トビロウンカ	<ul style="list-style-type: none"> 一部で箱剤の的確な施用(施用時期・施用量)がなされていない事例がある。 飛来波が多い年は防除時期の設定に苦慮している。また、コブノメイガの飛来量も多かった場合、コブノメイガと同時防除で薬剤の選択に苦慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 箱施薬剤の適正な処理方法。 コストを考慮した本田防除体系の検討。 残効が長く防除効果の高い有効薬剤の開発(特に本田防除薬剤)。 臨機防除を確実にできる体制の確立。 株元に薬剤が十分付着するような薬剤散布の徹底。
かんきつ	かいよう病	<ul style="list-style-type: none"> 前年の発生も平年より多く暖冬であったため、越冬病斑が多くなり伝染源が多かったと考えられる。 3月上旬の降雨や、3月～4月の高温、春先の強風が発芽期の感染を助長 5月中下旬、8月上中旬の多雨、9月中旬の台風接近による強風雨が感染拡大を助長したと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 台風接近等の強風雨襲来前の無機銅水和剤による防除 発病枝葉の除去 防風対策の強化
果樹全般	カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)	<ul style="list-style-type: none"> 越冬量および前半(4月～7月)のフェロモントラップ誘殺数が多く、ビワ、ナシなどの一部の園で被害が発生した。 	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ発生園では、ジノテフラン水溶剤による防除
茶	チャトゲコナジラミ	<ul style="list-style-type: none"> 天敵の増加で本虫の発生が沈静化するが、初発生から6年経過しても天敵の発生が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 8月秋芽開葉期(2～3葉期)ジアフェンチウロン水和剤、臨機防除で9月フェンピロキシメート・ブプロフェジン水和剤、10月下旬～11月上旬(すそ部重点)にマシン油乳剤による防除の実施。 天敵利用の検討
いちご	ハダニ類	<ul style="list-style-type: none"> 主要品種「ゆめのか」は、従来品種に比べ茎葉が大きく株が繁茂しやすいため、株内部に薬剤が付着しにくく、防除効果が不十分となった。 新品種「恋みのり」は葉の先端が内側に丸まりやすい特性があり薬剤が均一にかかりにくいいためハダニが発生しやすい。 高齢の生産者はハダニ類の発見が遅れ、発生初期の防除が困難である。 薬剤感受性の低下により、化学農薬の散布だけでは防除が困難になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 化学農薬のみに頼らない防除技術普及推進(天敵、気門封鎖剤、高濃度炭酸ガス処理等) 新規有効薬剤の登録推進。

農作物名	病害虫名	問題点	対策
たまねぎ	べと病	<ul style="list-style-type: none"> ・越年罹病株の抜き取りの必要性は周知されているが、生産者や植付時期の違いにより発生程度は異なり、発病は圃場間差が大きく、一部多発圃場が見られた。越年罹病株の発病がここ数年早くなっており、連作圃場における菌密度の増加が懸念される。 ・薬剤の連続散布により生産者の作業負担、経費負担が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積算温度による越年罹病株の初発時期を推定し、発生時期に応じた対策の徹底を図る。

7 検定結果

(1) 薬剤抵抗性害虫検定

ヒメトビウンカ薬剤感受性検定

試験目的

長崎県における縞葉枯病の発生は、近年では平成20年が多発生であった。この年の発生要因としては、縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカの土着個体群とは薬剤感受性が異なる海外個体群が多飛来したことによるものとされている。土着個体群と飛来個体群が交雑可能であることから、今後、薬剤感受性の動向に変化が生じることが懸念されるため、薬剤感受性を明らかにし、今後の防除対策の一助とする。

試験方法

- 1) 供試虫：長崎市手熊、佐世保市針尾で令和3年3月にヒメトビウンカを採集し、累代飼育1～5世代後の長翅雌成虫を用いた。
- 2) 供試薬剤：トレボン（エトフェンプロックス）、スタークル（ジノテフラン）
- 3) 検定方法：微量局所施用法による。バーカード社の手動アプリケータを用いて1頭あたり、0.08マイクロリットルのアセトンに溶かした薬液を長翅雌成虫の頭部から胸部に塗布し、その後、少量の芽だしイネ苗と共にプラスチック容器に入れた。各薬剤処理24時間後に生死の判定を行い、苦悶して脚を動かすものつかまっていられない個体は死虫とした。なお1薬剤の反復は15頭前後×3反復とした。このデータをもとに、半数致死薬量（LD50値）を算出した。

結果

1) トレボン（エトフェンプロックス）

佐世保市針尾個体群のLD₅₀値は前年から増加し高く、感受性は低い傾向であった。

長崎市手熊個体群のLD₅₀値はH30年と変わらず、感受性は低い傾向であった。

2) スタークル（ジノテフラン）

佐世保市針尾個体群のLD₅₀値は前年と変わらず、感受性の低下は認められなかった。

長崎市手熊個体群のLD₅₀値はH30年と変わらず、感受性の低下は認められなかった。

表 ヒメトビウンカに対する各薬剤の薬剤感受性

年次	採集		トレボン		スタークル	
	地域	月日	LD ₅₀	b	LD ₅₀	b
R3	長崎市手熊	3.3	85.3	1.5	5.7	1.4
	佐世保市針尾	3.4	54.6	1.7	1.4	1.2
(参考) H30	長崎市手熊	3.6	73.8	1.5	1.6	1.3
R2	佐世保市針尾	3.6	11.4	1.0	3.9	1.7

LD₅₀値の単位はμg/g。bはプロビット回帰曲線の傾き

かんきつのミカンハダニの薬剤感受性検定

1. 目的

長崎県内のかんきつ栽培地域に分布するミカンハダニについて、各種殺ダニ剤（常用濃度および3倍希釈濃度）に対する薬剤感受性を調査し、今後の防除対策の参考とする。

2. 検定概要

1) 採集地、採集月日、処理月日および判定月日

採集地	採集月日	接種月日	薬剤浸漬		調査	
			処理月日	産卵日数 (日)	判定月日	処理後日数 (日)
西海市(木場)	8/2	8/2	8/4	2	8/11	7
長与町(岡)	9/29	9/29	10/1	2	10/8	7
諫早市(佐瀬)	8/2	8/2	8/4	2	8/11	7
大村市(今村)	7/19	7/19	7/21	2	7/28	7
雲仙市(瑞穂)	8/6	8/6	8/8	2	8/16	7
佐世保市(針尾)	7/19	7/19	7/21	2	7/28	7
東彼杵町(赤木)	9/29	9/29	10/1	2	10/8	7

2) 検定場所：農林技術開発センター発生予察室（病害虫防除所）

3) 検定方法：リーフディスク法

採集したミカンハダニ雌成虫をミカン葉片に1葉片あたり10～15頭接種し、2日間産卵させた後、雌成虫を取り除き、直ちに葉片を所定濃度の薬液に10秒間浸漬した。薬剤処理7日後に未ふ化卵数、死亡幼虫数および生存幼虫数を調査した。

なお、処理期間中の室温は25℃に設定した。

4) 供試薬剤および供試濃度

供試薬剤名	有効成分	含有率 (%)	IRAC code	登録希釈倍数 (倍)	供試希釈倍数(倍)	
					常用濃度	3倍希釈濃度
ダニオーテフロアブル	アシナピル	20	UN	2000～3000	3,000	9,000
バロックフロアブル	エトキサゾール	10	10B	2,000～3,000	2,000	6,000
メビウスフロアブル	エトキサゾール	7.5	10B	2,000～3,000	2,000	6,000
	アバメクチン	1.8	6			
スターマイトフロアブル	シエノピラフェン	30	25A	2,000～3,000	2,000	6,000
ダニコングフロアブル	ピフルブミド	20	25B	2,000～4,000	2,000	6,000
ダニゲッターフロアブル	スピロメシフェン	30	23	2,000	2,000	6,000

3. 結果および考察

1) ダニオーテフロアブル

すべての地点で常用濃度、3倍希釈濃度とも補正死亡率96%以上と高い感受性を示した。

2) バロックフロアブル

大村市(今村)、雲仙市(瑞穂)で常用濃度、3倍希釈濃度ともに感受性が低かった。特に大村市(今村)の補正死亡率は常用濃度、3倍希釈濃度ともに50%を下回った。

3) メビウスフロアブル

大村市(今村)で常用濃度、3倍希釈濃度ともに感受性が低かった。雲仙市(瑞穂)では3倍希釈濃度で感受性が低かった。東彼杵町(赤木)では常用濃度の感受性が低かった。有効成分のうちエトキサゾールはパロックフロアブルと同成分であり、パロックフロアブルの感受性が低下している地点では同様に感受性が低下しているが、補正死亡率は同等あるいはやや上回った。

4) スターマイトフロアブル

西海市(木場)、大村市(今村)、雲仙市(瑞穂)で常用濃度、3倍希釈濃度ともに感受性が低かった。特に大村市(今村)の補正死亡率は常用濃度でも50%を下回り、3倍希釈濃度はさらに大きく下回った。

5) ダニコングフロアブル

すべての地点で常用濃度、3倍希釈濃度とも補正死亡率91%以上と高い感受性を示した。

6) ダニゲッターフロアブル

大村市(今村)で常用濃度、3倍希釈濃度ともに補正死亡率85%を下回る低い感受性を示した。

表 令和3年度かんきつのみカンハダニ薬剤感受性検定結果(補正死亡率)

採集地	供試薬剤	ダニオーテ フロアブル	パロック フロアブル	メビウス フロアブル	スターマイト フロアブル	ダニコング フロアブル	ダニゲッター フロアブル
	濃度						
西海市(木場)	常用	100	100	100	54.6	100	100
	3倍	100	100	100	70.7	95.7	100
長与町(岡)	常用	100	99.3	99.3	98.5	100	100
	3倍	98.6	100	99.2	97.8	100	100
諫早市(佐瀬)	常用	100	99.2	100	97.0	100	100
	3倍	100	100	100	98.5	100	99.2
大村市(今村)	常用	100	42.6	68.2	41.8	98.9	84.1
	3倍	100	46.8	59.1	10.8	91.6	82.6
雲仙市(瑞穂)	常用	100	84.2	98.9	89.7	100	100
	3倍	96.9	61.8	80.1	86.7	100	97.9
佐世保市(針尾)	常用	100	99.2	99.2	98.5	100	100
	3倍	100	99.2	98.4	100	100	100
東彼杵町(赤木)	常用	-	-	88.1	-	-	-
	3倍	-	-	-	-	-	-

注) セルの塗りつぶし部分: 補正死亡率が90%以下

東彼杵町(赤木)は、供試虫数が少なかったため、メビウスフロアブルの常用濃度のみ実施。

いちごナミハダニの薬剤感受性検定

1. 試験目的

いちごの重要害虫であるナミハダニについては、近年多発傾向にある。本虫は一部の薬剤に対する感受性が低下しており、防除対策を立てる上ではその動向に注意する必要がある。

そこで、各種薬剤に対する感受性検定を行い、薬剤抵抗性発達防止への取り組みの参考とする。

2. 検定概要

1) 採集地区および実施日等

市町名	地区		採集日	接種日	処理日	判定日
大村市	松原	地床	4月27日	4月27日	4月30日	5月7日
長崎市	琴海長浦	地床	5月18日	5月19日	5月21日	5月28日
大村市	岩松	ベンチ	5月31日	6月1日	6月3日	6月10日
雲仙市	国見	ベンチ	6月2日	6月2日	6月4日	6月11日

2) 供試薬剤および供試希釈倍数

薬剤名	有効薬剤	成分量 (%)	IRAC	登録希 釈倍数	供試希釈倍数	
					常用濃度	3倍希釈濃度
スターマイトフロアブル	シエノピラフェン	30	25A	2000	2000	6000
ダニコングフロアブル	ピフルブミド	20	25B	3000	3000	9000
[ダブルフェースフロアブル	ピフルブミド	15	25B	2000	2000	6000
	フェンピロキシメート	5	21A			
アフーム乳剤	エマメクチン	1	6	2000	2000	6000
アグリメック	アバメクチン	1.8	6	500 ~ 1000	1000	3000
グレーシア乳剤	フルキサメタミド	10	30	2000	2000	6000
ダニオーテフロアブル	アシノナピル	20	UN	2000	2000	6000

3) 検定方法 リーフディッピング法

インゲン苗の初生葉 2 × 4 cm の葉片を切り出し、雌成虫を 10 ~ 15 頭接種し、2 日間産卵させた後、雌成虫を取り除き、卵数を計数した。直ちに葉片ごと卵を所定濃度の薬液(展着剤添加)に約 10 秒間浸漬した。薬剤処理 7 日後に生存虫数と死亡虫数(ふ化後死亡幼虫および未ふ化卵)を調査し、次式により補正死亡率を算出した。

$$\text{補正死亡率} = \{ (\text{無処理区の生存率} - \text{処理区の生存率}) / \text{無処理区の生存率} \} \times 100$$

3. 結果

1) スターマイトフロアブル

すべての地区で常用濃度、3倍希釈濃度ともに感受性が低かった。

2) ダニコングフロアブル

すべての地区で常用濃度、3倍希釈濃度ともに感受性が低かった。

3) アファーム乳剤

長崎市(琴海)、大村市(松原)、大村市(岩松)で感受性の低下が見られた。

雲仙市(国見)では、3倍希釈濃度で感受性の低下が見られた。

4) アグリメック

長崎市(琴海)と大村市(松原)では3倍希釈濃度で感受性の低下が見られた。雲仙市(国見)では常用濃度、3倍希釈濃度とも感受性が低かった。

5) グレーシア乳剤

すべての地区の常用濃度では高い感受性を示した。

大村市(松原)では3倍希釈濃度で感受性の低下が見られた。

6) ダニオーテフロアブル

すべての地区で常用濃度、3倍希釈濃度とも高い感受性を示した。

表 令和3年度いちごナミハダニ薬剤感受性検定結果(補正死虫率) (%)

		スターマイト フロアブル	ダニコング フロアブル	アファーム 乳剤	アグリメック	グレーシア 乳剤	ダニオーテ フロアブル
長崎市 (琴海)	常用	76.1	62.3	81.5	93.8	100	100
	3倍	66.3	50.5	77.6	81.8	94.9	100
大村市 (松原)	常用	58.1	50.4	72.1	92.8	91.8	100
	3倍	48.9	50.7	83.5	41.5	69.7	98.9
大村市 (岩松)	常用	87.0	80.8	85.9	91.3	100	100
	3倍	81.7	57.3	95.9	96.3	100	100
雲仙市 (国見)	常用	57.2	67.9	96.8	77.9	97.1	100
	3倍	55.0	67.1	60.6	37.0	97.6	100

大村市(松原)はダブルフェースフロアブルで実施

補正死虫率90%以下はセルを塗りつぶした。

表中の数値はハウス単位で採取したハダニの結果であり、各地域全体の感受性を反映したものではない。

(2) ウイルス検定

イネ縞葉枯病ウイルス

ア 目的

ヒメトビウカカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒の実態を明らかにし、今後の防除対策に資する。

イ 採集及び検定方法

(ア) 供試虫の採集

越冬世代：2021年（令和3年） 2月25日～3月 9日

第1世代：2021年（令和3年） 5月 6日～5月26日

(イ) 検定方法

簡易エライザ法により、越冬世代は3月下旬、第1世代は6月上旬に検定を行った。

ウ 結果の概要

第1表 越冬世代の各地点における保毒虫率

調査地点	検定虫数	保毒虫率 (%)	生息量 (頭/10m ²)
長崎市手熊	93	0	30.4
長崎市琴海町	93	0	20.2
諫早市多良見町	93	0	6.2
諫早市森山	93	0	3.0
諫早市小野	93	0	12.5
雲仙市国見町	57	0	2.9
雲仙市吾妻町	93	0	3.4
佐世保市針尾	93	0	30.6
佐世保市長畑	93	1.1	44.3

第2表 過去の越冬世代の保毒虫率の推移

調査年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平年
保毒虫率 (%)	0.5	0.8	0.4	0.3	0	0.1	0.8

注) 平年値は平成23～令和2年の平均(最大・最小値を除く)

第3表 第1世代の各地点における保毒虫率

採 集 地 点	検定虫数	保毒虫率 (%)	生息量 (20回すくいとり 当たり頭数)
長崎県手熊	-	-	0.3
長崎市琴海戸根	-	-	1.3
長崎市外海町神ノ浦	-	-	0.0
西海市大瀬戸町	-	-	0.1
諫早市小船越	93	0	7.6
諫早市小野	52	0	3.1
諫早市森山	93	1	4.8
諫早市多良見町	40	0	6.4
大村市鈴田	-	-	0.7
東彼杵町三根	-	-	1.1
雲仙市吾妻町	-	-	0.0
雲仙市国見町神代	93	0	4.0
佐世保市長畑	59	0	0.8
佐世保市針尾	60	0	1.8
松浦市志佐	-	-	0.3
平戸市紐差	-	-	0.4
五島市上大津	-	-	0.3
五島市野々切	-	-	0.4
五島市崎山	-	-	0
五島市富江	-	-	0
五島市三尾野	-	-	0.2
五島市岐宿町	-	-	2.0
五島市岐宿川原	-	-	0.2
壱岐勝本町	-	-	0
県全体	490	0.2	1.0
平年値	-	0.5	6.6

*保毒虫率については、30頭以上捕獲した調査地点のみ算出

第4表 過去の第1世代の保毒率の推移

調査年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平年
保毒虫率(%)	0.4	0.1	0.4	0.4	0	0.2	0.5

注) 平年値は平成23～令和2年の平均(最大・最小値を除く)

イネ萎縮病ウイルス

ア 目的

ツマグロヨコバイのイネ萎縮病ウイルス保毒の実態を明らかにし、今後の防除対策に資する。

イ 採集及び検定方法

(ア) 供試虫の採集

2021年(令和3年)5月下旬

(イ) 検定方法

ラテックス凝集反応法により2021年6月3日に検定を行った。

ウ 結果の概要

ツマグロヨコバイの第1世代のウイルス保毒率は平年並であった(第5、6表)。

第5表 各地点における保毒虫率

調査地点名	検定虫数	保毒虫数	保毒虫率
			(%)
諫早市小野	124	0	0
合計(平均)	124	0	0

第6表 過去の第1世代の保毒率の推移

調査年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平年
保毒率(%)	0	0	0	0	0	0	0

注) 平年値は平成23～令和2年の平均(最大・最小値を除く)

8 病害虫診断 (2021年4月～2022年3月診断)

作物名	月日(依頼日)	発生場所	品種(台木)	診断結果
たまねぎ	2021/4/1	諫早市天神町	七宝	べと病
ブロッコリー	2021/4/1	諫早市小野町赤崎	恵麟	ハモグリバエ成虫による食害痕
ミニトマト	2021/4/5	諫早市川内町	MKS-820(足自慢SS)	不明
サカキ	2021/4/6	佐世保市世知原町	なし(世知原系統)	不明
ぶどう	2021/4/20	西海市西彼町	巨峰(20年生)	強日射を伴う高温障害
いちご	2021/4/6	西海市西彼町平山	恋の香(苗床)	非病原性
いちご	2021/4/9	長崎市飯香浦	ゆめのか(苗床)	非病原性
キャベツ	2021/4/16	雲仙市南串山町	夏ぞら(露地)	非病原性
ミニトマト	2021/4/19	諫早市長田町	cf小鈴(足じまんSS)	不明
きゅうり	2021/4/20	諫早市飯森町	せいしん(ゴールド西光)	青枯病
ほおずき	2021/4/21	西彼町白似田	長崎大実	非病原性
ストレチア	2021/4/23	大村市草葉町	オーガスター	条斑細菌病の疑い
しょうが	2021/4/23	諫早市	-	根茎暗斑病
いちご	2021/4/27	雲仙市国見町	恋みのり	不明
アジサイ	2021/5/6	長崎市北浦町	鉢物	非病原性
大玉すいか	2021/5/7	南島原市布津町	ロマン(かんぴょう)	非病原性
水稻	2021/5/8	愛野町新崎	にこまる	肥料やけによる生理障害
たまねぎ	2021/5/10	諫早市中央干拓	七宝早稲七号	細菌性の腐敗
アスパラガス	2021/5/11	大村市原町	ウェルカム	立枯病
かき	2021/5/13	諫早市平山町	平種無し	生理障害、カキノヘタムシガ
いちご	2021/5/17	大村市草葉町	ゆめのか(苗床)	炭疽病
いちご	2021/5/19	雲仙市吾妻町	ゆめのか(苗床)	先枯病
ピーマン	2021/5/24	諫早市目代町	-	白絹病
かき	2021/5/25	西海市西彼町	露地	養分競合
白ねぎ	2021/5/27	雲仙市国見町	羽みどり、初夏おうぎ	不明
小麦	2021/5/27	大村市	チクゴイズミ	非病原性
なす	2021/5/25	東彼杵	露地	非病原性
ツワ	2021/5/28	諫早市小川町	露地	ツワブキハグキフクレフシ
きゅうり	2021/6/2	諫早市本明町	ニーナZ(RK-3)	非病原性
ししとう	2021/6/9	南島原市深江町	宝楽シトウ(白根)	非病原性
ミニトマト	2021/6/10	千々和町	CF小鈴(頑張る根11号)	青枯病
シクラメン	2021/6/11	長崎市北浦町	ストロベリーフラッパ	非病原性
裸麦	2021/6/14	波佐見町	長崎御島	赤かび病
水稻	2021/6/14	諫早市有喜町	ヒノヒカリ	非病原性
いちご	2021/6/14	大村市野田町	ゆめのか(苗床)	輪斑病

作物名	月日(依頼日)	発生場所	品種(台木)	診断結果
いちご	2021/6/17	雲仙市国見町	恋みのり	輪紋病
ししとう	2021/6/18	諫早市森山町	青いシシトウ	青枯病
ミニトマト	2021/6/21	東彼杵町	エコスイート(グリーンセーブ)	非病原性
いちご	2021/6/22	雲仙市国見町	恋みのり	非病原性
中晩生かんきつ	2021/6/23	南島原市布津町	不知火(無加温ハウス)	コナカイガラムシ
ししとう	2021/6/25	南島原市深江町	宝楽シシトウ	非病原性
ポットマム	2021/6/28	西彼町中山	施設	アザミウマ類、ホコリダニ類
ほおずき	2021/6/28	西海市西彼町	-	原因不明
かんしょ	2021/7/5	五島市大荒町	シルクスイート、安納芋、紅はるか	斑紋モザイク病
いちご	2021/7/5	諫早市真崎町	さちのか(苗床)	輪斑病
いちご	2021/7/6	ゆめのか	ゆめのか(苗床)	非病原性
かんしょ	2021/7/7	雲仙市千々和町	紅はるか	基腐病
ミニトマト	2021/7/7	東彼杵町	ミニトマト	不明
中晩柑	2021/7/8	大村市向木場	せとか	樹勢回復の遅れ
ミニトマト	2021/7/9	波佐見町稗木場	エコスイート(グリーンセーブ)	青枯病
ミニトマト	2021/7/12	西海市大瀬戸町	小鈴キング(グリーンガード)	不明
いちご	2021/7/19	西海市西彼町	ゆめのか(苗床)	-
いちご	2021/7/19	西海市西彼町	こいのか(苗床)	炭疽病
かき	2021/7/20	諫早市貝津町	-	イラガ
アスパラガス	2021/7/21	大村市大里町	-	非病原性要因
なす	2021/7/29	大村市太ノ浦	PC筑陽(露地)	褐紋病
なし	2021/8/2	諫早市本名町	幸水、豊水	トビロズメ
いちご	2021/8/2	琴海町戸根	ゆめのか(苗床)	不明
ししとう	2021/8/2	諫早市目代町	L3葵シシトウ	白絹病
いちご	2021/8/3	雲仙市愛野町	ゆめのか	キノコバエ類
ししとう	2021/8/5	本野町西山木場	-	不明
しょうが	2021/8/5	東彼杵町千綿宿郷	-	不明
ミニトマト	2021/8/10	川棚町	-	青枯病、すすかび病
いちご	2021/8/11	雲仙市愛野町	ゆめのか(苗床)	炭疽病
ミニトマト	2021/8/12	南島原市深江町	アイコ	不明
たまねぎ	2021/8/13	東彼杵町里郷	ターザン	黒かび病
いちご	2021/8/16	諫早市森山町	ゆめのか	不明
トルコキキョウ	2021/8/18	長崎市長浦町	ソロブルーピコティ等	不明
ラベンダー	2021/8/18	西海市西海町	長崎av3 ,リトルマミー	アザミウマ
ガーベラ	2021/8/18	諫早市飯盛町	-	不明
いちご	2021/8/19	諫早市森山町	苗床	不明
いちご	2021/8/23	大村市種苗センター	ゆめのか(苗床)	非病原性要因

作物名	月日(依頼日)	発生場所	品種(台木)	診断結果
レタス	2021/8/31	雲仙市愛野町	インターセプト	不明
しょうが	2021/8/31	多良見町中里	土佐	青枯病
ミニトマト	2021/8/31	諫早市森山町	MKS820(キングバリア)	不明
にがうり	2021/8/31	諫早市小長井町	白根(百成レイシ雅)	非病原性要因
ブロッコリー	2021/8/31	諫早市小長井町	SK99(サカタ)	非病原性要因
パプリカ	2021/9/2	五島市吉田町	クブラ、アルテガ、マベラ等	青枯病併発
水稲	2021/9/2	諫早市土師野	ヒノヒカリ	内穎褐変病
いちご	2021/9/6	諫早市目代町	ゆめのか	非病原性要因
いちご	2021/9/8	長崎市三ツ山町	ゆめのか	非病原性要因
みかん	2021/9/8	南島原市	岩崎早生	褐色腐敗病
きゅうり	2021/9/10	東彼杵	本圃	不明
ミニトマト	2021/9/10	吾妻町	CF小鈴(グリーンセーブ)	青枯病
ミニトマト	2021/9/10	諫早市長田町	-	青枯病
ミニトマト	2021/9/10	諫早市高来町	CF小鈴(がんばる根フォルテ)	青枯病
いちご	2021/9/13	長崎市琴海町	ゆめのか	非病原性要因
ししとう	2021/9/13	西海市西彼町	宝楽シシトウ	ミナミキイロアザミウマ
きゅうり	2021/9/13	諫早市高来町	まりん(ゆう黒)	非病原性要因
きゅうり	2021/9/15	諫早市小長井町	コーナZ(RK-3)	不明
いちご	2021/9/15	南島原市加津佐町	恋みのり	不明
トルコギキョウ	2021/9/16	長崎市三和町	本圃	褐斑病
ミニトマト	2021/9/17	諫早市下大渡野町	CF小鈴(がんばる根フォルテ)	青枯病
みかん	2021/9/17	西海市西海町	石地	黒点病
いちご	2021/9/21	長崎市琴海町	ゆめのか(本圃)	非病原性要因
みかん	2021/9/21	西海市大瀬戸町	極早生ミカン	風きず
水稲	2021/9/21	諫早市小野町	なつぼのか	紋枯病
きゅうり	2021/9/22	諫早市飯森町	まりん(PK-3)	モザイク病
にんじん	2021/9/22	諫早市飯森町	愛紅	不明
しょうが	2021/9/22	諫早市天神町	土佐一	根茎腐敗病
いちご	2021/9/22	東彼杵町三根郷	ゆめのか夜冷	不明
はくさい	2021/9/27	南島原市北有馬町	晴気65	不明
水稲	2021/9/27	雲仙市瑞穂町	なつぼのか	紋枯病、いもち病、ごま葉枯病
はくさい	2021/9/27	南島原市北有馬町	晴気65	不明
ミニトマト	2021/9/29	諫早市高来町	エコスイート(頑張る根サバンナ)	青枯病
かんしょ	2021/9/28	大村市鈴田町	シルクスweet	ハリガネムシ 黒斑病
にがうり	2021/9/28	諫早市高来町	えらぶ	青枯病
大豆	2021/10/1	諫早市貝津町	フクユタカ	不明
ばれいしょ	2021/10/1	諫早市天神町	アイマサリ	青枯病

作物名	月日(依頼日)	発生場所	品種(台木)	診断結果
きく	2021/10/1	長崎市飯香浦町	本圃	青枯病
きゅうり	2021/10/7	諫早市飯森町	聖真	-
ミニトマト	2021/10/4	諫早市高来町	CF小鈴	すすかび病
いちご	2021/10/4	大村市弥勒寺町	ゆめのか	炭疽病
キャベツ	2021/10/4	諫早市本名町	おきな	不明
かんしょ	2021/10/4	新上五島町	本圃	基腐病
きゅうり	2021/10/6	大村市沖田町	本圃	黄化えそ病
しょうが	2021/10/7	長崎市川内町	-	青枯病
かんしょ	2021/10/7	諫早市森山町	有明、いばら	マルクピクシコメツキ(ハリガネムシ)
パレিশヨ	2021/10/7	諫早市飯森町	ニシユタカ	青枯病に一部軟腐病が混在
トマト	2021/10/11	大村市富の原	かれん	黄化葉巻病
ブロッコリー	2021/10/11	諫早市中央干拓地	本圃	白絹病
スターチス	2021/10/12	雲仙市愛野町	サンデーアイス(本圃)	青枯病
ミニトマト	2021/10/13	長崎市琴海町戸根	小鈴キング(足じまん キーパー)	青枯病、茎えそ細菌病
たまねぎ	2021/10/14	南島原市布津町	スーパーアップ	非病原性要因
ブロッコリー	2021/10/14	諫早市小野島	おはよう	株腐病
かんしょ	2021/10/15	諫早市小船越町	-	ハリガネムシ
いちご	2021/10/15	雲仙市	苗床	炭疽病
いちご	2021/10/18	諫早市山川町	こいみのり	非病原性要因
トリフォニウム	2021/10/19	諫早市森山町	本圃	フザリウム菌による立枯症状
ゼラニウム	2021/10/19	諫早市森山町	アップルゼラニウム	青枯病
きゅうり	2021/9/24	諫早市飯森町	まりん (RK-3)	モザイク病
トルコギキョウ	2021/9/24	長崎市川原町	セレブリ、チキワイト	苗立枯病
中晩柑	2021/10/26	大村市今村町	不知火(無加温ハウス)	スタメラノーズと台風きずの複合症状
ミニトマト	2021/9/27	島原市千々石町	クイーン(フォルテ)	青枯病
いちご	2021/10/11	大村市草場町	ゆめのか	炭疽病
いちご	2021/10/19	長崎市川内町	ゆめのか	菌核病
キウイフルーツ	2021/10/20	松浦市誌佐町	レインボーレッド	強風による打撲
きく	2021/10/22	長崎市早崎町	フエゴダーク	シュドモナス属菌による腐敗
カーネーション	2021/10/22	大村市立福寺町	イズミ、コンティ チェリー	萎凋細菌病の疑い
いちご	2021/10/25	雲仙市吾妻町	ゆめのか	萎黄病
いちご	2021/10/25	長崎市飯香浦町	淡雪	不明
にら	2021/10/26	南島原市深江町	ミラクル	アザミウマ
トルコギキョウ	2021/10/27	諫早市	モンロー	スリップス
アスパラガス	2021/10/27	東彼杵町三根郷	ウェルカム	株枯病
アスパラガス	2021/10/27	東彼杵町川内郷	ウェルカム	不明
キウイフルーツ	2021/10/30	諫早市若葉町	-	アオキシロカイガラムシ

作物名	月日(依頼日)	発生場所	品種(台木)	診断結果
葉ぼたん	2021/10/30	諫早市若葉町	-	ハスモンヨトウ
いちご	2021/11/5	島原市国見町	こいみのり	非病原性要因
かんしょ	2021/11/5	島原市安中町	紅あずま他	皮目症状
きゅうり	2021/11/8	大村市黒丸町	ニーナZ	非病原性要因
きゅうり	2021/11/8	諫早市小長井町	-	非病原性要因
かんしょ	2121/11/9	西海市西彼町	シルクスweet	サツマイモ基腐病
ミニトマト	2021/11/9	大村市立福寺町	シシリアンルージュ	かいよう病
いちご	2021/11/10	大村市松原町	ゆめのか	炭疽病
かんしょ	2021/11/10	平戸市田平町	べにはるか	サツマイモ基腐病
きゅうり	2021/11/15	大村市黒丸町	ニーナZ	非病原性要因
ブロッコリー	2021/11/15	諫早市中央干拓地	-	苗立枯病
ヤサイ	2021/11/16	大村市鬼橋町	-	ミミズク
いちご	2021/11/19	東彼杵町樋口	ゆめのか	ハナアブ
きゅうり	2021/11/22	大村市	恵沢	黒星病
つくねいも	2021/11/22	諫早市天神町	-	青かび病
ミニトマト	2021/11/25	雲仙市	小鈴	非病原性
きゅうり	2021/11/26	川棚町小串郷	-	不明
バンジー	2021/11/26	諫早市多良見町	多品種	疫病?
中晩生かんきつ	2021/12/1	南島原市有家町	せとか他	サビダニ
中晩生かんきつ	2021/12/1	南島原市布津町	せとか	フジコナカイガラムシ
きく	2021/12/2	長崎市太田尾町	神馬	-
いちご	2021/12/2	長崎市川内町	ゆめのか	アブラムシ
にんじん	2021/12/6	諫早市天神町	(本圃)	ネコブセンチュウ
いちご	2021/12/8	長崎市三和町	-	不明
かんしょ	2021/12/9	長崎市琴海利根町	紅あずま	軟腐病
はくさい	2021/12/9	南島原市北有馬町	黄ごころ85	非病原性要因
レタス	2021/12/17	雲仙市小浜町	マイルド	不明
ブロッコリー	2021/12/21	波佐見町岳辺田郷	おはよう	黒すす病
いちご	2021/12/21	諫早市飯盛町	ゆめのか	不明
いちご	2021/12/22	西海市西彼町	ゆめのか	萎凋病
スターチス	2021/12/27	雲仙市愛野町	ブルーインパルス	非病原性要因
自然薯	2022/1/6	対馬市上対馬町	-	外皮:紅色根腐れ病 内部:生理障害
トマト	2022/1/14	西海市大島町	ファーストパワー	非病原性要因
なす	2022/1/17	佐世保市	PC筑陽	不明
中晩柑	2022/1/17	諫早市多良見町	はれひめ	かいよう病
中晩柑	2022/1/17	諫早市多良見町	温州みかん	アカマルカイガラムシ
ブロッコリー	2022/1/25	-	-	べと病

作物名	月日(依頼日)	発生場所	品種(台木)	診断結果
レタス	2022/1/27	島原市有明町	ツララ	モザイク病
ブロッコリー	2022/1/28	諫早干拓	あらくさ53号	べと病
ミニトマト	2022/1/28	諫早市川内町	CF小鈴	菌核病
中晩柑	2022/1/31	西海市西海町	津之輝(カタチ)	ホコリダニ
トルコギキョウ	2022/1/31	南島原市深江町	プリマラベンダー	葉巻病
たまねぎ	2022/1/31	雲仙市千々和町	貴錦	非病原性要因
アスパラガス	2022/2/7	諫早市小野島町	ウェルカム	ミカンキイロアザミウマ
マーガレット	2022/2/27	諫早市小ヶ倉町	ストロベリーホイップ	根頭がんしゅ病
トマト	2022/2/8	西彼杵郡川棚町	華美	非病原性要因
ばれいしょ	2022/2/9	雲仙市南串山町	アイマサリ、サンジユウマル	非病原性要因
ブロッコリー	2022/2/8	中央干拓	クリア他	非病原性要因
スターチス	2022/2/9	雲仙市吾妻町	アルテミスピンク	萎凋細菌病
いちご	2022/2/25	西海市西彼町	ゆめのか	不明
たまねぎ	2022/2/28	諫早市小野島	レクスター	べと病
たまねぎ	2022/2/28	諫早市小船越町	アイリン(極早生)	べと病
いちご	2022/3/3	西海市西彼町	ゆめのか(本圃)	ネグサレセンチュウ
ブロッコリー	2022/3/7	雲仙市吾妻町	-	非病原性要因
小麦	2022/3/10	波佐見町	チクゴイズミ	非病原性要因
にんじん	2022/3/10	諫早市中央干拓	オランジェ	非病原性要因
トルコギキョウ	2022/3/16	琴海町長浦	セレブアプリコット	立枯病
ばれいしょ	2022/3/16	諫早市飯盛町	メークイン	黒あざ病
もも	2022/3/25	南島原市西有家町	さくひめ(ハウス)	非病原性要因
かんしょ	2022/3/22	諫早市黒崎町	-	不明

表1 年間診断依頼件数の推移

年	依頼件数	対前年比(%)
H 3	187	
H 4	160	86
H 5	144	90
H 6	207	144
H 7	255	123
H 8	286	112
H 9	313	109
H 10	334	107
H 11	272	81
H 12	428	157
H 13	521	122
H 14	406	78
H 15	499	123
H 16	563	113
H 17(1~3月)	53	
H 17年度	528	
H 18年度	562	106
H 19年度	520	93
H 20年度	481	93
H 21年度	459	95
H 22年度	472	103
H 23年度	434	92
H 24年度	524	121
H 25年度	550	105
H 26年度	622	113
H 27年度	479	77
H 28年度	476	99
H 29年度	424	89
H 30年度	305	72
H 31年度	247	81
R 1年度	265	107
R 2年度	206	78
R 3年度	206	78

H3～H16：暦年として集計

表2 月別依頼件数

月	件数	割合(%)
4	14 (16)	6.8
5	14 (29)	6.8
6	15 (22)	7.3
7	13 (24)	6.3
8	21 (23)	10.2
9	33 (26)	16.0
10	37 (30)	18.0
11	17 (19)	8.3
12	13 (19)	6.3
R4.1	12 (18)	5.8
2	9 (9)	4.4
3	8 (12)	3.9
計	206 (247)	100

()：前年

表3 依頼者区分別件数 (R3年4月～R4年3月)

区 分	件数	割合(%)
1 個人	36	17.5
2 振興局	65	31.6
3 農産園芸課技術普及班	0	0
4 その他県機関	1	0.5
5 農業協同組合	80	38.8
6 農業共済組合	0	0
7 全農ながさき	5	2.4
8 市町	0	0
9 民間機関	19	9.2
10 その他	0	0
計	206	100

表4 作物別依頼件数 (R3年4月～R4年3月)

作物	件数	割合(%)
1 普通作	17	8.3
2 野菜(ばれいしょ含む)	146	70.9
3 花き、緑花木、シバ等	24	11.7
4 果樹	19	9.2
5 茶	0	0
6 その他	0	0
計	206	100

表5 病害虫区分別件数 (R3年4月～R4年3月)

区 分	件数	割合(%)
1 病害	93	45.1
2 害虫(センチュウを含む)	24	11.7
3 薬害	0	0
4 衛生害虫	2	1.0
5 非病原性要因(生理障害、他)	55	26.7
6 不明	32	15.5
計	206	100

表6 病原体種類別件数 (R02年4月～R03年3月)

区 分	件数	割合(%)
1 糸状菌	43	54.4
2 細菌(放線菌を含む)	29	36.7
3 ファイトプラズマ	0	0
4 ウイルス	7	8.9
計	79	100

農薬安全使用対策事業(令和3年度)

1 農薬安全対策推進及び農薬危害防止等対策事業

(1) 農薬の適正使用・危被害防止に関する協議、研修及び指導

ア 農薬による危被害防止及び適正・安全使用等について農業者、農業団体、関係機関及び農薬販売者等へ研修、指導、助言を行った。

イ 研修会、協議会等の参加及び指導実績

項目	時期(開催場所)	内容	対象者(人数)
農薬安全対策講習会	12月6日 WEB会議 (長崎市他 県下6会場)	・「農薬の安全・適正使用と 危害防止」及び「農薬適正 使用」 ・ゴルフ場における農薬安 全使用及び農薬販売につい て ・毒物・劇物の取扱について ・クロルピクリンの安全使用 について ・新安全防除運動について ・農薬安全使用一声運動に ついて ・当面の病害虫防除対策に ついて	市町、農薬販売業者、 造園業者、農協職員、 ゴルフ場農薬取扱担当 者等 247名
作物保護に関する講義	4月16日~5月28日 (5回) (諫早市)	・農作物被害を引き起こす 病害虫の基礎的な理論、作 物保護の方策と技術につい て	農業大学校学生 30名
農薬に関する講義	5月28日、6月3日 (諫早市)	・農薬行政、農薬取締法、関 係法令、農薬の一般知識、 農薬のリスクと安全性評 価、農薬の安全・適正使用、 安全使用のための知識、使 用上の諸注意、飛散防止対 策等について	農業大学校学生 30名
作物保護に関する実験	7月8日、9日 (諫早市)	・水稻並びに果樹における 病害虫の生態、特徴、観察 法、防除法等作物保護に必 要な実験	農業大学校学生 30名
新規就農予定者病害虫 防除・農薬適正使用研修	1期生 7月21日 2期生 11月10日 (諫早市)	・病害虫防除、農薬の基礎、 農薬の安全・適正使用につ いて	新規就農予定者 38名 (1期生24名、2期生 14名)

営農指導員農薬適正使用研修	8月31日 (長崎市)	・農薬の基礎、農薬の安全・ 適正使用について	営農指導員 13名
農薬管理指導士養成 及び更新研修	養成研修:12月17日 更新研修:12月6日 (長崎市他 県下6会場)	・農薬の安全使用、危被害 防止対策について	農薬管理指導士 新規予定者 26名 更新者 176名
みつばち連絡協議会		・農薬散布等による みつばち事故防止について	養蜂組合、耕種農家、 関係機関 18機関
農業技術協議会(病害 虫・植物調整剤部門)	11月17～19日 Web会議	・防除基準化する病虫害防 除技術、農薬の安全性等の 検討	JA全農長崎、農薬販 売協同組合、県 61名
病虫害防除暦作成検討 会	10～12月 (各地)	・病虫害の発生状況、防除 対策、農薬選定及び農薬の 適正使用	各地域農業振興協議 会等
農薬販売者・大口使用者 立入検査	R3年度(県内)	・農薬販売業者、大口使用 者に対する指導取締	農薬販売業者 94者 ゴルフ場 6者

植物検疫事業

1 重要病害虫侵入警戒調査事業

(1)ミバエ類等侵入警戒調査事業

1) 調査方法

- (1) 調査時期 ミカンコミバエ種群、ウリミバエ、チチュウカイミバエ：4～11月
アリモドキゾウムシ：6～10月
(五島市のアリモドキ調査は、6～9月)
- (2) 調査回数 ミバエ類：毎月2回
アリモドキゾウムシ：毎月1回
- (3) トラップの種類 ミバエ類誘引トラップ(スタイナー型)
アリモドキゾウムシ誘引トラップ(ロート型)
- (4) 誘引剤の種類 ミカンコミバエ種群、ウリミバエ：ユーゲルアD8
チチュウカイミバエ：メドフライコール
アリモドキゾウムシ：ルアー
(アリモドキゾウムシ用)
- (5) 誘引剤の交換 毎月1回

2. 実施結果

初動防除によるトラップ増設分において、ミカンコミバエ種群が、令和3年5月25日に再誘殺された。それ以降、ミカンコミバエ種群誘殺が相次いだため、ミカンコミバエ種群を対象として調査密度を拡充するため、新たに11地点にトラップを追加し、合計20地点で調査を行った。なお、追加調査トラップの設置は、6月に8地点、7月に1地点、10月に2地点を増設した。調査の結果、通常調査では4地点から8頭(表1)、追加調査では3地点から3頭が誘殺された(表2)。

ウリミバエ、チチュウカイミバエ及びアリモドキゾウムシは、誘殺されなかった(表1)。

追加調査のトラップにおいても、ウリミバエ、チチュウカイミバエは誘殺されなかった(表2)。

表1 ミバエ類等侵入警戒調査結果(通常調査2021年)

NO	設置場所	誘殺数			
		ミカンコミバエ種群	ウリミバエ	チチュウカイミバエ	アリモドキゾウムシ
1	南島原市 口之津町 旧口之津総合支所	0	0	0	—
2	諫早市 多良見町 JAながさき西彼南部営農経済センター	5	0	0	—
3	諫早市 小船越町 農林技術開発センター病害虫発生予察室	0	0	0	—
4	大村市 鬼橋町 農林技術開発センター果樹・茶研究部門	2	0	0	—
5	東彼杵郡 東彼杵町 東彼杵町役場	1	0	0	—
6	長崎市 西海町 農業共済組合西彼杵支所	0	0	0	—
7	西海市 西彼町 JAながさき西彼 西彼統括支店	0	0	0	—
8	佐世保市 広田 全農ながさき県北広域物流センター	0	0	0	—
9	五島市 福江町 五島振興局農業振興普及課	0	0	0	—
10	島原市 深江町	—	—	—	0
11	〃	—	—	—	0
12	西海市 大多和	—	—	—	0
13	〃	—	—	—	0
14	諫早市 貝津町	—	—	—	0
15	〃	—	—	—	0
16	五島市 堤町	—	—	—	0
17	〃	—	—	—	0
	合計	8	0	0	0

「—」:調査対象外

表2 ミバエ類等侵入警戒調査結果（追加調査2021年）

NO	設置場所	誘殺数		
		ミカコミバエ種群	ウリミバエ	チチュウカイミバエ
1	雲仙市 愛野町 農林技術開発センター中山間営農研究室	0	0	0
2	雲仙市 国見町 JA島原雲仙北部基幹営農センター	0	0	0
3	島原市 西八幡町 島原振興局農林水産部敷地内	0	0	0
4	南島原市 有家町 JA島原雲仙東部営農基幹センター	0	0	0
5	長崎市 宮崎町 JA長崎せいひ三和支店・川原びわ集出荷場	1	0	0
6	西海市 大瀬戸町 西海市役所コミュニティセンター	1	0	0
7	松浦市 志佐町 JAながさき西海松浦営農経済センター	0	0	0
8	平戸市 紐差町 JAながさき西海平戸経済センター	0	0	0
9	佐世保市 吉井町 県北振興局農林部敷地内	1	0	0
10	佐世保市 針尾中町 JAながさき旧針尾支店	0	0	0
11	壱岐市 芦辺町 壱岐振興局農業振興普及課敷地内	0	0	0
	合計	3	0	0

(2) スイカ果実汚斑細菌病侵入警戒調査

ア. 調査方法

生育期の調査は、収穫期の茎葉およびほ場に残された果実について病徴の有無について目視による調査を行った。

育苗期の調査は、スイカ等ウリ科植物(台木含む)を対象に茎葉の病徴の有無について目視による調査を行った。

イ. 調査結果

1) 生育期調査

令和3年6月11日 長崎市 4ほ場 計1,140株

令和3年6月28日 長崎市 1圃場 計 100株

生育期の調査において本病および類似症状の株は確認されなかった。

2) 育苗期調査

令和4年1月27日 諫早市 スイカ苗 6品種 11,008本

メロン苗 12品種 47,669本

大村市 スイカ苗 6品種 19,325本

メロン苗 1品種 1,320本

育苗期の調査において本病の苗は確認されなかった。

ウ. 病害診断

スイカ等ウリ科での茎葉および果実の疑似症状の病害虫診断はなかった。

(3) ウメ輪紋ウイルス(プラムポックスウイルス; PPV)の県内発生状況調査

ア. 調査方法

病徴は目視による確認を行うとともに、調査区あたり5樹から各5葉を採取し、農林水産省門司植物防疫所に送付してPPVの保毒の有無を検定した。なお、調査および検定は門司植物防疫所、振興局、農産園芸課の協力を得て行なった。

イ. 調査結果

見取り調査では一部に部分的退緑症状も認められたが、植物防疫所で実施したPPVウイルス検定の結果は全て陰性であった。

表1 調査結果

調査年月日	調査園地の所在地			調査植物		面積(a)	植栽本数	症状種類
	調査区域番号	市町村名	住所	植物種名	品種名			
R3.5.11	1	五島市	五島市上大津町	ウメ	不明	1	5	一部退緑
R3.5.11	2	五島市	五島市下大津町	ウメ モモ スモモ アーモンド	南高(ウメ) 他不明	20	100	一部退緑
R3.5.11	3	壱岐市	壱岐市勝本町	ウメ	不明	15	10	一部退緑

表2 検定結果(検定実施機関:門司植物防疫所 令和3年5月14日)

植物の種類	調査区域数	送付試料	イムノクロマト法/ エライザ法 陽性数	PPV感染試料数
ウメ	3	15	0	0

(4)キウイフルーツかいよう病(Psa3 系統)発生状況調査

ア. 目的

平成 26 年度に国内のキウイフルーツ生産地において、本邦未確認であったキウイフルーツかいよう病の新系統 (Psa3 系統) による甚大な被害が報告され、植物防疫上の重要な問題となっている。本県でも H28 年に 1 園地で発生を確認しており、すでに防除対策 (抜根) 作業が行われている。本年度は過去の発生園地および同一園主の園を対象に、本病の発生状況を調査する。

イ. 調査方法

佐世保市 (6 月 29 日) のキウイフルーツ園計 2 園地について見取り調査を行い、本病の発生状況を目視により確認した。

ウ. 調査結果

調査園の見取り調査の結果、いずれの園においても、擬似症状は確認されなかった。

表1 キウイフルーツかいよう病発生状況調査

No.	調査年月日	園地	品種名	植栽 本数	発生状況			
					枝枯	樹液漏出	葉斑点	その他
1	R4.6.29	佐世保市1	ハイワード	15	-	-	-	-
2	R4.6.29	佐世保市2	ゴールドンイエロー	12	-	-	-	-

- : 未確認

(5) トマトキバガの侵入警戒調査

1. 調査方法

1) フェロモントラップの設置数および調査期間

冬春トマト栽培圃場 2地区(4か所) 令和4年2月～令和4年6月

ばれいしょ圃場 6地区 令和4年3月～令和4年6月

調査間隔: 毎月2回誘殺の有無を確認した。

トラップの種類 SETラップ 誘引剤の交換 毎月1回

2) 発生状況調査

フェロモントラップへの誘殺により本虫の発生が確認された市町において、寄主植物を栽培している農家戸数の10%を目安に抽出した圃場について発生状況を調査した。

2. 調査結果

令和4年3月25日に雲仙市、南島原市に設置したフェロモントラップに初誘殺を確認し、3月29日には西海市においても誘殺が確認された。その後も断続的に誘殺が確認され、令和4年6月末までの累計は120頭であった。

初誘殺が確認された地区で実施した発生状況調査ではトマトキバガの被害は確認できなかった。

表 令和3年度トマトキバガトラップ調査結果

NO	場 所		設置日	トラップの調査結果(誘殺数)				
				3月	4月	5月	6月	計
1	ト マ ト	大村市 トマトハウス周辺	2月18日	0	0	1	0	1
2		大村市 トマトハウス周辺	2月18日	0	0	0	0	0
3		南島原市 トマトハウス周辺	2月18日	0	0	3	5	8
4		南島原市 トマトハウス周辺	2月18日	0	1	15	10	26
5	ば れ い し ょ	西海市西海町 農作業倉庫	3月3日	1	1	2	4	8
6		JA長崎県央 馬鈴薯選果場	3月7日	0	0	5	0	5
7		JA島原雲仙 愛野特産センター	3月7日	0	0	3	2	5
8		JA島原雲仙 小浜特産センター	3月7日	1	3	20	12	36
9		JA島原雲仙 南串山馬鈴薯選果場	3月7日	0	1	8	4	13
10		JA島原雲仙 加津佐馬鈴薯センター	3月7日	1	0	8	9	18
				合計				120

2 ジャガイモシストセンチュウ発生範囲特定調査

1) 調査方法(土壌検診)

- (1) 調査時期 秋作終了後
- (2) 調査場所 南島原市北有馬町
- (3) 調査地点 北有馬町2件 2圃場
- (4) 土壌採取 令和3年2月21日
- (5) 土壌採取方法 8歩×8歩法
- (6) 検定方法 カップ法(1区4反復)
- (7) 同定方法 形態的特徴の観察

2. 実施結果

土壌検診(カップ法)においてジャガイモシストセンチュウの発生は確認できなかった。

難防除病害虫防除技術確立事業

1 トマト黄化葉巻病防除技術確立事業

トマト黄化葉巻病対策における新たな資材を組み合わせた防除技術の実証

1. 試験の目的

トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) はトマトの安定生産を脅かす最も重要な病害である。このウイルスを媒介するタバココナジラミの防除やウイルスに耐病性を示す品種の導入など、複数の技術を組み合わせた総合的な対策が必要である。防除対策として耐病性品種の栽培が広がっており、媒介虫であるタバココナジラミの防除が軽減される傾向がある。また、近年、タバココナジラミは既存の化学合成農薬に対する抵抗性を発達させており、既存の防除体系では効果が不足するため新たな防除技術の導入が必要となってきた。

そこで、既存の化学合成農薬の使用量削減を目指して、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 「次世代農林水産業創造技術」の支援で行われた研究の成果をもとに新たな資材を用いた防除体系の実証を目指す。

2. 試験方法

1) 対象作物・作型 トマト 冬春 (10月定植)

2) 試験場所 大村市

3) 協力機関 県央振興局大村・東彼地域普及課、技術普及・高度化支援班、全農長崎

4) 耕種概要 品種：かれん (サカタ種苗耐病性品種) 定植：R3年10月20日

栽植密度：株間 40 cm 畝間 150cm

5) 区制・面積 1区1ハウス (2連棟) 面積 6 a / 区

6) 試験区の構成

	試験区	慣行区
防虫ネット	サイド：農家慣行 (0.4mm) 谷：サンサンネットクロスレッド (0.6mm)	農家慣行 サイド：0.4mm 谷：4 mm
育苗期後半 (定植 1 ~ 2 日前) 粒剤処理	農家慣行	農家慣行
有効薬剤による体系防除	ベミデタッチ乳剤 (忌避剤) 定植時散布後 2 週間おきに散布 (発生状に応じて 1 月末まで)	農家慣行
黄色粘着版の設置	エッジ色彩粘着板 (ラスボス R) 4 m ² / 枚 (250 枚 / 10a)	農家慣行 IT シート

7) 調査方法

(1) コナジラミ類発生状況調査

各区 30 株 (連続 10 株 × 3 カ所) の上位、中位および下位葉の各 1 複葉、計 90 複葉についてコナジラミ類の成幼虫を約 14 日間隔で調査した。あわせて、調査ヶ所に設置してあるエッジ色彩粘着版 (ラスボス R) を調査時に交換を行い、誘殺したコナジラミ類成虫数を計数した。

(2) コナジラミ類野外発生活長および侵入状況調査

黄色粘着板 (IT シート：10 × 10cm) をハウス外側 (サイド両側)、ハウス内部 (谷部中央) に各 1 枚、計 3 枚設置し誘殺したコナジラミ類成虫数を約 14 日間隔で計数した。

(3) 黄化葉巻病調査

発生の有無を 300 株について、コナジラミ類の発生調査に合わせて見取りによる累積調査を行った。

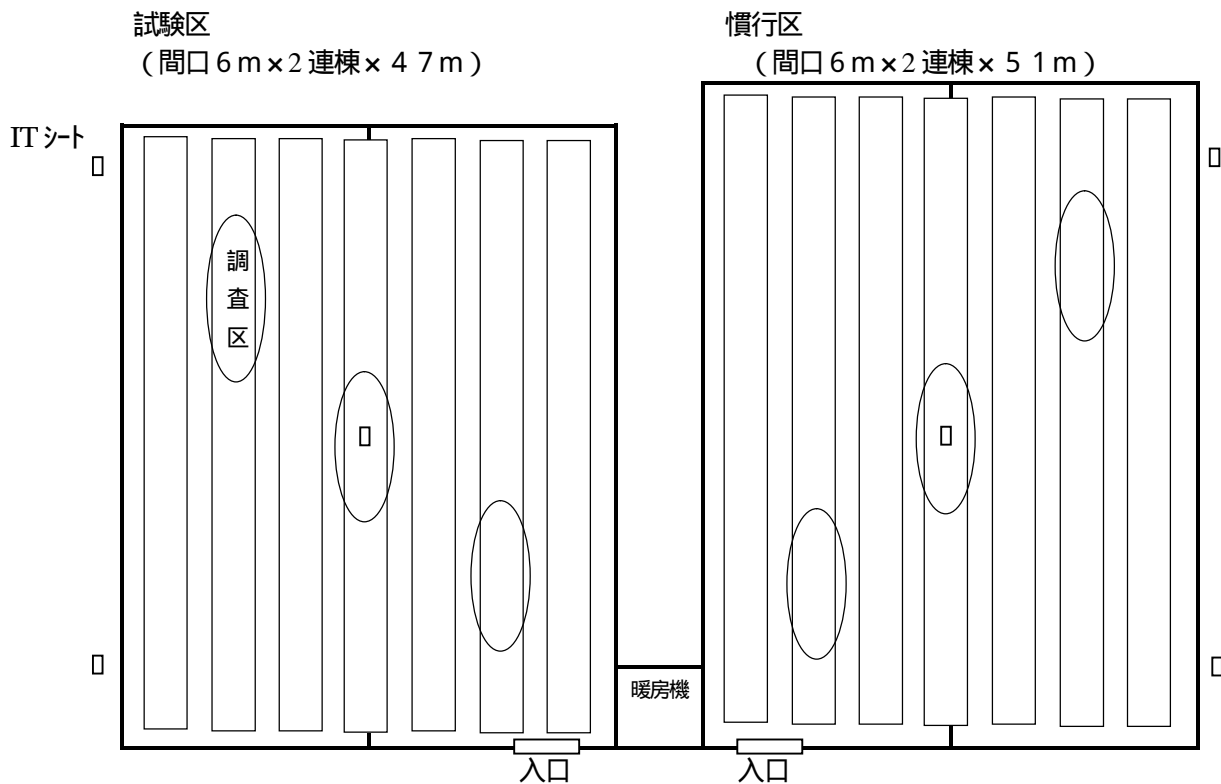
試験区薬剤散布実績

定植時（10月19日）：粒剤（農家慣行）+ベミデタッチ乳剤500倍（100~300L/10a）

定植後概ね2週間間隔でベミデタッチ乳剤500倍（100~300L/10a）を散布した。

- 2週間後（11月4日）
- 4週間後（11月18日）
- 6週間後（12月1日）
- 8週間後（12月17日）
- 10週間後（12月30日）
- 12週間後（1月13日）
- 14週間後（1月25日）

【圃場図】



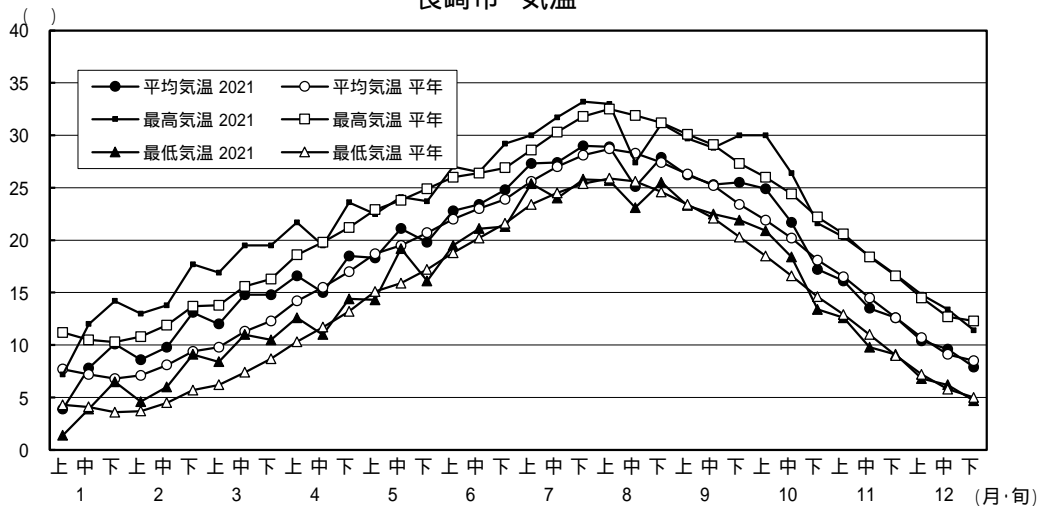
3. 試験結果の報告等

- ・試験圃がある地区の生産部会を対象に実証技術の資材の一つであるベミデタッチの効果について周知し、当該産地における実証技術の普及を図った。

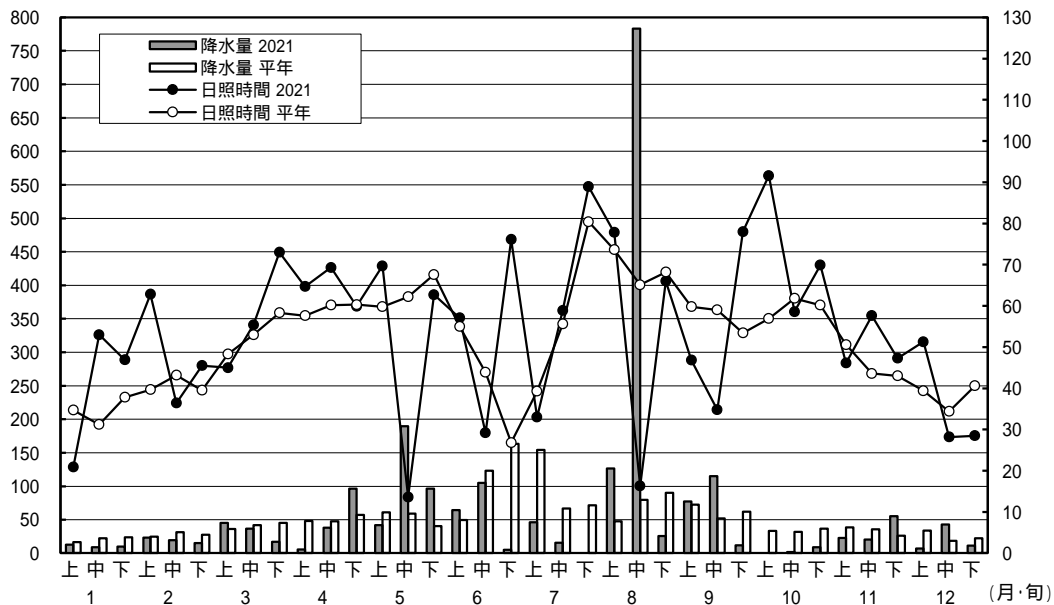
令和3年長崎地方気象台・農林技術開発センターの気象表

(長崎地方気象台)

長崎市 気温

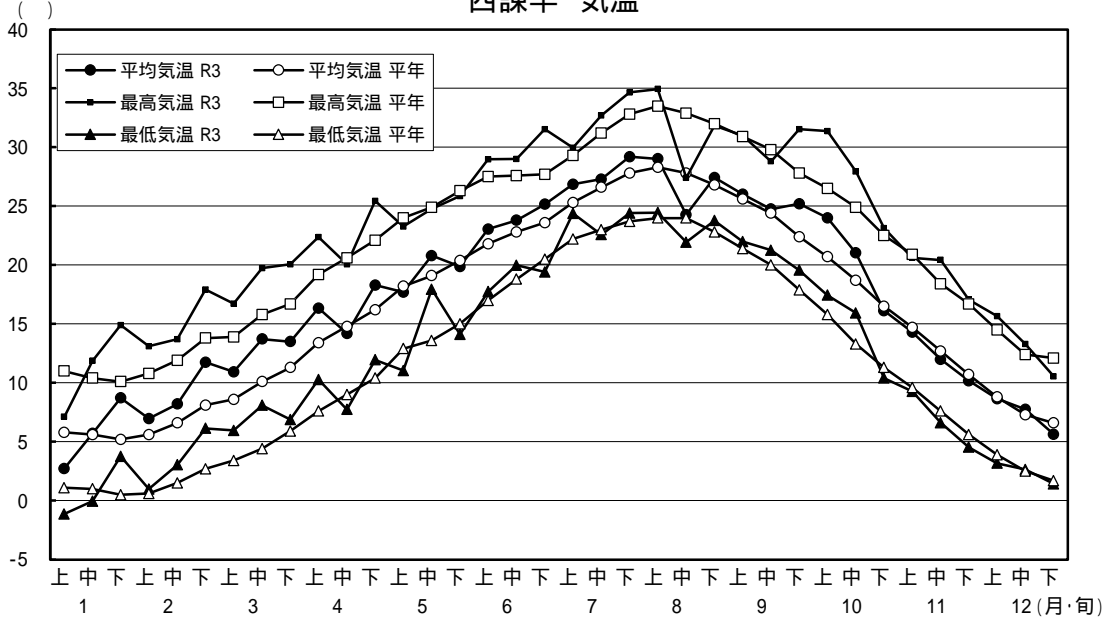


長崎市 降水量と日照時間



(農林技術開発センター)

西諫早 気温



西諫早 降水量と日照時間

